国文学演習（2）a・b

久保朝孝

【授業の概要】

平安時代を範囲とし、おもに物語・日記文学を対象とする。中古文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。

作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成したい。

【授業計画】

毎回、以下の手順に従って『土佐日記』を精読する。

（1）担当者の報告・発表
（2）質疑応答
（3）批判討論
（4）助言

【評価方法】

出席状況、上記（1）（2）（3）及び期末レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

影印本　土佐日記（萩谷朴編　新典社　800円 税別）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学演習（3）a・b

岩下紀之

【授業の概要】

書陵部蔵賦物連歌の講読。

【授業計画】

出席者に調査発表を課する。

【評価方法】

日常の研究成果による。

【テキスト】

教員が用意する。

国文学演習（4）a・b

山下宏明

【授業の概要】

『平治物語』を読む。この作業を通して、物語テクストの読み方を訓練する。

【授業計画】

始めに研究史を展望し、課題の所在を確認する。

第一類本と第四類本の比較に、いくさ物語生成の実態把握につとめ、

その表現としての「語り」を文体の課題としてとらえ、解読の方法を指導する。

【評価方法】

各期のレポートにより判定する。

【テキスト】

新日本古典文学大系　保元・平治物語・承久記（岩波書店）
日本古典文学大系　保元物語・平治物語（岩波書店）

国文学演習（5）a・b

阿部一彦

【授業の概要】

井原西鶴の『世間胸算用』を影印本で解読し、鑑賞して行く。

【授業計画】

第1回　西鶴の文学的生涯について。
第2回　　以下、受講者の分担により読んで行く。
第3回
第4回
第5回
第6回
第7回
第8回
第9回
第10回
第11回
第12回　『世間胸算用』の研究史と論点

【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

【テキスト】

影印本『世間胸算用』（興津要編著　おうふう）

国文学演習（6）a・b

小倉 斉

【授業の概要】

＜短篇小説の方法―作品をどう読み、どう論ずるか―＞

日本の近・現代を代表する短篇小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

【授業計画】

＜前期＞
1『にごりえ』（2回）
2『少女病』（2回）
3『半日』（2回）
4『サラサーテの盤』（2回）
5『焼跡のイエス』（2回）
6『百萬圓煎餅』（2回）
7『風流夢譚』（2回）

＜後期＞
1『だらだら坂』（2回）
2『摩天楼』（2回）
3『陽気な夜回り』（2回）
4『幼児狩り』（2回）
5『木の箱』（2回）
6『無情の世界』（2回）
7『レキシントンの幽霊』（2回）

【評価方法】

レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などによる。

【テキスト】

〈前期〉：にごりえ（樋口一葉　プリント）、少女病（田山花袋　プリント）、半日（森鷗外　プリント）、東京日記（内田百閒　岩波文庫）、焼跡のイエス（石川淳　プリント）、百萬圓煎餅（三島由紀夫　プリント）、風流夢譚（深沢七郎　プリント）

〈後期〉：横しぐれ（丸谷才一　講談社文芸文庫）、夢の中での日常（島尾敏雄　角川文庫）、木犀の日（古井由吉　講談社文芸文庫）、幼児狩り（河野多恵子　プリント）、ピクニック、その他の短編（金井美恵子　講談社文芸文庫）、無情の世界（阿部和重　プリント）、戦後短篇小説再発見６変貌する都市（講談社文芸文庫）

国文学演習（7）a・b

都築久義

【授業の概要】

近代作家の著名な作品を毎回とりあげて講義する。

【授業計画】

履修者の発表、出席者の質疑、討議を中心に授業を展開する。

【評価方法】

平常の学習態度

【テキスト】

毎時決める

国文学演習（8）a・b

増井典夫

【授業の概要】

近代日本語研究のありかたを考える。まずは安田敏朗の著作を読み、考える所から始める。

【授業計画】

講義及び出席者の調査発表で進める。

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

脱「日本語」への視座（安田敏朗　三元社）

その他は授業時の指示による。

国文学特講（2）a・b

久保朝孝

【授業の概要】

平安時代を範囲とし、おもに物語・日記文学を対象とする。中古文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。

作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成したい。

【授業計画】

毎回、以下の手順に従って『とりかへばや物語』を精読する。

（1）担当者の報告・発表
（2）質疑応答
（3）批判討論
（4）助言

【評価方法】

出席状況、上記（1）（2）（3）及び期末レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。各自使いやすいテキストを用意すること。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学特講（3）a・b

岩下紀之

【授業の概要】

雨夜の記の講読。

【授業計画】

出席者に調査発表を課する。

【評価方法】

日常の研究成果による。

【テキスト】

教員が用意する。

国文学特講（4）a・b

山下宏明

【授業の概要】

〈文学研究と批評〉作品批評のために、時代やジャンルを越えて研究の方法を検討する。

入学者は、各自の専攻を有し、論文をも執筆している。それぞれの成果が、現在の学会において、いかなる位置を占め、いかなる意味があるかを考えるべきで、たえず批評史の課題として相対化しなければならない。

そのための研究や批評の錬磨に努め、歴史的な展望が必要である。必要に応じて批評史の展望をも概説し参考に提供する予定である。

【授業計画】

前期には、まず各自の、これまでの研究経過の報告を求め、あわせて、その研究史上の位置や意味を考えさせる。必要に応じて、批評の方法を指導する。

後期には、各分野の注目すべき論文や著書を紹介し、読解を行うことを課す。時に、具体的な作品を取り上げ、その解読をも平行して行う。

【評価方法】

出席状況と、各期のレポートにより判定する。

【テキスト】

最低の必読文献として、次のものがある。

文学とは何か（T・イーグルトン　岩波書店）

新文学入門（大橋洋一　岩波書店）

新しい文学のために（大江健三郎　岩波新書）

物語のデイスコース（ジェラール・ジュネット　風の薔薇社）

その他、各種学会誌の論文コピー

国文学特講（5）a・b

阿部一彦

【授業の概要】

『連句文芸の流れ』を使用し、以下の授業計画に従って、「連句文芸」の変遷と本質について学んで行く。

【授業計画】

第１回　連歌の発生
第２回　短連歌から長連歌へ
第３回　初期の長連歌
第４回　地下の連歌
第５回　つくば集から新撰つくば集へ
第６回　室町俳諧
第７回　連歌の固定
第８回　貞門俳諧
第９回　守武流の流行
第10回　漢詩文調の流行と芭蕉
第11回　蕉風俳諧と元禄俳壇
第12回　雑俳の成立と展開

【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

【テキスト】

連句文芸の流れ（櫻井武次郎著　和泉書院）

国文学特講（6）a・b

小倉 斉

【授業の概要】

＜物語の行方―怪談・奇談を中心に―＞

近代日本の怪談・奇談の系譜をたどることを通して、近代における「物語」の変容を考察する。基本的な観点は、「近代（モダン）」を「プレ・モダン」の側から眺めることにあり、眺めるわれわれは「ポスト・モダン」の立場に立っているということにも意識的・自覚的でありたい。

【授業計画】

＜前期＞
1　序章
2　＜牡丹燈籠＞物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」
3　「神経」の成立
4　ラフカディオ・ハーンの「物語」
5　『夜窓鬼談』の世界
6　『夜窓鬼談』の継承者たち―田中貢太郎・澁澤龍彦―
＜後期＞
1　怪異譚の時空間―漱石・科学・時間―
2　妖異の絵図―泉鏡花の物語世界―
3　幸田露伴と怪談
4　芥川龍之介と怪談
5　現代のホラー小説ブームの意味
6　日本的近代と「物語」

【評価方法】

授業への参加状況、発表およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期〉：牡丹燈籠（三遊亭圓朝　岩波文庫）、怪談・奇談（小泉八雲　講談社学術文庫）、夜窓鬼談（石川鴻斎著 小倉斉・高柴慎治訳註　春風社）、田中貢太郎 日本怪談事典（東雅夫編　学研M文庫）、日本怪談大全Ⅱ・幽霊の館（田中貢太郎　国書刊行会）、ねむり姫（澁澤龍彦　河出文庫）、うつろ舟（澁澤龍彦　福武文庫）

〈後期〉：倫敦塔・幻影の盾 他五編（夏目漱石　岩波文庫）、高野聖・眉かくしの霊（泉鏡花　岩波文庫）、鏡花短編集（泉鏡花　岩波文庫）、観画談・怪談・土偶木偶（幸田露伴　プリント）、妖婆・アグニの神（芥川龍之介　プリント）、夜啼きの森（岩井志麻子　角川ホラー文庫）

国文学特講（7）a・b

都築久義

【授業の概要】

近代作家の著名な作品を毎回とりあげて講義する。

【授業計画】

作家・作品ごとに発表者を決め、発表をもとに討議する。

【評価方法】

平素の学習態度を中心に評価する。

【テキスト】

特に定めず。

国文学特講（8）a・b

増井典夫

【授業の概要】

日本語研究のありかたを考える。まずは、ましこひでのりの著作を読み、考えることから始める。

【授業計画】

講義及び出席者の調査発表で進める。

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

増補新版　イデオロギーとしての日本　「国語」「日本史」の知識社会学（ましこひでのり　三元社）

その他は授業時の指示による。

特殊研究（3）日本古典書誌学Ⅱa・b

藤井奈都子

【授業の概要】

日本古典書誌学Ⅰで、形態書誌学の範囲で古典籍たる写本、刊本の資料としての取扱いに必要な講義を行なっているのに対して、このⅡでは日本古典研究に必要な、書籍の形以外の古典文学資料である。和歌・連歌・俳諧の懐紙、詠草、色紙、短冊。消息及び古筆切などについて、その起源、変遷、様式を考察研究する。実物資料を提示し、触れることにより、理解し、鑑識を多少とも養ってもらうように進める。古典研究者として必要であるのみならず、研究者が一般人から教示を求められる知識として必要なものである。

【授業計画】

○和歌懐紙
・起源と各時代著名懐紙。　・書式。　・略懐紙。
○詠草懐紙形
○連歌・俳諧懐紙
・発生と変遷。　・種類。　・書式。
○色紙形と色紙
・起源と変遷。　・和歌の書式。　・俳句の書式。
○短冊
・起源より和歌料紙となるまで。　・極初期。
・前期。　・中期。　・後期。
○消息
・真名消息と仮名消息。　・料紙。　・礼紙と封紙及び封。　・宛と署名。
・内容本文
○古筆切
・成立。　・鑑賞方法。　・鑑定。　・範囲種類。　・国文学研究と古筆切。

【評価方法】

学生の希望も聴いて、テスト、レポートなど決定するが、出席は重視する。

【テキスト】

特に使用しない。

特殊研究（4）中国文学Ⅰa・b

寺尾 剛

【授業の概要】

受講生と相談の上、決定したい。漢文読解能力と資料調査能力の向上を主たる目的としたい。ちなみに平成十五年度は『三国志』『楊太真外伝』を読んだ。

【授業計画】

『史記』『漢書』『白氏文集』『蒙求』など、あるいは日本漢文（『菅家文草』『本朝文粋』『和漢朗詠集』など）でもよい。

【評価方法】

平常点及びレポート

【テキスト】

プリント及び授業中に指示

特殊研究（5）中国文学Ⅱa・b

寺尾 剛

【授業の概要】

1．国文学研究に必要な漢文知識を養う。
2．日中比較の視点を養う。
3．中国文献の取り扱い方を養う。

【授業計画】

受講者の希望に沿う。

平成十三、十四、十六年度は『和漢朗詠集』所収の白居易の作品を輪読した。平成十五年度は『三国志』『史記』などを読んだ。

【評価方法】

平常点及びレポート。

【テキスト】

未定。

翻訳論（英語論文作法）a・b

EASLEY, Keith

【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

比較文学研究a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

比較文学の定義と本質
日本における *The Waste Land* の受容
T.S.エリオットと立原正秋
共同体と個性の文学
T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

T.S.エリオットとベルグソン
形而上詩人のアルス・ポエテイカ
芸術作品の創造と伝統の継承
Spectrum に見る西脇詩の原型
T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。

受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠　晃学出版　2,200円）

英文学演習Ⅰa・b

久野幸子

【授業の概要】

英国ヴィクトリア朝前半期の女性作家シャーロット・ブロンテの作品世界を考察する。初期作品から、詩、絵画、書簡も含め、全作品について考察したいと考えている。エミリやアンの作品にも言及する予定である。

【授業計画】

テキストとしては、『ヴィレット』を使用する。

【評価方法】

平常点（出席、受講態度など）とレポートで総合的に評価する。

【テキスト】

他にプリント教材を使用する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英米文学演習a・b

山田幹郎

【授業の概要】

英国ルネサンス文芸批評研究。

【授業計画】

英国における文芸批評の源流をなすルネサンス期テキストの演習。
今年度はPhilip Sidneyの詩論を主に扱う。

【評価方法】

平常点とレポートによる。

【テキスト】

Sir Philip Sidney, *An Apology for Poetry*, 3 rd Edition by R. W. Maslen (Manchester U.P., 2002) ペーパーバックス。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

英語学演習Ⅰa・b

樗木勇作

【授業の概要】

最近の統語論を中心とした英語学のトピックについて議論し、さまざまな論文を取り上げ、英語の言語現象に対して多角的な分析や考察ができるようになることを目標とする。

【授業計画】

1　英語統語論の基本事項
2　ミニマリストプログラムなど最近の枠組みについての紹介
3　コーパスを使用した言語研究の入門
4　CHILDESを使用した言語獲得研究の入門
5　映画やインターネットの英語の分析

1－5を随時行う。

【評価方法】

レポート＋平均点（出席・授業態度）

【テキスト】

未定

英語学演習Ⅲa・b

中野弘三

【授業の概要】

英語の文の意味分析をテーマとして、発話の場における文の意味分析を行うとともに、文の意味と文脈（場面）の関係を語用論的に考察する。

【授業計画】

前期は文の意味の階層的分析に関する最近の論文を講読し、文の意味構造を考察する。それと同時に文の意味と統語構造の関係を検討する。

後期は文の意味の語用論的分析に関する論文を講読し、発話の場で発話された文の意味、特に、発話行為、文脈（場面）との関連から生じる含意など、文の意味解釈に関わる語用論上の問題を検討する。

【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点を加味して評価する。

【テキスト】

英語の文の意味的、語用論的分析に関する論文のコピーを使用する。

【参考文献・資料】

Semantics (2000　Kate Kearns　Macmillan Press)
Semantics (2 nd Edition　2003　John I. Saeed　Blackwell)
Doing Pragmatics (2 nd Edition　2000　Peter Grundy　Arnold)
Pragmatics (1996　George Yule　Oxford University Press)

英文学特講（2）a・b

大野光子

【授業の概要】

アイルランド文学・文化研究。前年度に引き続いて、「複眼で見るケルト文化」をテーマに、ブリテン島の中でも、特にアイルランドとイングランド間の「ケルト」に対する見方、語り方の差異を検証する。ヴィクトリア朝時代以後現代までの、ケルト人や文化に関するそれぞれの地域の文学やメディア表現を分析し、比較する作業を通して、「ケルト」受容・評価の相違点/類似点/変遷を明らかにする。

【授業計画】

前期には、「ケルト」研究のテキスト講読とともに、ブリテン島の文化・社会史を概観する。

後期には、「ケルト」の「リサイクル」の具体例として、ヴィクトリア朝時代以後現代までの文学や絵画、ポピュラー・メディア表現の作品等を吟味し、比較検討する作業を中心に置く予定である。

【評価方法】

出席と平常点およびレポートによる。

【テキスト】

テキストは教室にて指示する他、プリント使用。

英文学特講（3）a・b

柳原佳枝

【授業の概要】

キリスト教の信仰や伝統に目を向けず、英文学の理解を深めることは不可能なことと思う。この特講では、特に英文学とキリスト教文化の関わりに視点をおいて、研究を進める。

【授業計画】

前期は宗教詩を中心に、後期は小説・物語、随筆などを取り上げて考察を進める。

【評価方法】

平常の授業における活動及び学期末のレポートにより評価する。

【テキスト】

Alister E. McGrath, ed., *Christian Literature: An Anthology* (Blackwell) 及びプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に紹介。又は、抜刷を配布する。

英米文学特講（1）a・b

太田直子

【授業の概要】

アメリカ20世紀の作家の短編、小説を読む

【授業計画】

作品を読みながら、批評も数多く読む。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

未定

英米文学特講（2）a

栩木伸明

【授業の概要】

20世紀アイルランドの詩の流れを概観しながら、重要な作家のランドマークとなる作品を精読することにより、詩という言語芸術の一ジャンルを現代アイルランド文化のなかに位置づける試みをおこなう。同時に、アイルランド研究の基礎となる知識をも紹介したい。

【授業計画】

1. イェイツとアイルランド文芸復興
2. ボードリック・コラムとバラッド
3. オースチン・クラークとパトリック・カヴァナ
4. ヒューイット、ベケット、マクニースとアングロアイリッシュ
5. キンセラ、モンタギューとモダニズム
6. マイケル・ハートネット、ブレンダン・ケネリーと南の想像力
7. ヒーニー、マホン、ロングリーと北アイルランド
8. イーヴァン・ボーランド、メーヴ・マガキアンと女性詩人たち
9. ニー・ゴーノル、オー・シャーキーとアイルランド語文化の再興
10. カーソン、マルドゥーンにおけるローカルとユニヴァーサル
11. アイルランド文学・文化の現在

以上は仮のテーマなので変更されることがあるかもしれないが、授業は毎回、個々の詩の精読からはじめて、テクストをより大きなコンテクストへ開いていけるような議論へと導いていきたいとおもう。受講者のみなさんには議論への活発な参加を期待する。

【評価方法】

成績評価は、授業中の議論への貢献度とレポートの内容で行う。

【テキスト】

20th Century Irish Poems (Michael Longley, ed. Faber, 2002)

英米文学特講（2）b

道木一弘

【授業の概要】

二十世紀を代表する小説の一つJames Joyceの *Ulysses* を読む。

各挿話から面白い部分を選び、それを精読しながら言葉の技法や語りの問題、また歴史的背景などについて考え議論する。

【授業計画】

1）*Ulysses* のコンテキスト：時代背景
2）Episode 1：Telemachus
3）Episode 3：Proteus
4）Episode 4：Calypso
5）Episode 6：Hades
6）Episode 7：Aeolus
7）Episode 9：Scylla and Charybdis
8）Episode 11：Sirens
9）Episode 13：Nausicaa
10）Episode 16：Eumaeus
11）Episode 17：Ithaca
12）Episode 18：Penelope

【評価方法】

授業での議論、発表とレポート等によって総合的に行う。

【テキスト】

Ulysses：Annotated Student Edition（Penguin）

【参考文献・資料】

Ulysses Annotated：Notes for James Joyce's Ulysses（Don Gifford ed., University of California Press）

米文学特講（1）a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

NTC's Dictionary of Literary Terms（1991）および他の本を用いてTerms, Concepts, Theoriesを研究します。

【授業計画】

一年を通して上記の本を輪読しますので、受講者は前・後期とも受講することを望みます。

【評価方法】

レポートおよび出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

研究室に原書を用意します。

米文学特講（2）a・b

唐澤 恪

【授業の概要】

ナラトロジー（小説・物語論）の知識は、文学、特に小説を研究する者にとって必須のものである。この特講では、主として欧米におけるナラトロジーの展開を考察する。

【授業計画】

前期には、ナラトロジーの歴史的な展開を概観し、後期には主要な批評家・文学理論家の論説を具体的に検討する。特にアメリカの小説作品を念頭におきつつ、考察を進めたい。輪読形式に、大意発表、ディスカッション、課題についての発表を加える。

【評価方法】

平常の授業における活動とレポートによる。

【テキスト】

プリントを使用する予定。

英語学特講（2）a・b

若山真幸

【授業の概要】

英語の意味と構造の相互関係（the Syntax and Semantics Interface）

生成文法の枠組みに基づいて、意味と統語の連結（Linking）の問題を考察する。本授業ではとりわけ、Pesetsky（1995）の主題役割（Theta-roles）に基づく分析とTenny（1994）の相（Aspect）に基づく分析を挙げながら、動詞と名詞句の語順・形態がどのような原理に基づいて表層位置で具現されるかを概観していく。

【授業計画】

・主題役割とは？
・Linkingとは？
・他動詞と自動詞、二つの自動詞
・心理動詞（psych－verbs）に関するパラドックス
・主題役割themeの再考
・ゼロ形態素causeの仮定

【評価方法】

レポート＋平常点

【テキスト】

・*Zero Syntax*（Pesetsky David　1995）
・*Aspectual Roles and the Syntax and Semantics Interface*（Tenny, Carol L　1994）

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

英語学特講（3）a・b

大室剛志

【授業の概要】

Noam Chomskyが1987年に来日し、一般知識人向けに3つの講演を行った。その3つの講演、Lecture 1 Mentalism and Behavior, Lecture 2 Conceptual Foundations of the Study of Language, Lecture 3 On the Nature, Use and Acquisition of Languageを収めたLanguage in a Psychological Settingという本をテキストとし、それを精読することにより、Chomskyの言語観、Chomskyの言語学の目標などについて学ぶ。Chomsky言語学のテクニカルな面ではなく、そもそもなんのために言語研究を行うのかという根本的な面について考えていきたい。

【授業計画】

毎時間、上記テキストを数ページずつ精読することで英語学的乱取り稽古を行う。

【評価方法】

毎回の授業時での読みの正確さで判断する。

【テキスト】

Language in a Psychological Setting（Noam Chomsky (1987), Sophia Linguistica XXII, Sophia University.）

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英文学研究a・b

大野光子

【授業の概要】

修士論文作成の指導

【授業計画】

先行する研究の分析をベースに、受講者各自のテーマの設定/検討、資料の収集、論文の構成や執筆など、全般について指導する。

【評価方法】

論文の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示

米文学研究a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

アメリカの代表的現代詩人、ロバート・フロストの詩と詩論について研究し、修士論文を作成する。

【授業計画】

前期は作品解釈を中心に、後期は論文の構成を考慮しながら英文の論文を完成する。

【評価方法】

出席を重視し、作品解釈、英文表現、論文構成力などを総合的に評価する。

【テキスト】

Collected Poems, Prose, & Plays（Frost The Library of America. 1995）

比較文学研究a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

比較文学の定義と本質
日本における *The Waste Land* の受容
T.S.エリオットと立原正秋
共同体と個性の文学
T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

T.S.エリオットとベルグソン
形而上詩人のアルス・ポエテイカ
芸術作品の創造と伝統の継承
Spectrum に見る西脇詩の原型
T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。
受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠　晃学出版　2,200円）

翻訳論（英語論文作法） a・b

EASLEY, Keith

【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

情報学特講（1）a・b

野添篤毅　岡澤和世　西荒井学　林 博司　三和義秀
山崎茂明　菅野育子　村主朋英　太田 裕

【授業の概要】

図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行う。質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法等を学び、修士論文の作成に反映させる。

【授業計画】

発表者がレジュメを作成、配布、発表し、それにもとづいて参加者全員で討論する。

【評価方法】

レジュメの発表と討論への参加度

情報学演習（1）a・b

野添篤毅　岡澤和世　西荒井学　林 博司　三和義秀
山崎茂明　菅野育子　村主朋英　太田 裕

【授業の概要】

院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

【授業計画】

発表者がレジュメを作成配布。

【評価方法】

研究発表と討論への参加度

情報学特講（5）a・b

太田 裕

【授業の概要】

数値あるいは非数値からなる資料・データがもつ潜在構造を探究し、所与の情報を抽出するための資料・データ処理技法について、実践力の涵養を目標に学習を進める。

したがって、授業形態は関連知見の理解（講義）と資料・データ処理の体得（実習）とを交互的に行うこととする。サンプリングの計画数理・1変量～2変量解析、多変量解析、数値～非数値処理・解析等々が主要学習項目である。

【授業計画】

前期

1．基礎事項の習得
2．データ処理シミュレーション
3．演習題の自力解決

後期

1．小課題の提示と課題解決法の探索
2．実（資料・データ）の構造解析
3．数値～非数値データの統合処理

【評価方法】

レポートにより評価する。

【テキスト】

随時、必要な文献・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

情報学特講（6）a・b

岡澤和世

【授業の概要】

この4分の一世紀の間に情報社会が到来し、世界の経済、文化が大きく変化し始めた。情報テクノロジーの発達は我々の生活、仕事、教育に大きな影響を及ぼしている。中でもこの電子環境社会でどうやって情報を見つけたらよいのかとまどっている。本講義の目的は大きく変化している情報環境にどう対応していくのかを考える。

【授業計画】

1．情報と情報行動
2．情報行動と情報環境
3．情報行動研究とその枠組み
4．情報行動のインフラストラクチャー
5．情報行動モデル
6．情報行動研究の例
7．人中心の情報システム設計
8．情報行動の発展-電子環境への対応
9．将来の方向と展望

【評価方法】

レポート

【テキスト】

Exploring the contexts of information behavior.（Wilson, T. D & D. K. A ed.）Taylor Graham, 1999.

【参考文献・資料】

From Print to Electoronic（Susan Crawford,Julie M. Hurd and Ann C. Weller）ASIS. 1996
情報学講義ノート〈3〉（岡澤和世著　敬文堂）1989.
インフォ・リッチ：インフォ・プア（Trevor Heywood,岡澤和世訳　敬文堂）1997.
Technology in action.（Heath, C. &. P. Luff.）Cambridge U. Pr. 2000.
Social Demensions of Information Technology.（Garson, G. David）, Idea Group Pub. 2000.

情報学演習（2）a・b

林 博司

【授業の概要】

空間情報（3次元情報）の線状情報（1次元情報）への投射と復元について考察する。実例として1次元の毛糸から3次元のセーターを編む際に使われる情報と1次元の遺伝情報から生物の3次元の形が作られる際に使われる情報について、学び、比較し、検討する。

【授業計画】

基礎学習
文献調べ（英文を含む）
考察

以上の3点を重視して、毎回最新のデータを基に特定のテーマについて、学習を進める。

【評価方法】

学習意欲と、独創性。

【テキスト】

特に定めない。

情報学演習（3）a・b

野添篤毅

【授業の概要】

自然科学分野での研究過程における情報、知識の生産、加工、利用の諸問題について多角的に考察する。

【授業計画】

関連分野の最新の学術論文を読み、討論を行い、レポートにまとめる。

【評価方法】

その都度、指示する。

情報学演習（7）a・b

西荒井学

【授業の概要】

既存のソフトウェアを有効的に利用していく方法論を探究していくことは、ソフトウェアを新規に開発していく場合と多くの共通点がある。その意味で、ここでは既存のソフトウェアが持つ優位性や限界を十分に認識した上で、一定限のソフトウェアを有効的に利用したシステム構築を探求していく。

【授業計画】

1）既存ソフトウェアの機能分析
2）ソフトウェアの機能動作試験
3）ソフトウェアのカスタマイズ
4）総合検討

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、既存ソフトウェアの機能分析を課題として与えることとする。受講者は、担当部分の機能特性を明らかにした上で、逐次互いに種々の問題点を検討していく。

なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず

情報学演習（9）a・b

山崎茂明

【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察していく。特に、研究活動、論文作成、口頭発表、投稿、編集、論文審査、出版倫理、科学研究の不正行為といった側面から検討する。

【授業計画】

「科学者の不正行為」（2001年）を参考にして、そこで扱われたテーマをさらに深め、参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。最初の1・2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジメを提出すること。また、テーマ発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。

【評価方法】

発表レポート

【参考文献・資料】

科学者の不正行為（山崎茂明　丸善）

情報学演習（10）a・b

菅野育子

【授業の概要】

図書館と博物館における「情報源（所蔵資料）に関する情報」について、その識別機能及び記述方法の観点から講義する。特に、両者の資料識別情報（メタ・データ）を相互に運用する可能性（インターオペラビリティ）について検討する。

【授業計画】

授業は次の２点を中心に行なう。

（1）概念モデル間の比較と検討

以下の、図書館と博物館の情報源を対象としたデータベース構築のための概念モデルが提案された。以下の２つの概念モデルを比較・検討することから、両者の資料識別に対する立場の違いについて議論する。

IFLA/FRBR（International Federation of Library Associations. Functional Requirements for Bibliographic Records）

ICOM/CIDOC CRM（The International Committee for Documentation of the International Council of Museums. Conceptual Reference Model）

（2）記述データ項目間のマッピング

Getty Research Instituteが作成したCrosswalk of Metadata Element Sets for Art, Architecture, and Cultural Heritage Information and Online Resourcesを対象に、マッピングされた記述データ項目間の関連性について、実際に図書館資料及び博物館資料の記述データを用いて、以下の記述データ群を中心にマッピングとその評価を行なう。

・米国議会図書館のMARC21

・Getty財団のCDWA（Categories for the Description of Works of Art）

【評価方法】

最終レポートで評価する

【参考文献・資料】

IFLA Study Group on the Functional Requirements for Bibliographic Records. Functional Requirements for Bibliographic Records: final report. Munchen, K.G.Saur, 1998, 136p

情報学演習（11）a・b

三和義秀

【授業の概要】

前期（a）では、Webを中心とするコンピュータネットワークに関する技術を習得した上で、人間の感性に関わる実験調査用のデータ収集を行うためのWebアンケート・システムをサーバサイド・プログラミング（ASP:Active Server PagesまたはJSP:Java Server Pages）によって構築し、そのシステムをインターネット上に公開しながらデータ収集を実施する。

後期（b）では、Webアンケート・システムによって収集したデータを対象にした統計解析（因子分析、多次元尺度構成法、クラスタ分析等）の方法について解説する。なお、受講者はC言語、またはJavaプログラミングの基礎知識を修得していることが望ましい。

【授業計画】

（1）Webアンケート・システムの構築に必要なネットワーク技術

（2）サーバサイド・プログラミングの方法

（3）人間の感性の分類方法と情報検索システムの設計方法

（4）統計解析の方法

【評価方法】

各受講者が実験調査のテーマを決めてWebアンケートシステムを構築し、その収集データを対象にした統計解析のリポートにて評価する。

【テキスト】

第１回の講義にて指示する。

【参考文献・資料】

第１回の講義にて指示する。

情報学演習（12）a・b

村主朋英

【授業の概要】

情報史に関する講義および文献講読を行なう。とくに、＜情報学基礎論と情報史の歴史像との交差＞という問題を強く意識して進める。

なお、情報史は幅広い領域であるため、情報学/図書館情報学の分野史、情報サービスの歴史、情報技術の歴史、コミュニケーション史/メディア史、科学史など、関連歴史概念の中から、動静や受講者の意向を見ながら内容を絞り込む。

また、受講者による発表・報告の回を適宜含める。

【授業計画】

a（前期）：講義を中心に進める。

（1）情報史研究の現状と情報学の境位

（2）情報学における「情報」に関する観点（世界観・宇宙観）

図書館情報学、情報科学、メディア論

社会情報学、吉田民人、北川敏男

b（後期）：以下の内容を予定している。詳細は受講者と相談して決定する。

（1）情報史のトピック群

（2）その他、受講者の関心事項

【評価方法】

平常点とレポートに基づいて行う。

【テキスト】

使用せず。

情報学特講（13）a・b

緑川信之

【授業の概要】

情報検索の仕組みについて詳しく書かれた英文テキストInformation Storage and Retrieval（R. R. Korfhage著　John Wiley & Sons）を輪読する。

【授業計画】

1．概説
2．文献および検索質問の形式
3．検索質問の構造
4．マッチングプロセス
5．テクスト分析
6．利用者プロファイルとその利用
7．複数のレファレンスポイント
8．検索効率の尺度
9．検索効率を改善する手法
10．そのほかの検索テクニック
11．検索結果の表示
12．文献の入手

【評価方法】

授業中の発表およびレポートで評価を行う。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

情報検索の理論と技術（岸田和明著　勁草書房）

翻訳論（英語論文作法） a・b

EASLEY, Keith

【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

国文学特殊研究Ⅱ（中古）

久保朝孝

【授業の概要】

中古文学の独創的研究。
博士論文の作成指導。

【授業計画】

各自の専攻テーマに関する研究発表とその相互批判及び助言を毎回行う。

【評価方法】

論文の活字化もしくは学会等における口頭発表の有無とその内容。

【テキスト】

なし。

国文学特殊研究Ⅲ（中世１）

岩下紀之

【授業の概要】

受講者の希望する作品を題材とする。

【授業計画】

上記による。

【評価方法】

レポートによる。

国文学特殊研究Ⅳ（中世２）

山下宏明

【授業の概要】

〈文学研究と批評　課題に向けて〉と題して進める。

後期課程の学生は、すでに各自の研究課題を持ち、学位請求論文執筆に向けて研究を続けている。学位取得を目的に、年間、少なくとも２本の論文は作成しなければならない。その積み重ねが学位請求論文になるはずである。

たえず学界の状況を把握した上で、方向性を考え続けねばならない。学界の動きを知るために、国内にとどまらない、国外の論文にも目を配り、批評に耐えうる成果を生み出すよう志すべきである。一方で、独自の基本的な調査を行うことも必要である。その成果を確認しつつ、論文の執筆を行わせる。必要に応じて、学内外の学会や研究会への報告を促すこともある。

今期は特に、能・狂言について理論面の考察に努める。

【授業計画】

はじめに、これまでの経過（修士論文など）の報告を行わせる。その際に、特に専攻分野の研究状況の報告を求め、その中での各自の成果の位置づけ、意味を重視するよう求める。講義としては、能、狂言、説話のテクストに即しその研究方法をとりあげる。

【評価方法】

出席状況とレポート、もしくは論文提出による。諸種学会への報告実績も勘案する。

【テキスト】

主要な学会誌のなかから注目すべき論文を選択し、コピーをとって使用する。必読の文献は、前期課程の学生に指示したので、参照されたい。

国文学特殊研究Ⅴ（近世）

阿部一彦

【授業の概要】

近世文学全般にわたり、受講者の専攻との関連で内容を決める。

【授業計画】

上記による。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

国文学特殊研究Ⅵ（近代１）

小倉 斉

【授業の概要】

＜物語の行方―怪談・奇談を中心に―＞

近代日本の怪談・奇談の系譜をたどることを通して、近代における「物語」の変容を考察する。基本的な観点は、「近代（モダン）」を「プレ・モダン」の側から眺めることにあり、眺めるわれわれは「ポスト・モダン」の立場に立っているということにも意識的・自覚的でありたい。

【授業計画】

＜前期＞

1　序章
2　＜牡丹燈籠＞物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」
3　「神経」の成立
4　ラフカディオ・ハーンの「物語」
5　『夜窓鬼談』の世界
6　『夜窓鬼談』の継承者たち―田中貢太郎・澁澤龍彦―

＜後期＞

1　怪異譚の時空間―漱石・科学・時間―
2　妖異の絵図―泉鏡花の物語世界―
3　幸田露伴と怪談
4　芥川龍之介と怪談
5　現代のホラー小説ブームの意味
6　日本的近代と「物語」

【評価方法】

授業への参加状況、発表およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

〈前期〉：牡丹燈籠（三遊亭圓朝　岩波文庫）、怪談・奇談（小泉八雲　講談社学術文庫）、夜窓鬼談（石川鴻斎著 小倉斉・高柴慎治訳註　春風社）、田中貢太郎 日本怪談事典（東雅夫編　学研M文庫）、日本怪談大全Ⅱ・幽霊の館（田中貢太郎　国書刊行会）、ねむり姫（澁澤龍彦　河出文庫）、うつろ舟（澁澤龍彦　福武文庫）

〈後期〉：倫敦塔・幻影の盾 他五編（夏目漱石　岩波文庫）、高野聖・眉かくしの霊（泉鏡花　岩波文庫）、鏡花短編集（泉鏡花　岩波文庫）、観画談・怪談・土偶木偶（幸田露伴　プリント）、妖婆・アグニの神（芥川龍之介　プリント）、夜啼きの森（岩井志麻子　角川ホラー文庫）

国文学特殊研究Ⅶ（近代２）

都築久義

【授業の概要】

学生の論文テーマに応じて指導する。

【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

なし。

国文学特殊研究Ⅷ（国語学）

増井典夫

【授業の概要】

受講者の論文テーマ、あるいは希望する作品に応じて、国語学の観点から指導する。

【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

授業時に指示する。

中国文学特講

寺尾 剛

【授業の概要】

後期の院生の高度な漢文読解力の向上を目指す。

【授業計画】

受講生の需要に合わせて決定する。

【評価方法】

平常点及びレポート

【テキスト】

未定。

英文学特殊研究Ⅰ

山田幹郎

【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究（シェイクスピア）。
受講者の博士論文作成を指導する。

【授業計画】

各自の専攻テーマについて研究発表とその批評を旨として進める。

【評価方法】

研究発表と論文による。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

随時指示する。

英文学特殊研究Ⅱ

大野光子

【授業の概要】

アイルランド文学・文化研究。前年度に引き続いて「複眼で見るケルト文化」をテーマに、ブリテン島の中でも、特にアイルランドとイングランド間の「ケルト」に対する見方、語り方の差異を検証する。ヴィクトリア朝時代以後現代までの、ケルト人や文化に関するそれぞれの地域の文学やメディア表現を分析し、比較する作業を通して、「ケルト」受容・評価の相違点/類似点/変遷を明らかにする。

【授業計画】

前期には、「ケルト」研究のテキスト講読とともに、ブリテン島の文化・社会史を概観する。
後期には、「ケルト」の「リサイクル」の具体例として、ヴィクトリア朝時代以後現代までの文学や絵画、ポピュラー・メディア表現の作品等を吟味し、比較検討する作業を中心に置く予定である。

【評価方法】

出席と平常点およびレポートによる。

【テキスト】

テキストは教室にて指示する他、プリント使用。

英文学特殊研究Ⅲ

久野幸子

【授業の概要】

＜イギリス風刺文学の系譜＞をさまざまな視点から考察する。

【授業計画】

前期は中世からルネサンス期までの風刺作品を扱う。
後期は十七世紀から十九世紀までの風刺作品を扱う。

【評価方法】

平常の発表とレポートによる。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

随時指示する。

米文学特殊研究Ⅰ

池谷敏忠

【授業の概要】

Contemporary American Literary Theory（1997）および*Introducing Literary Theories*（2001）を用いて、最新の文学理論を研究します。

【授業計画】

一年を通して上記の本を輪読しますので、受講者は前期・後期とも受講することを希望します。

【評価方法】

レポートまたはテストに各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

研究室の原書を貸与します。

米文学特殊研究Ⅱ

唐澤 恪

【授業の概要】

この特殊研究では、最近のアメリカン・ルネサンス論について検討する。F. O. Matthiessenの*American Renaissance*（1941）以後おびただしい数のアメリカン・ルネサンス論が書かれてきたが、この特殊研究では、特に1980年代以後のものを検討していく。その過程で、それ以前の主要な論考についても、レヴュウする。後期には最近のPoe論やトランセンデンタリズム論についての考察を織りこむ予定。

【授業計画】

授業は、割り当て部分についての、学生の内容発表および問題点の指摘、教師による解説・情報提供、ディスカッション、という順序で進めるが、適時に学生に課題を与え、報告を求める予定である。

【評価方法】

平常の発表とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

英語学特殊研究Ⅳ（英語教育学）

松本青也

【授業の概要】

応用言語学（英語教育）

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

情報学特殊研究Ⅱ（知識情報処理）

野添篤毅

【授業の概要】

自然科学分野における研究・開発過程での種々の知的情報処理について考察する。

【授業計画】

知的情報処理分野の最新の学術文献（雑誌論文、モノグラフ）を受講者が選択し、それについて発表と討論を行う。

【評価方法】

研究発表と討論への参加度

【テキスト】

その都度、指示する。

情報学特殊研究Ⅳ

林 博司

【授業の概要】

学位論文の作成
生命情報・遺伝情報の現状分析と可能性
組織器官の分化研究の現状と21世紀に於ける発展（国際的観点より）
生殖生物学の発展とそれが及ぼす社会的影響（国際的観点より）
遺伝情報の破壊と修復と変化の予測
文献検索、調査
統計処理
予測の設定と確実性
論文の形式
文章の設定
図書館情報学に於いて占める位置

【授業計画】

多くの関係教官と連絡を保ちながら、自分のペースで進める。必要な場合には他大学で研究する。常時、論文の内容、進行状況について発表を行う。

【評価方法】

論文評価と学術論文出版による。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

学術雑誌を常に参考とする

情報学特殊研究Ⅴ（情報関連行動論）

岡澤和世

【授業の概要】

情報システムは人の役に立つためにある。設計されたシステムは人が組み立てたものであり、人が利用するためにある。人々の現実の情報要求をうまく満たすことができればできるほどそのシステムは成功したといえる。その意味で、人間の要求を満たすことができないシステム設計はナンセンスである。本講義ではこの様な人間の情報行動と情報システムの関係に注目する。人はなぜ情報を必要とするのか?人は情報システムから何を得られると期待しているのか?情報システム設計者はこれらの情報行動にどうやって対処するのか?

【授業計画】

1．ヒューマン・オーガニゼーション（Human organization）
2．人間中心の情報システム
3．システムの評価：単純さ/感性/キャシュ・フロー分析/利用度/評価法
4．管理とコントロール
5．人的要因（Human factors）
6．人間- 機械の相互作用（HCI）の問題：概説/HCIの特性/HCIとシステム設計の関係/要約
7．利用者の参画：利用者とは何か/従来の情報システム/なぜ利用者を中心に据えるべきか/コミュニケーションの難しさ/利用者参画型アプローチ
8．実行：プランニング/利用者参画と訓練/マニュアル作成/システム・テスト手順の変更/実行後評価/メンテナンス

【評価方法】

レポート

【テキスト】

Looking for Information Donald O.Case. Academic R Press. 2002.
（Clarke, S & B. Lehaney Indea Group Pub. 2000）

情報学特殊研究Ⅵ（科学情報メディア）

山崎茂明

【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察する。海外の研究論文や文献レビューなどから、近年の研究動向や課題を整理していく。特に、科学政策、研究動向、業績評価などのための分析能力の開発を目標に、調査データの収集と考察を試みる。また、AuthorshipやResearch Integrityをめぐる研究倫理について展開をはかる。

アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、日本における主要な科学研究・政策についての主要な調査を分析し、日本の科学研究や科学コミュニケーションの課題や問題を検討する。発表をめぐる出版倫理については、デジタル情報資源も活用し、最近の動向を整理していく。参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。

【授業計画】

最初の１－２回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はＡ４版レポート用紙で４枚程度のレジメを提出すること。また、文献レビュー紹介や調査発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。講義に関係する資料は随時配付する。

【評価方法】

発表レポート

【テキスト】

Science and Engineering Indicators（NSF）、他

情報学特殊研究Ⅷ（異資料情報処理）

太田 裕

【授業の概要】

受講予定者は既に修士論文を終え、博士論文作成に挑戦中の諸君であることに鑑み、情報処理科学の観点から多様かつ異質な資料から所与の情報を抽出する（＝研究支援技法）の習得と実際活用能力の涵養に努めることとする。

したがって、授業形態は必然セミナー形式となるが、博士論文の枠組み・内容に関わって受講者毎に個別のカリキュラムを組むこととなる。

【授業計画】

前期

1．基礎知見学習
2．受講者別カリキュラムの組立
3．関連演習課題の実施

後期

1．課題解決のための個別プログラムの作成
2．関連実資料の解析支援
3．課題適合高度解析法の探索

【評価方法】

レポートにより評価する。

【テキスト】

特にない。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

情報学特殊研究Ⅸ

西荒井学

【授業の概要】

情報技術の発展と共に、数多くのソフトウェアが開発され、社会において流通している。特に、システム開発ツールに焦点を絞り、これらの技術的基盤ならびに応用技術について考察していく。

【授業計画】

受講者各自が特定のシステム開発ツールを選択し、その技術的基盤ならびに応用技術についての報告と討論を行なう。なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】

報告内容、討論への参加度、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

必要に応じて、指示する。

研究技法Ⅰ（データ解析）

太田浩司

【授業の概要】

この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T－検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

【授業計画】

学期の最初に提示をする。

【評価方法】

出席、学期末データ分析ペーパー

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

パソコンによるデータ解析（新村秀一著　講談社ブルーバックス）

研究技法Ⅱ（統計分析）

立石 寛

【授業の概要】

統計学の基礎について講義します。

【授業計画】

1．統計の基礎
2．確率
3．条件付確率と事象の独立
4．確率変数と期待値
5．標本分布
6．推定
7．検定

【評価方法】

期末試験と出席状況で評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

適宜指示します。

研究技法Ⅲ（質問紙調査法）

榊原國城

【授業の概要】

この授業の主題は、現代社会における様々な問題に対し、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な技能を身につけることである。具体的には、担当者が長年学んできた心理学において用いられてきた、科学的資料の収集法としての質問紙調査法の体得である。すなわち、受講学生自身が、質問紙調査法の基礎的な考え方を理解し、その実際を段階的に体験することにより、科学的方法の適用能力を身につけることをねらいとしている。

多くの人々に共通する問題の発見や解決を図る際に、それらの人々に共通する行動の仕方や考え方、興味・関心の方向などを的確にとらえることが必要になる。研究法としての質問紙調査法の意義はまさにこの点にある。すなわち、多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析する手法が質問紙調査法である。

授業内容は、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習を中心とする。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．調査計画立案
3．調査票作成と調査実施
4．調査結果の分析
5．報告書の作成

【評価方法】

調査報告書の内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

研究技法Ⅳ（経済分析）

立石 寛

【授業の概要】

経済学の基礎について講義します。

【授業計画】

1．消費者の行動
2．生産者の行動
3．を含む一般均衡
4．独占と寡占
5．市場制度と最適資源配分
6．国民所得
7．所得決定と貨幣市場
8．国際経済
9．経済成長
10．景気循環

【評価方法】

期末試験および出席状況により評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

適宜指示します。

地域社会特別講義Ⅰ（地域問題論）

谷口 茂

【授業の概要】

（1）地域社会が直面する諸問題－福祉・環境・産業・街づくりなどーについて、各人がテーマを選び、それぞれ研究・発表を行う。これについて、全員で質疑・討論を行い、最後にこれをレポートにまとめる。（2）1つのテーマに全員で取り組み、互いに切磋琢磨することにより、各自の研究能力を高める。これまで「年金、医療、ごみ」問題に挑戦してきたが、課題の分析・政策の提言という手法を重視したい。

【授業計画】

講義と並行して、受講生が地域社会が直面する諸問題について研究発表を行い、全員で討論する方法を採用する。

【評価方法】

出席、討論への参加、研究発表などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。資料を適宜、配布する。

地域社会特別講義Ⅱ（地域交通論）

辻 紘良

【授業の概要】

交通は地域の産業活動とともに地域の生産活動を支える主要な基盤をなしている。講義では地域交通体に焦点を当て、その実態、問題の所在を明らかにし、将来の地域作りに向けてその整備の在り方を展望する。

【授業計画】

地域交通の現状と実態分析を基礎とし、情報化社会における地域作りに向け、地域交通はどのような視点で整備を進めていくとよいのかを議論する。

1．地域交通体系の現状と課題
　・大都市圏交通、地域圏交通の交通の現状と課題
2．大都市の地域交通体系
　・都市交通とハイモビリティネットワークの形成
3．地方圏の交通体系
　・地方中核都市の交通機関活性化、地方都市の道路混雑解消

この他、交通運用計画（TDM）、交通の高度情報化（ITS）などから適宜テーマを選択し解説する。

講義と並行に最近の関連論文を読解し地域交通システムの実例や実験例を相互に提示し理解を深める。

【評価方法】

論文読解力や発表内容、課題提出の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。プリント配布

【参考文献・資料】

自動車交通の地域分析（奥井正俊　大明堂）他

地域社会特別講義Ⅲ（地域開発論）

竹村 弘

【授業の概要】

従来の「地方開発」は、中央と地方の経済格差の是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致により実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自律的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

【授業計画】

講義主体であるが、院生各自の研究との兼ね合いにおいて、可能な限り課題研究と討議を行う。

1．従来の「地方開発」が果した歴史的役割を評価し、現在の「地域開発」の課題を検討する。「水俣病」等の公害問題は、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシン等の環境問題は、暮しやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。「自分達の地域は自分達で守れ」は歴史的教訓である。
2．「過疎」が、集落の崩壊まで進んだ「末期過疎」や、地方都市の旧商店街に「新過疎」と呼ばれる空洞化が見られる中で、多くの地域住民が自ら手を携えて、「地域づくり運動」に立ち上っている。その代表的事例を研究する。
3．従来のような中央の行政指導・補助金に依存する体制から脱却し、地域の自立を実現するためには、地方分権等の推進と共に、その受け皿となる地方行政や地域住民の意識改革、および、主体的な政策立案ならびに実行能力の涵養が必要である。

【評価方法】

討論参加度、報告内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜使用する。

地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業計画】

1．北海道池田町：ワインによる地域づくり
2．大分県大山村：「村おこし」の元祖
3．長野県南木曽町：「町並み保存」の元祖・妻籠宿
4．石川県金沢市：城下町の歴史を生かした景観形成
5．山口県萩市：城下町の歴史を生かした景観形成
6．北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
7．長崎県長崎市：港町の歴史を生かした都市づくり
8．北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
9．福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
10．滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
11．岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
12．受講生による課題の成果発表

【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。
まちづくりの実践（田村明著　岩波新書）
町並みまちづくり物語（西村幸夫著　古今書店）
歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり（大河直躬編　学芸出版社）
都市の歴史とまちづくり（大河直躬編　学芸出版社）
新・町並み時代（全国町並み保存連盟　学芸出版社）
インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

国際社会特別講義Ⅰ（国際社会発展論）

藤瀬浩司

【授業の概要】

20世紀の経済と社会の発展を、企業組織、国家機能及び世界経済の各側面から検討する。

1．20世紀経済社会の段階と局面
2．大型企業体の生成
3．福祉国家への前進
4．世界経済の構造

【授業計画】

講義形式であるが、質問や討議の時間を適宜とりたい。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

改訂新版　欧米経済史（藤瀬浩司著　放送大学教育振興会　2004）

国際社会特別講義Ⅱ（国際経済システム論）

秦 忠夫

【授業の概要】

国際間の経済取引は経常取引（財・サービスの貿易取引）と資本取引に大別されるが、いずれの面でも取引の自由化が進み、世界経済は相互依存関係を深めている。しかし、発展段階の異なる多くの国からなる世界経済においては、取引の自由化には不断の政策努力が必要であり、一方で国際取引の進展に伴って発生する諸問題は市場メカニズムに委ねるだけでは解決できず、国際的な政策対応が不可欠である。戦後の世界経済がどのような制度的枠組みのなかで発展し、どのように問題解決への取組みがなされてきたか検討し、将来に向けての課題について考える。

戦後の国際経済システムを担ってきた三つの主要国際機関、すなわち国際通貨基金、世銀グループおよび世界貿易機関（その前身としてのガット）が果たしてきた役割をレビューし、それぞれが抱える今日の課題を検討する形で主題テーマに迫る。

【授業計画】

講義が主体となるが質疑応答の時間を十分取り入れたい。積極的に議論に参加してもらいたい。

【評価方法】

授業への取組み姿勢と期末レポートで評価。

【テキスト】

プリントを配付。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別講義Ⅳ（比較教育文化論）

渡辺かよ子

【授業の概要】

世界における比較・国際教育学研究の最近の水準に即しながら、人間形成の比較・国際的接近を試みる。そのさい、文化史的背景と問題解決への試行的実践事例に注目する。

【授業計画】

参加者へレポートを課しながら講義を進めていく。

1）教育の近代化と「新教育運動」の展開
2）第二次世界大戦後の教育改革と脱学校論
3）近代欧米教育文化と近代日本教育文化との関連と課題
4）「発展途上国」の教育と文化：識字運動を中心に
5）地域・学校・企業が連携した教育改革への取り組み

【評価方法】

平素のレポートを対象にする。

【テキスト】

資料配布。

【参考文献・資料】

教育への問い（天野郁夫編　東京大学出版会）
教育改革の経済学（伊藤隆敏・西村和雄　日本経済新聞社）

国際社会特別講義Ⅴ（比較政治論）

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日３国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、“アジア的国家”と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

1　「沖縄」からみた近代日本～プロローグに代えて～
2　伝統的東アジアの国際秩序
3　科挙官僚制と中国の近代化
4　両班（ヤンバン）と李氏朝鮮の近代化
5　徳川幕藩体制と日本の近代化
6　“アジア的国家”とは何か？
7　イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
8　1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートとによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1．*Asian Power and Politics：The Cultural Dimensions of Authority*
（Lucian W.Pye　Harvard Univ. Prees）
2．ステイトとネイション－近代国民国家と世界経済の政治経済学－
（佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載）

メディアプロデュース特別講義Ⅰ（メディア分析論）

石田米和

【授業の概要】

多様化するメディアを、コミュニケーション過程とイメージ・意識の形成・普及過程の視点から捉え直し、社会的影響力を強めつつあるメディアの位置づけ、メディアのあるべき姿およびメディア・リテラシー等について議論する。

主な内容は以下の通り。

1　メディアの動向と背景
2　メディアの機能と影響
3　映像化の推移と問題点
4　メディア戦略の実態とリアリティ
5　メディアと社会構想、他

【授業計画】

基本的な知識、方法論についての学習と共に、受講生のプレゼンテーションや議論等を重視する。

【評価方法】

試験・レポートおよび出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュース特別講義Ⅱ（情報科学論）

親松和浩

【授業の概要】

マルチメディアの原理と応用について“ユーザーの立場から”考察する。また、マルチメディアと基礎科学との関係についても検証し、夢の技術として基礎研究段階にある量子コンピュータ等の紹介も行う。

【授業計画】

1）マルチメディア情報とは
2）マルチメディア情報の処理技術
3）マルチメディア情報システムと通信技術
4）マルチメディアの応用と将来

【評価方法】

出席状況とレポート等で評価する。

【参考文献・資料】

岩波講座マルチメディア情報学（岩波書店）

メディアプロデュース特別講義Ⅲ（レトリック批評論）

五島幸一

【授業の概要】

レトリック批評とメディア研究との関わりあいについて考察する。とくにメディアを媒介としたメッセージを分析することにより、レトリック批評の理論的枠組を明らかにし、そのメディア分析の有効性について論じる。

レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

【授業計画】

1）レトリックとは
2）レトリック批評理論
3）スピーチの分析
4）非言語の分析（政治漫画、広告など）

【評価方法】

授業への参加度、および学期末に提出する研究論文にて評価する。

【テキスト】

別途指示する。

メディアプロデュース特別講義Ⅳ（番組開発論）

大西 誠

【授業の概要】

デジタルメディア社会をむかえ、メディアの教育性が注目されている。いわゆる教材・教具から映像をベースにした番組やインターネットまで幅広いメディアの教育利用が求められている。メディアの成り立ちや歴史的発展とともにメディアの教育利用について理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材（ロケ）映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られていくのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

本講では、教育メディアの歴史と理論を学ぶとともに、情報化社会におけるメディアのあり方や教育とのかかわりを、実際に放送された教育・教養番組の内容を分析し、グループ・ワークで番組を試作する。

・教育番組の制作過程
・「日本賞」教育番組国際コンクール
・映像制作技術（実習）
　など

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義Ⅰ（居住環境管理論）

吉澤 晋

【授業の概要】

都市における居住の身体的、精神的健康への影響の把握を始めとして、都市環境の構成機構の解明、人間生活との係わり合い、住宅や機器類などのハードとの係わり合いの解明を通じて、計画、管理、改善のための方策を論じる。

1．健康概念と居住環境
2．都市居住環境と健康影響
3．居住環境条件の構成機構
4．建設と管理・居住の関連
5．環境的責任の分担
6．行政・教育・居住者・建設者の課題

【授業計画】

プリントを中心に講義を行う。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

都市環境デザイン特別講義Ⅱ（建築保存再生論）

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

1）破壊との闘い
　人類の蛮行と遺産保護への執念
2）変りゆく保存の概念
　文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
3）開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
　建築におけるサステイナビリティ
4）文化財保存の論理
　日本における文化財保護の歴史
5）文化財保存の事例研究
　日本・イタリア・トルコ・シリアetc.
6）町並み保存の論理
　日本における町並み保存の歴史
7）町並み保存事例研究
　ボローニャ・妻籠・長浜・倉敷etc.
8）近代建築保存の論理
　近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
9）近代建築保存・再生の技法
　保存・再生の基本理念と具体的方法
10）近代建築保存・再生の事例研究
　神戸・横浜・大阪・京都etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

都市環境デザイン特別講義Ⅲ（情報化建築論）

吉田邦彦

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化（高度情報化）によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこでの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

【授業計画】

下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

（1）シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー
　（ウィリアム・J・ミッチェル著　掛井秀一他訳　彰国社）
（2）eートピアー新しい都市創造の原理ー
　（ウィリアム・J・ミッチェル著　渡辺俊訳　丸善株式会社）

都市環境デザイン特別講義Ⅳ（都市空間デザイン論）

日色真帆

【授業の概要】

場面のデザインという視点から、望ましい都市空間のデザインを、多様な社会、文化、芸術的文脈の中で実現してゆく方法を学ぶ。特に、生活の場面をデザインすることに焦点をあて、スペースブロックとイベントピクトグラムという手法を用いて、具体的な提案に結びつける。

【授業計画】

・場面のデザインという視点から、様々なデザイン分野の比較分析。
・スペースブロックによる空間表記。
・イベントピクトグラムによる行為や出来事の記号化。
・居住環境の様々なデザイン手法の学習。
・具体的な生活の場面についての分析とデザイン。
（講義と議論をふまえて、具体的な生活の場面について分析レポートとデザイン的な提案を作成しプレゼンテーションを行う。）

【評価方法】

分析レポートとプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】

特になし。

地域社会プロジェクトⅠa

千葉善根

【授業の概要】

温暖多湿で緑の資源に恵まれ、海に囲まれ、四季の区別が明確な日本は新鮮な食材が手近に入手でき他国にはみられない多様の食文化を形成した。

これらの中から伝統的な食品を選び、日本人の知恵や生活との関わり及び現代の食生活との比較研究をする。

【授業計画】

参加者の発表とディスカッションを中心にレクチャーを含めて行う。

【評価方法】

発表およびそのレポート、ディスカッションへの参加態度により評価する。

【テキスト】

追って指示する。

地域社会プロジェクトⅠb

榊原國城

【授業の概要】

組織心理学およびコミュニティ心理学の研究を中心に、隣接する領域の心理学的研究の諸論文を精読し、その意義や問題点等について討論を行う。その際、研究の基本的な枠組みや科学的研究方法についての解説を行い、受講者の理解を深める。また、後半ではテーマごとに受講者に課題を与え、発表討議を行う。受講者は、積極的かつ主体的に討論に参加してほしい。論文の選択は当初担当者が行うが、演習を進めていく過程において、受講者の関心、理解度に応じて柔軟に変更を加えていきたい。

【授業計画】

1．オリエンテーション
2．論文講読
3．発表討議

【評価方法】

演習中の課題へのリポート内容およびプレゼンテーションのすべてを包括的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会プロジェクトⅡa

竹村 弘

【授業の概要】

21世紀の情報化、国際化および環境・生活者優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域づくりを研究する。

【授業計画】

「経済計画」「国土計画」「地域計画」等は、国づくり、地域づくり構想等の基本である。従来の諸計画とその実績、および今後のわが国経済社会の展望を研究する。

（1）戦後から今日に至るまでの「経済計画」等の推移と、実際の経済社会変遷を概観する。
（2）その上で、21世紀日本経済社会のビジョンと課題について討議する。

【評価方法】

発表内容や課題の提出状況を総合し成績を評価する。

地域社会プロジェクトⅡb

辻 紘良

【授業の概要】

21世紀の情報化、国際化および環境・生活者優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域づくりおよび地域交通のビジョンを提案し可能性を研究する。

【授業計画】

地域の交通実態を分析し、その特徴と問題点を抽出するとともに、その地域に相応しい新しい交通システムを提案し実証的にその可能性と効果を考察する。

（1）地域の街区構造の成り立ちと交通流動との関連について実態分析を加え、問題点と課題を把握する。
（2）交通施設整備の現況を把握するとともに、今後の整備の在り方を考察する。
（3）上記問題点を解決するために自動車の高度情報化技術（ITS）を活用した新しいシステムを提案するとともに導入の可能性を実証的に研究する。

【評価方法】

発表内容や課題の提出状況を総合し成績を評価する。

【参考文献・資料】

ITSインテリジェント交通システム（交通工学研究会編　丸善　p236）
"Proceedings of the World Congress on Intelligent Transport Systems '04"

国際社会プロジェクトⅠa・b

藤瀬浩司

【授業の概要】

工業化に関する理論を整理するとともに、これまでの歴史過程に現れた工業化の事例を取り上げ検討する。

1．工業化の理論
　A．ロストウ（W.W.Rostow）とガーシェンクロン（Alexander Gerschenkron）
　B．赤松要とヴァーノン（R.Vernon）
　C．フランク（G.Frank）とウオラーステイン（I.Wallerstein）
　D．これからの課題

2．工業化の事例分析
　A．（1）　イギリス産業革命
　　（2）　西ヨーロッパとUSA
　　（3）　ロシア、イタリア、日本
　B．（1）　現代工業化の諸問題
　　（2）　社会主義工業化
　　（3）　ラテンアメリカの工業化
　　（4）　アジアの工業化

【授業計画】

レクチャーと参加者の報告・討論を組合せる。

【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

【参考文献・資料】

講義の際に適時指摘する。

国際社会プロジェクトⅡa

渡辺かよ子

【授業の概要】

教育近代化の過程とその帰結としての今日の教育問題について、世界教育史上の人物の実践と思想の軌跡を手がかりに考察していく。彼らの思想がいかなるものであり、それがいかに今日の教育実践に繋がっているのかを探っていきたい。

【授業計画】

1．コメニウス「大教授学」
2．ロック「教育論」
3．ルソー「エミール」
4．ペスタロッチー「隠者の夕暮」
5．デューイ「学校と社会」「民主主義と教育」

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる。

【テキスト】

資料配布。

【参考文献・資料】

西洋教育史叙説（江藤恭二　福村出版）
歴史の中の子どもたち（森良和　学文社）
学校の幻想　教育の幻想（山本哲士　筑摩書房）

国際社会プロジェクトⅡb

西尾林太郎

【授業の概要】

Max Weberの著作（日本語訳のもの）やウェーバーの学説に関する著作物を丁寧に輪読する。続いて日本人研究者による国家論に関する著作を味読しつつ、ウェーバーへの理解を深めたい。政治文化、エートス、リーダーシップ、官僚制、宗教、経済、ナショナリズム等をキー・ワードとしつつ、アジア社会や現代の日本社会についての理解を深め、比較史的視点の構築を目指すと共に、社会科学の専門書にも習熟したい。また、博覧会についても大いに研究会したい。

【授業計画】

2005年度は次の通りである。

1～3：博覧会の歴史について、特にパリ万博、セントルイス万博、汎太平洋平和博覧会、大阪万博。
5～7：愛知万博に関する多方面にわたる検討。
8　：博覧会に関するまとめとディスカッション。
9　：愛知万博で提起された現代社会に関する諸問題についてフリーディスカッション。
10～13：Max Weberの著作を読む。

【評価方法】

出席状況および平常点による。

【テキスト】

授業中にその都度指示する。

【参考文献・資料】

授業中にその都度指示するし、適宜配布する。

当面は、吉見俊哉『博覧会の政治学- まなざしの近代』（中公新書）を推薦したい。

なお、事前に1度は愛知万博に行っておくことを希望する。

国際社会プロジェクトⅢb

秦 忠夫

【授業の概要】

世界経済の注目される動き、すなわち「活発化する自由貿易地域形成の動き」「中国経済の台頭」「増大する国際資本移動の功罪」などのテーマを、英文資料（新聞・雑誌、学術論文など）に基づき検討する。

【授業計画】

第1回～13回　上記のテーマに関連した英文資料を読解し、討議する。

【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

メディアプロデュースプロジェクトⅠa

坂元 多

【授業の概要】

ことばだけでは表現できない思想やアイデアを映像作家は番組やアートの形式で表現してきた。今までのすぐれた映像表現の先駆者たちをとらえて、具体的な作品にそってその表現の形式や手法、考え方を学ぶ。

【授業計画】

映像や資料の提示解説の後、その受けとめ方についての討議をとおして理解を深めたい。

【評価方法】

各回の各自の受けとめ方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。各回ショートレポートの提出を求めることがある。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュースプロジェクトⅠb

太田浩司

【授業の概要】

本プロジェクトでは人間のメディア使用とその心理を主題として扱う。特に、その原因と効果についてコミュニケーションや社会心理という視点からアプローチをする。前半では人々がなぜ特定のメディアを使用するのか、また使用した結果どのような心理的な影響があるのかを先行研究を通して知識を深め、後半には自ら作った理論的モデルを基にミニプロジェクトを行うことによりメディア使用と人間の心理の関係を探る。

【授業計画】

学期の最初の講義で提示する。

【評価方法】

出席、口頭発表、学期末プロジェクト

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

メディアと暴力（佐々木輝美著　劉草書房）

メディアプロデュースプロジェクトⅡa

大西 誠

【授業の概要】

映像メディアは、フィルム、ビデオ、デジタル画像といった収録媒体の特質を生かしつつニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、フィクションなどの形式で、情報・メッセージを伝えている。しかし単に、表現されたものを表面的に捉えただけでは、メディアの本質が見えてこない。本講はメディア理論の展開をたどるとともに、メディア表現について、映画、写真などの映像分析を試みながら、検討していく。

【授業計画】

19世紀以降のメディア史や理論の系譜に目を向けつつ、現代社会とメディアの関係を考察する。

・マクルーハンの理論の適応
・メディアリテラシーの実践
・カルチュラル・スタディーズの展開

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題で評価する。

【参考文献・資料】

メディア論／マーシャル・マクルーハン（みすず書房）
記号の知／メディアの知（東大出版会）

メディアプロデュースプロジェクトⅡb

石田米和

【授業の概要】

大量に生産され流通する、画像を中心とした様々な形態の情報内容（コンテンツ）の多面的な分析を通して、主に以下の点を論議していく。

（1）観察可能な情報内容や社会的事象の、意味論的・記号論的・認知理論的分析の方法論・手法の検討と応用
（2）情報内容と表現方法、それらと社会的文化的文脈との関連性
（3）双方向性とネットワーク化による意識・感覚の共有、暗黙知の形成
（4）メディア文化のパラダイム、その他

【授業計画】

概要は以下の通りである。

・情報の表現と社会的認知
・社会的認知と社会的文化的文脈
・メディアのグローバル化とローカル化
・メディアのネットワーク化と情報共有
・その他

【評価方法】

・レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

メディアプロデュースプロジェクトⅢa

親松和浩

【授業の概要】

情報メディアやロボットなどの先端技術の可能性に関して、受講者が選定する特定のテーマについて議論する。テーマにはシステムの設計/試作や、作品の試作も含める。

【授業計画】

受講者は各自の興味に従ってテーマを選定し、受講者による調査報告を中心に進める。過去にこのプロジェクトで扱ったテーマには、Webサイト作成例とその技術的課題、クレイアニメーションの試作、立体視の原理と応用、コンピュータ言語Squeakを使った簡単なゲームの試作などがある。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュースプロジェクトⅢb

五島幸一

【授業の概要】

メディアから出てくる情報には受け手を説得しようとする戦略が組み込まれている。そこで、受講生が選定する特定のテーマについて、コミュニケーション学またはレトリック批評の観点から議論する。

受講生は具体的なケースをもとに分析をおこない、コミュニケーション上の特徴を実際に調べていく。

【授業計画】

問題設定とその解決策をグループによる検討を中心に進める。

【評価方法】

授業への参加度およびレポートにて評価する。

【テキスト】

別途指示する。

都市環境デザインプロジェクトⅡa

齋藤基之

【授業の概要】

建築の持つ主要な役割の一つに、熱・光・音・空気といった物理的環境の調整が挙げられるが、これをデザインするためには、建築物周辺や都市環境の実情を知ることが不可欠である。文献購読や実測調査・気象データ解析等により、都市の物理的環境の現状を把握するとともに、その問題点・改善策について検討する。

【授業計画】

・参考文献の輪読。
・対象とする都市空間に関する資料収集。
・気象データや衛星データ等を用いた解析。
・測定器を用いたフィールド調査。
・解析結果の発表と講評。
・最終レポートの作成。

【評価方法】

プロジェクトへの参加状況と提出されたレポートにより評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

都市環境デザインプロジェクトⅡb

清水裕二

【授業の概要】

建築・都市のデザインはきわめて高い社会性を求められる行為であるといえる。この授業では、現代社会に存在する建築・都市に関する現実的課題について調査（フィールドワークを含む）・分析を行い、それに対し単なる机上の空論でなく、社会へコミットするような実践的提案を行うことを目標とする。最終的には実際の社会的実践・活動へと接続することが望まれる。

【授業計画】

課題の設定、調査・分析、提案のまとめ方などについて学生と議論を重ね、助言を行いながら進めてゆく。

【評価方法】

プロジェクトへの参加の姿勢、調査・分析の過程、レポートなどの成果物、社会的実践・活動の様子などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

都市環境デザインプロジェクトⅢa・b

太田 裕

【授業の概要】

都市環境デザインの切り口は多様であるが、その一つに安全の観点から都市を捉え、調査・診断し、都市の安全環境改善をデザインする研究分野がある。都市防災のシステム学ともいわれる分野である。当該授業はこの分野の基礎学力涵養を支援すべく、学習期間を通年として、前期-後期を一貫した形で学習内容を構成する。すなわち、前期は資料解析を含むシステム学的諸手法を幅広く学習し、後期に予定される課題研究の推進技法として体得することに主眼をおく。後期はモデル地域を具体的に選定し、現地調査の実施・資料分析を含む、体験的学習に主力をおく。対象モデルは世帯-近隣コミュニティー市町村という地域がもつ一連の構成単位毎に階層的に選定し、実地調査を計画・実施する。これによって地域・都市がもつ災害危険環境を計量し、安全環境改善を計ることで、地域問題解決学の基礎体力を増強する。学習成果をレポートに結実する。

【授業計画】

前期	第1回	年間計画概説
	第2～4回	システム学通覧
	第5～8回	システム情報・資料調査法（仮想実習）
	第9～12回	システム情報・資料分析法（体験実習）
後期	第1回	後期計画概説
	第2～4回	災害別危険環境の通覧
	第5～7回	災害別危険環境の計量・解析法
	第8回	地域調査実施ガイダンス
	第9～12回	調査・解析の実施、レポート作成

【評価方法】

前期はシステム学的諸手法の事例解析（計算機処理）結果をレポートとして提出することを求める。後期は調査課題にもとづき、各自が実施した調査・分析の結果をレポートとして提出していただくこととなる。これに出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示し、必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示し、必要に応じて資料を配布する。

地域社会特別研究　M-05 a・b

谷口 茂

【授業の概要】

産業・企業と地域社会との共存・共生という問題を取り上げ、その分析方法や技法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。

【授業計画】

学生ひとりひとりの能力に応じた個別的研究指導を行い、その成果を段階的に積み上げていきたい。

【評価方法】

出席、研究への熱意、研究の成果などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

とくに使用しない。

都市環境デザインプロジェクトⅤa・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

経済発展の中で、日本中の都市で画一化が進行した。自立した地方の時代の到来と、生産人口の減少が現実の問題となった今、都市間競争に勝ち残る為の個性化の必要性が叫ばれているが、多くの都市ではその方法を見出せないでいる。我々人間がなにものかを「計画」しようとする「場所」には、そこに固有の形態（トポグラフィー）と意味（歴史的時間性と文化）が刻印されている。所謂「風景」や「風土」という言葉で表されるものであろう。現代の都市施設計画における手法が、こうしたその、そこに根ざした「場所性」から目をそらした、抽象的普遍的な形態操作術に拠ってきた結果がこうした「景観」と呼ばれる類型的な都市の視覚的世界を作り出したといえる。

具体的な都市と場所を題材にして「場所論」という共通する切り口で、さまざまな問題にアプローチする。

【授業計画】

建築における、「空間論」「場所論」に関する諸理論の読解。建築家の語る制作論に対する批判的分析。

具体的都市の選定、問題点の把握とその都市の読解。

場所性を支えるものの発見と、それに基づく具体的な建築あるいは都市施設の提案、問題解決の手法の提案。

以上のプロセスを、全員参加による議論の深化に基づいて解答を見出しながら進める。

【評価方法】

プロジェクトへの参加と、問題理解の深度を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。参考文献を適宜紹介する。

地域社会特別研究　M-05 a・b

辻 紘良

【授業の概要】

地域の開発計画や交通問題等の中から今日的な個別問題を取り上げ、その実態や課題を明らかにするとともに、将来の地域づくりの在り方について方策を提言し、その効果を分析評価する。

【授業計画】

（個別問題の例）

（1）車いすの経路誘導システム

車いすの移動負担度を考慮した車いすの経路誘導システムを研究する。このため、実験計測したデータに基づき移動負担度の推定モデルを構築するとともに、携帯電話の通信機能を用いて、携帯端末機に最適な経路を表示し伝達するシステムを開発する。

（2）ネット通信を利用するカーシェアリング

インターネットにより簡易に不特定多数者間で対話型通信が可能なことを利用し、通勤・帰宅時に通信ネットワークを形成しカーシェアリングシステムを構築、運用する。このシステムの可能性について、名古屋市の代表的な地域を対象にシミュレーションモデルを構築し、分析を行い本システムの成立可能性評価を行う。

（3）福祉ネットによる身障者向け経路誘導

身障者向けに福祉ネットを構築し、最寄り施設等への経路誘導情報の提供を行う。このシステムの可能性について、代表的な地域を対象に研究室内ネットシステムを構築し、本システムの成立可能性を検討する。

研究の実施過程において分析方法や技法を教示するとともに、同時に学生の研究と論文作成に対する個別助言指導を行う。

前半は交通の実態調査や実験計測が主、後半は具体地域を対象にモデルを作成しシステムを開発するとともに、分析を行う。これに考察を加え修士論文にまとめる。

【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of 11th World Congress On Intelligent Transport Systems (ITS' 04)，他

地域社会特別研究　M-05 a・b

竹村 弘

【授業の概要】

わが国経済社会は、「平成の10年代不況」から「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続する中で、行財政改革・金融改革・少子高齢化・地球環境問題など歴史的な大変革に直面している。日本経済・地域開発を中心に諸課題を幅広く取り上げ、実証的に研究する。

【授業計画】

院生が主体的に作成した論文作成スケジュールを基に、研究進捗度に応じた助言と指導を行う。

【評価方法】

研究への取り組み姿勢と研究の進捗度。

【テキスト】

必要に応じて個別に使用する。

地域社会特別研究　M-05 a・b

谷沢 明

【授業の概要】

地域文化の継承に関わる諸問題を取りあげ、その調査分析手法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。フィールドワークを中心とした地域研究を志向し、既往研究を踏まえて独創的調査研究を目指す人を対象とする。

【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介する。

地域社会特別研究　M-05 a・b

榊原國城

【授業の概要】

この授業の主題は、学生自身の個人研究活動を通じて判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけ、研究能力を高めることにある。

受講学生は、担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用することによって実証していくという研究活動を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。発表者、およびコメンテータは事前に指定しておく。

【評価方法】

参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会特別研究　M-05 a・b

石田好江

【授業の概要】

消費、家族、労働、地域福祉などライフスタイルに関するテーマを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、受講学生の研究と論文作成に対する個別的な指導を行う。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文により評価する。

【テキスト】

使用せず。

地域社会特別研究　M-05 a・b

千葉善根

【授業の概要】

戦後、日本の食生活や食文化は急激な変化をした。食と人間との関わりを探りながら日本の伝統的な食文化、食の社会的・精神的役割、多様化した現代の食生活などについて研究する。

上記の研究について、その方法を教授するとともに、論文作成の助言を行う。

【授業計画】

各自のテーマに従い個別指導を行う。

【評価方法】

参加状況と研究の進展状況により評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

国際社会特別研究　M-05 a・b

藤瀬浩司

【授業の概要】

世界経済の構造と発展―20世紀の世界経済の発展を主要テーマとして、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成のための準備作業を指導する。

【授業計画】

各学生が自己テーマについて研究の進捗状況を適宜発表し、指導をうける。時間については相談のうえ決定する。

【評価方法】

参加状況と個別研究の進み方で評価する。

【テキスト】

なし。

国際社会特別研究　M-05 a・b

秦 忠夫

【授業の概要】

国際経済・金融問題

国際経済・金融問題を採り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

研究ならびに論文の進展具合いで評価。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別研究　M-05 a・b

渡辺かよ子

【授業の概要】

教育に関する各自の修士論文の完成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

【授業計画】

1．研究方法論
2．研究テーマの重要性と先行研究の検討
3．論文の構想と構成
4．原稿執筆と内容検討

【評価方法】

中間報告と論文。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

国際社会特別研究　M-05 a・b

西尾林太郎

【授業の概要】

修士論文作成のための基本文献の講読と論文指導を行う。その文献は各自テーマによって異るので、個別に選定するが、前期はできるだけ最大公約数的な基本文献を全員で読み、後期はグループ別又は個別に読んで行きたい。そして随時、修士論文の章または節にあたる部分あるいはそれらに関連するテーマについてレポートを作成し、報告をしてもらう。特に後期はレポート報告が中心となる。

【授業計画】

前期　a　テーマ別文献リスト作成
　　b　テーマ別ベータベース作成
　　c　基本文献講読
　　d　各自のテーマによるレポート
後期　a　各自のテーマによるレポート
　　b　修士論文の構成
　　c　テーマ別データベースのチェック

【評価方法】

出席状況とレポートおよびいろいろな成果を総合して評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度、指示する。

メディアプロデュース特別研究　M-05 a・b

坂元 多

【授業の概要】

テレビ、映画など映像メディアを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行ない、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

一つの映像メディアからどのような研究テーマが抽出できるか、さまざまなケースを例示し研究の分野、方向をさぐる。

【授業計画】

キーとなる先行の論文の読み合わせをベースに質疑など、討議法を加えた進め方をとりたい。

【評価方法】

レポート提出によって評価

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究　M-05 a・b

親松和浩

【授業の概要】

情報メディア技術の可能性を探究する。携帯端末やパソコンのネットワーク利用に中心とするが、受講者の興味に応じて広い範囲からテーマを選定する。研究方法の教示と助言を行い、研究論文作成の指導を行う。研究テーマにはシステム設計/試作を行うものも含める。

【授業計画】

テーマごとの個別指導を行う。学部学生との連係も考慮に入れ、研究の進展の度合いに応じて各種学会での成果発表も視野に入れる。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース特別研究　M-05 a・b

五島幸一

【授業の概要】

メディアを媒介としたメッセージをレトリック批評の観点から取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的助言をおこない、論文作成を指導する。

【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

とくになし。

メディアプロデュース特別研究　M-05 a・b

大西 誠

【授業の概要】

メディアは情報やメッセージを伝える媒体でありながら、メディアの形態そのものがメッセージを発信するというマクルーハンが指摘した現象が顕著になっている。理論のよりどころとなるアクチュアルな現実を直接経験することを重視しながら「現代」をプロデュースする感覚・感性を研ぎすます。さらに各自が研究テーマを発掘し、仮説を立て、調査、分析し、検証する。

【授業計画】

個別指導により、以下の目標を達成する。

・メディアの現状と個別の研究テーマを関連づけ、各自のプロデュース感覚を養う。
・焦点化した調査、資料の収集と目標との関連性、仮説の設定あるいは企画立案など実証的アプローチを明確にし、計画性を明確にする。
・院生相互あるいは学部学生との連携などによって、論文あるいは制作の構成の批評・検討をすすめる。

【評価方法】

先行研究のまとめなど調査研究のリポート、口頭発表と討論などで、総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究　M-05 a・b

太田浩司

【授業の概要】

様々なコミュニケーションメディアを通して繰り広げられるグループ間、異文化間のコミュニケーションを研究する。ネット、新聞などで繰り広げられる様々なコミュニケーション上の問題を取り上げて理論的に分析し新しい理論展開を試みる訓練を行う。

【授業計画】

詳しい授業予定は学期の最初に説明する。

【評価方法】

学期末ペーパー

【テキスト】

未定

メディアプロデュース特別研究　M-05 a・b

石田米和

【授業の概要】

メディアのグローバル化を念頭に置き、認知科学および比較文化論等の視点から、特に映像メディアのコンテンツの普遍性等について、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

概要は以下の通りである。

・コンテンツに係わる諸問題の抽出
・表現方法と社会的認知- 普遍性・個別性と認知
・社会的認知と社会的文化的文脈- 認知ギャップの要因
・メディアのグローバル化と情報内容・表現方法- 表現の自由とルール
・その他

【評価方法】

・レポート、定期試験および出席状況、受講態度によって評価する。

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

授業内で適宜紹介する。

都市環境デザイン特別研究　M-05 a・b

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋建築の歴史と歴史的建造物の保存と再生を柱として、文献講読を中心に授業を進める。

授業は、参加者の興味と担当者の専門性を考慮して、半期ごとに異なった文献を選びながら進める予定である。また、本演習は修士論文の研究指導を兼ねているので、資料収集の方法や論文の読み方、書き方にも重点を置く。

【授業計画】

1）西洋建築史および歴史的建造物の保存と再生に関する論文や書籍を持ち寄り、その中から適切な主題をあつかったものを選び、読み合わせる。
2）読み合わせには、分担を決めてあらかじめ資料を用意し、理解の助けとする。
3）論文のまとめ方を指導する。

【評価方法】

参加の状況によって判断する。

【テキスト】

未定。必要に応じて選択し、必要な資料は配付する。

都市環境デザイン特別研究　M-05 a・b
吉田邦彦

【授業の概要】

高度情報社会における都市・建築のあり方、建築設計の方法に関する諸問題の解明、あるいは問題解決のための方法の提案を主要テーマとする。

上記テーマをもとにして、今日の都市・建築の設計および計画におけるさまざまな問題を取り上げて、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別な助言を行い、論文作成または研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による修士論文の進行にあわせて、その折々での調査・検討の結果について共同で議論し、指導する。

文献収集、既往の論文の検討、研究テーマに対するアプローチの方法など、研究テーマに関する基本的な事項を中心に指導する。

【評価方法】

提出された論文の内容、形式の水準と、学生の授業中での議論に対する積極性によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

都市環境デザイン特別研究　M-05 a・b
日色真帆

【授業の概要】

建築や都市空間について、既になされたデザインについての分析と、新しいデザイン方法の開発を大きなテーマとして、学生がそれぞれにテーマを絞り込み研究をすすめるための指導をする。

【授業計画】

個別指導。

【評価方法】

レポートによる評価。

【テキスト】

特になし。

なお、以下の本は論文をまとめる参考になる。文化系の人にも推薦できる。

理科系の作文技術（木下是雄　中公新書）

レポートの組み立て方（木下是雄　ちくま学芸文庫）

都市環境デザイン特別研究　M-05 a・b
垂井洋蔵

【授業の概要】

都市、建築にかかわる種種の事象や具体的な建築作品あるいは建築家を題材として、空間や場所に関わる現象、あるいは建築作品の制作に関わる諸思潮の理解と建築論的解釈をおこなう。題材とする事象は、学生の主体的な志向性に期待するがいくつかの例をあげれば、

1）歴史上あるいは現代の建築家を題材にその作品と思潮を解明する作家論
2）具体的な建築を題材にその成立、歴史的意味、空間の独自性等を論ずる作品論
3）建築作品や集落の空間構造、や諸要素の構成等を論ずる形態論
4）建築空間や場所に関わる儀礼や祭礼を題材にして建築的な現象を読み取る意味論

などが考えられる。

【授業計画】

テーマの選定への助言と、考察のための基礎となる方法論を提示する。個別に論文の進捗にあわせた指導を行い、前後期継続して、各個人のテーマに合わせ、修士論文として纏め上げるための助言を与える。

【評価方法】

視点の新しさ、推論の論理性、分析の正確さなどを総合的に評価する。

【テキスト】

適宜テーマに沿って参考文献を提示する。

都市環境デザイン特別研究　M-05 a・b
太田 裕

【授業の概要】

「異常自然現象と人間社会の共生」を大枠とする領域で研究課題の選定を行い、事例研究の推進を計る。モデル地区としては近郊の都市を選び、現地（実態、資料）調査を中心におく。その中で、問題発見-解決-報告に至る一連の研究技法を体得する。したがって、授業形態は必然セミナー形式となり、受講者が率先かつ自力で課題達成に努めることとなる。

【授業計画】

前期

1．基礎知見学習
2．既往研究の体系的把握
3．課題の予備的実施

後期

1．課題解決実行プログラムの作成
2．現地・実（資料）調査の実施
3．レポートの作成

【評価方法】

レポートにより評価する。

【テキスト】

特にない。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

都市環境デザイン特別研究　M-05 a・b

清水裕二

【授業の概要】

さしあたり、現代社会を読みとる切り口として建築・都市・環境といったフレームを設定する。建築・都市・環境は、社会的存在としての人間（=自分自身）を包含した問題系であることを意識すること。その中での自らの立ち位置を自覚し、主体的に関われるような研究・制作・活動を目指す。具体的な内容は未定であるが、例えば次のような基礎作業が考えられる。

・建築・都市・環境の事例研究
・建築論・都市論・環境論の文献購読
・実際の建築設計、街づくり、環境に関わる活動などに参加

こういった作業を経て、最終的には発展的な提言・提案をまとめ、レポート、模型、映像など様々なメディアを用いてプレゼンテーションを行う。

【授業計画】

学生個々のテーマに沿って個別に指導する。

【評価方法】

授業への参加の姿勢、調査・分析の過程、レポートなどの成果物などにより総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

都市環境デザイン特別研究　M-05 a・b

齋藤基之

【授業の概要】

都市空間および建築内部空間における熱・空気・光・音環境の快適性や省エネルギー、地球環境への配慮等を基礎的なテーマに置き、受講者各自が課題を設定して研究を行う。

【授業計画】

研究課題の設定、研究計画および調査実施の手法、調査結果の解析手法、論文執筆方法などについて個別に指導する。

なお、研究成果は、各種学会等で発表することを視野に入れる。

【評価方法】

各自の研究への取り組み状況、得られた成果の水準や独自性を評価の対象とする。

【テキスト】

特になし。

海外実地研修特論

西尾林太郎　清水 洋　秦 忠夫

【授業の概要】

今年度は、「台湾の歴史と文化- 台湾から東アジアを考える」をテーマに、現地教育機関（淡江大学日本研究所）、日本の公的機関の現地オフィス（交流協会）、進出日系企業などを訪れて聴き取り調査・資料収集を積極的に行い、IT大国・台湾の経済発展の現状と問題点、東アジアという国際社会における台湾の政治・経済的位置及び日本との政治的、経済的、文化的関係考察してみたい。「台湾」という視点から、日本、韓国、中国について考えてみたい。淡江大学の大学院生（日本研究所）との交流を予定している。

【授業計画】

（1）事前研修：８月に、学内で数回の事前研修を行う（日時は未定、履修者と相談したい）
（2）現地研修：９月に約１週間、台北と台南を訪れる予定（日程と訪問先は未定）
（3）事後研修：帰国後に研修報告会を実施する。

【評価方法】

事前研修での発表、現地研修での活動状況、帰国後の報告・レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用しない。

【参考文献・資料】

事前研修で指示すると共に、参考資料を配布する。

主題講義 I

辻 紘良　川澄未来子

【授業の概要】

インターネットITS（Intelligent Transport Systems）といわれ、携帯電話の通信機能を生かした新しい交通システムの研究開発が国内外で活発に進められている。さらに昨今、ユビキタスITSといわれ、どこでも手軽に利用できる通信技術の進展を背景に、地域の情報に基づく交通システムの研究開発が進められている。

この講義では、ITSの地域交通への展開を主に取り上げ、現在この分野で注目されている中心的なテーマ、技術開発動向等を概観するとともに今後の動向について展望する。また、現在研究開発中の技術や導入されたシステムなど、具体的事例を取り上げ紹介し、現状を知るとともにその可能性や問題点を把握する。

これらを通して、今日の移動通信やマルチメディアの可能性と問題点を把握する。また、これらITSの動向を背景に、交通渋滞や環境汚染に悩む地方都市、少子高齢化や過疎化で悩む地域の町おこし、地域交通のバリアフリー化等への展開、あるいは現在地域が抱えている問題の解決方法について討議し、提案を試みる。

【授業計画】

1．学識経験者および専門家によるITS概観
（1）アジア米欧各国のインターネットITSの地域交通への技術展開およびシステム導入の現状
（ITS-Japan, ITS-America, ERTICO等の動き）
（2）国内におけるインターネットITSおよびユビキタスITSの開発、システム導入の状況と今後の動き
（UTMS, AHS, VICS, ナビ 他）
（3）ITSを活用する地域開発、バリアフリー化の動向
（コミューターバス、カーシェアリング、歩行者支援）
（4）研究開発事例紹介
（車いす経路誘導システム）
2．ITSシステムの応用に関する討議、提案
地域開発（町おこし）、バリアフリー化等への応用システムを提案、討議しまとめる。
3．Technical Tour
05年愛知万博交通システム、交通管制センター、企業等を訪問、ITSシステムを視察する。

【評価方法】

出席状況、発表・討議やレポート提出内容により評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

Proceedings of the 11th World Congress on ITS at NAGOYA, October 18-24, 2004

国際理解教育Ⅰ

羽場俊秀

【授業の概要】

開国の実現によって鎖国時代の閉鎖社会から、急速かつ広範な外国文明の積極的な受容社会への変換によって、近代日本の発展がはじまった。

幕末から明治維新にかけて、西洋の進んだ技術文明がどのような教育的経路をたどって日本に導入されたかを学習する。

【授業計画】

1．幕府の近代化政策と日本の近代化に及ぼした教育的効果
（1）近代化への萌芽過程
（2）幕府の海外使節団派遣
（3）海外への留学生派遣
（4）洋学の摂取
2．明治新政府発足と外国文明の積極的な受容のための教育政策
（1）海外視察団の派遣
（2）明治初期の外国語教育
（3）明治期の海外留学制度の整備

【評価方法】

レポートおよび発表により評価を行う。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

国際社会特別講義Ⅲ（国際関係論）

清水 洋

【授業の概要】

アジア地域では、1960年代後半以降、韓国、台湾、香港、シンガポールの4カ国が輸出志向型政策を導入して急激な工業化を達成したが、1980年代後半にはASEAN 4（マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ）が、さらに90年代には中国やベトナムなどが同様に台頭してきた。本講義では、これらの国の社会・経済発展において日本が果たした役割を多角的に考察する。

【授業計画】

講義を主体とするが、研究発表、討議も適宜行う。

1）アジアの経済発展と日本
2）～3）アジアにおける日本人
4）～7）製造業のアジア進出
8）～9）百貨店の対アジア進出
10）～12）日本人観光客とアジアの観光産業
13）その他

【評価方法】

討議への参加度、レポートなどによる評価。

【テキスト】

シンガポールの経済発展と日本（清水洋著）。

【参考文献・資料】

日本企業アジアへ－国際社会学の冒険（園田茂人著　有斐閣）
日本企業のアジア展開（小林英夫著　日本経済評論社）
日本と東南アジア（吉川利治編著　東京書籍）
からゆきさんと経済進出－世界経済のなかのシンガポール・日本関係史（清水洋・平川均共著　コモンズ　1998年）。

地域社会プロジェクトⅣa・b

石田好江

【授業の概要】

前期

少子化に長寿化が重なり年少人口は漸減、老年人口は急増しており、2016年には年少人口は老年人口の半分になるものと見込まれている。少子化や人口減少問題の原因や評価をめぐっては様々な議論がある。前期は、そうした原因、評価、影響等についての議論を整理し、それを踏まえて、マクロ・ミクロのそれぞれの視点から21世紀型の社会のあり方について考えてみたい。

後期

現在、地域コミュニティのもつ基礎集団としての役割や機能が改めて見直されてようとしている。そうした流れをふまえ、NPOや生活とビジネスを結ぶ広義のコミュニティ・ビジネスに注目し、そこにおけるコンセプト、マーケティング、働き方等について調査・研究し、そこから閉塞する地域を切り拓く方途を提言する。

【授業計画】

講義と討論の後、一定のテーマにもとづいた調査・分析を課し、レポートとしてまとめる。

【評価方法】

プレゼンテーションと課題レポートによって評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜、資料を配布するとともに、参考文献についても授業の中で紹介する。

地域社会プロジェクトⅢa・b

谷沢 明

【授業の概要】

テーマは「歴史的文化遺産を活用した地域づくり」及び「伝統的民家の保存・再生・活用」。

河辺泰宏教授担当の都市環境デザインプロジェクトⅣa・bと連携して実施する。

【授業計画】

「概要」に記したテーマに基づくフィールドワークを集中的に実施し、その成果のプレゼンテーションを行う。

学外教育として現地調査を実施する。調査地は未定。実費を各自負担のこと。詳細については、履修登録後に掲示する。

【評価方法】

プロジェクトへの参加の度合、及び成果発表等のプレゼンテーションにより評価。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。

まちづくりの実践（田村明著　岩波新書）
町並みまちづくり物語（西村幸夫著　古今書店）
歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり（大河直躬編　学芸出版社）
都市の歴史とまちづくり（大河直躬編　学芸出版社）
新・町並み時代（全国町並み保存連盟　学芸出版社）

国際社会プロジェクトⅢa

清水 洋

【授業の概要】

英文資料（新聞・雑誌記事、学術論文等）を用いて、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・教育などの視点から多面的に考察し、討議を通じて知識を深める。

【授業計画】

第1回～13回　アジア社会をテーマとした英文資料を和訳し、討議を行う。

【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

都市環境デザインプロジェクトⅠa・b

日色真帆

【授業の概要】

都市環境をわかりやすく魅力あるものとする方策を、空間認知研究の成果をふまえて具体的に探る。名古屋の中の複雑な都市空間を対象とし、調査と分析を行い、さらにデザイン的な提案をまとめ、プレゼンテーションをまとめる。一連のプロセスを経験することで、都市環境の改善活動について具体的に学習する。

【授業計画】

・都市環境を対象とした空間認知についての講義。
・複雑な都市空間についての事例収集。
・都市空間のデザイン手法についての学習。
・対象とする都市空間の調査と資料収集。
・分析結果の中間発表と教員による講評。
・環境改善についての提案の作成。
・プレゼンテーション手法についての学習。
・プレゼンテーションの作成。
・最終講評会におけるプレゼンテーションと講評。
※対象とする都市空間は授業の中で発表する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザインプロジェクトⅣa・b

河辺泰宏

【授業の概要】

文献講読やフィールドワーク等を通じて、歴史的建造物や伝統的町並みの保存と再生に関して体験的に学ぶことを目的とする。

（授業は谷澤明教授担当の「地域社会プロジェクトⅢ」と連携して行う。）

【授業計画】

1）参考文献の輪読。
2）フィールドワークの実施とその成果発表。
3）映像資料の視聴と討論。

フィールドワークにおいては、文献に記載された事例を訪ねたり、その他の事例を探して手分けして調査を行い、レポートを作成する。フィールドワークの対象は、授業の中で適宜相談して決めるが、妻籠、奈良井、熊川、舞鶴、金沢等をはじめ、場合によっては韓国など海外へ足を延ばすこともある。

【評価方法】

プロジェクトへの参加の度合い、およびレポートとその発表により評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて配布

主題講義Ⅱ

親松和浩　太田浩司

【授業の概要】

情報メディア技術の進展がもたらした社会の情報化という変革は、社会の中での個人のあり方だけでなく、個人と個人の関係にも影響を与えるほどの大きな変化をもたらしつつある。この講義では、メディア社会における個人のあり方について、メディア技術やコミュニケーション論など様々な観点から考察する。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。講義の前提となる、問題の提示の後、さまざまな分野の講師による講義を行い、最終的な討論と総括を行う。

詳細なテーマは別途決定次第発表する。

【評価方法】

授業への参加態度と報告レポート等で評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

未定

国際理解教育Ⅱ

羽場俊秀

【授業の概要】

第2次世界大戦による日本の孤立から、敗戦によるアメリカ軍の日本占領政策としての日本教育の民主化の導入が、日本経済の発展にどのような影響を与えたかを考察するとともに、世界の経済大国となった日本の国際理解教育の現状を分析し、今後の望ましいあり方を求めることを主眼とする。

【授業計画】

1．日本の民主化政策として教育改革
（1）戦後の民主教育への移行とアメリカ教育使節団
（2）新しい教育制度の導入の教育的意義
（3）高等教育機関の充実（新制大学）
（4）教育内容の変化と対応
2．日本における国際理解教育の発展と現状
（1）戦後の留学制度の変遷と拡充
（2）中学・高校における国際理解教育の現状と課題
（3）中学・高校における外国人教員の現状と課題
（4）外国人留学生の受け入れの現状と課題
（5）現代の留学事情

【評価方法】

レポートおよび発表により評価を行う。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

地域社会特別研究ＤⅠ-05a・b（地域産業論）

谷口 茂

【授業の概要】

いずれの産業（企業）も、それが立地する地域の特性の影響を受けざるをえない。この点を明らかにするのが、本授業の目的である。名古屋市を中核とする東海地域を研究対象に取り上げ、同地域の産業の現状を分析し、その課題の解明に努め、活性化のための方策を探究する。そのさい、産業と地域との相互関係の分析を最も重視し、また実証的調査にも重点をおき、さらに地域の労働力の量と質も視野に入れたい。授業では、研究発表・討論の活用を通じて、学生が自主的・自発的研究姿勢を習得するように配慮する。また論文指導にあたっては、学生の個性や資質に応じた個別的指導助言を行い、優れた研究者を育成することを狙いとする。

【授業計画】

学生の希望を尊重して、博士論文のテーマを慎重に決定する。このテーマについて、３年間で、Ａ４版で100枚の博士論文を作成する。年間に15枚の論文を２本書き上げ、それを大学の論集と外部の専門誌に投稿する。その結果、３年後には、100枚の博士論文が完成することになる。その過程で、週１回の講義を通じて、学生に適切な指導・助言を行う。

【評価方法】

学生が書き上げた論文の評価と出席・研究熱意の評価に基づいて、総合的に決定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

論文作成に必要な文献を指示し、必ず熟読するように指導する。

地域社会特別研究ＤⅡ-05a・b（地域交通論）

辻 紘良

【授業の概要】

現在移動通信技術や情報技術の著しい進展を背景に、いわゆるITS（Intelligent Transport Systems）と総称される自動車交通に関する新たな技術・システムの開発および普及が急速に進められている。この授業では、ITSの地域交通への展開を取り上げ、現在この分野で注目されている中心的なテーマ、技術開発動向等に関し検討し、問題の解決方法を研究する。この過程で学生の優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。

【授業計画】

博士後期課程を３年で終了しようとする場合、第１年次で文献・資料調査にもとずく研究テーマの設定、研究方法の把握に主眼を置き、第２年次でデータ収集、システム構築、問題解析等によって独自の研究成果をうることに集中し、第３年次で論文の完成に向かうよう指導する。

【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えをみて、総合的に評価する

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of the World Congress of 11th World Congress on Intelligent Transport Systems (ITS'04)，他

地域社会特別研究ＤⅢ-05a・b（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

地域社会における物質文化と精神文化の両面を対象とし、人間が自然に対峙し共存しながら築いてきた生活様式と内容を取り上げる。主な指導内容は、１）新しい文化と生活様式を創造する機能を有した多様性のある地域づくりの研究、２）歴史や風土、文化的蓄積等の地域特性を生かした自立的な地域づくりの研究、３）個性と伝統のある地域文化の保存と活用、および歴史的環境の保全を図りつつ行う地域づくりの研究等である。また、参加学生の学位論文作成を指導する。博士後期課程を３年間で修了しようとする場合、第１年次で研究テーマの設定、既往研究の把握、文献・資料の確認、野外調査の指導に主眼を置き、第２年次で、野外調査の実施、および文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第３年次で論文の完成に向かうよう指導する。

【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介する。

地域社会特別研究ＤⅣ-05a・b（組織行動論）

榊原國城

【授業の概要】

組織との関わりなしに生きることが非常に困難であることは現代社会の重要な側面である。言い換えれば、組織に対する個人の積極的な関わりが、組織に対する真に自由で創造的な感覚を生むのではなかろうか。そのためには、組織と人間との関わりについて、さまざまな側面から考察することが大切であろう。このような観点から組織内で人々が示す態度や行動を体系的に取り扱おうとする学問が組織行動論である。

本授業で扱う主要なテーマは、職業適性および職業選択、仕事への動機づけおよび職務満足、集団とリーダーシップ、コミュニケーションと人間関係、業績評価と報酬システムなどである。参加学生には、これらの研究領域に関連する内外の研究をレビューし、それらに対する評価を中心とする発表や討論を促し、必要に応じて種々の助言を与える。

博士後期課程を３年間で修了しようとする場合、第１年次で文献研究、研究テーマの設定、研究デザインの設計を終え、第２年次においてはデータの収集、解析を集中的に行い、第３年次で学位論文の完成に向かうよう指導する。

【授業計画】

個別指導

【評価方法】

中間報告と論文による評価

【テキスト】

使用せず

国際社会特別研究ＤⅠ-05a･b(国際社会発展論)

藤瀬浩司

【授業の概要】

近現代において各国が辿った社会経済発展、および世界システムの構造変化を取り上げ、現在この分野で問題とされている中心的なテーマ、研究方法、論争点、文献・資料を開示し、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を３年間で修了しようとする場合、第１年次で、研究テーマの設定、研究史の把握、文献・資料の確認に主眼を置き、第２年次で、文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第３年次で論文の完成に向かうよう指導する。

【授業計画】

1．各テーマについて、最近の研究動向を検討する。
2．参加学生が自身の研究状況を報告し、指導を受ける。
3．学位論文の作成に対して助言する。

【評価方法】

報告および討議の参加によって評価する。

国際社会特別研究ＤⅡ-05a･b(国際教育交流論)

渡辺かよ子

【授業の概要】

教育文化交流を国際的視点から検討する各自の博士論文の完成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

【授業計画】

1．研究方法論
2．研究テーマの重要性と先行研究の検討
3．論文の構想と構成
4．原稿執筆と内容検討

【評価方法】

中間報告と論文。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

国際社会特別研究ＤⅣ-05a・b（日本政治・比較政治論）

西尾林太郎

【授業の概要】

近代日本の政治・外交・社会等の分野の近代化とその特質について、中国、韓国等のアジア諸国や欧米諸国との比較検討を通じて考察する。日本を含め各国の近現代史に関する文献をはじめ、比較近代化論や比較政治に関する文献の講読と各種の歴史資料の解読・分析を通じ、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。同時に、授業内における発表・討論や個別的な助言とにより、学位論文の作成を指導する。なお、博士後期課程を３年間で修了しようとする場合、第１年次で研究テーマの設定、内外の研究史の把握、文献・資料の収集とその内容の検討、第２年次で文献・資料の分析についてそれぞれ指導する。そして第３年次では、学位論文の作成について指導し、その完成を期したい。

【授業計画】

1．基本文献の購読及びレポートの作成
2．論文作製

【評価方法】

指示された課題達成状況を総合的に評価する。

メディアプロデュース特別研究ＤⅠ-05a･b（映像表現論）

坂元 多

【授業の概要】

映像表現に関わる内外の中心的な論文の読み合わせを行う。論文の内容把握が一つの狙いであると同時に、その論理の組み立て方、資料の使い方、結論への導き方、用語や、概念の定義の仕方など論文執筆のための枠組みも学びとらせる。論文のジャンルとしては、映像番組制作に重点をおき、番組分析の基本となるエンコーディング、ディコーディングに関する論文、番組制作の基本となる映像編集やナレーションに関する論文、具体的な番組論としてのケーススタディなどを扱う。

【授業計画】

進度、年次によって個別にアサインメントを考える。論文の完全理解を目指すので、文中にでてくる概念、用語、固有名詞の意味など細部にわたる学習結果の相互発表と討議によって授業はすすめられる。

【評価方法】

担当発表部分に関しての理解度を示すショートエッセイをもって評価する。

【テキスト】

必要に応じて個別に用意する。

【参考文献・資料】

Cult Movies and Intertextual Collage（Umberto Eco；Casablanca）
The Cellu Loid Closet（vito Russo）
Explorations in Film Theory（Ron Burnett）

メディアプロデュース特別研究ＤⅡ-05a・b（メディア文化史論）

山田登世子

【授業の概要】

現代メディアの生産と需要を歴史的に把握することを目的とするメディア文化史は優れて学際的な学問領域であり、幅広い知識が要求される。第１年次では、複製技術論、読書論等々、広領域にわたる基礎文献の習得を徹底化させるとともに、研究対象をいかなるメディアに焦点化するか、テーマ選択を指導する。つづく次年度は、選択した研究テーマに従って、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディア体験の理論的分析を課題とし、その成果を逐次授業で報告させつつ、学位論文にまとめさせる。

【授業計画】

ゼミ（あるいは個人指導）方式をとる。
上記授業概要に従って、毎回報告レポートを提出すること。
その報告を指導するかたちで授業をすすめる。
場合によって、長文のレポート提出を課す。

【評価方法】

授業の平常点を重視する。評価は授業時のレポートおよび期末レポートによる。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

メディア論（マクルーハン　みすず書房）
複製技術時代の芸術（ベンヤミン　ちくま文庫）
写真論（ベンヤミン　ちくま文庫）

メディアプロデュース特別研究ＤⅢ-05a・b（メディア環境論）

大西 誠

【授業の概要】

現代の映像文化を教育の視座から、放送メディアとの関係に注目し、研究文献や作品を通じてメディア環境を縮約的に理解し、各自の課題の発見と解決のプロセスを明らかにする。あわせて、現在の高度情報化社会の映像文化の特質やテクノロジーのディテールを取り上げ、メディア環境の個別的課題を社会的・文化的文脈の中で分析する手法を開発・養成していく。具体的には、各自の課題レポートの発表・討論などを通じて、研究方法や分析方法、ひいては論文作成を個別的に指導する。年次を追うごとに課題発見から調査研究、分析と論文作成を段階的に指導する。

【授業計画】

メディアのプロデュースを仮説としてシミュレートするとともに個別の指導による論文作成を行う。

【評価方法】

研究ノート及び学会発表などで総合的に評価する。

【テキスト】

別途指定する。

メディアプロデュース特別研究ＤⅣ-05a・b（レトリック批評論）

五島幸一

【授業の概要】

古代ギリシャ・ローマ時代からの流れを受け継ぐレトリック批評は、元来スピーチ批評として発達してきた。しかしながら、現代のメディアの発達に伴い、様々なメディア（テレビ、映画、広告など）の中身（コンテンツ）も分析するようになり、その分析対象は言語のみならず非言語にも及ぶようになった。このレトリック批評の流れを把握し、その理論を現実の問題の解決に応用できうる知識を養う。

第１年次では、レトリック批評理論の歴史的な流れに焦点を当てて、その特徴を考察する。つづく第２、３年次では、現代レトリック批評を視座の中心とし、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディアのメッセージを理論的に分析することを課題とし、その成果を授業で報告させ、学位論文にまとめさせる。

【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

とくになし。

都市環境デザイン特別研究ＤⅠ-05a・b（情報化建築論）

吉田邦彦

【授業の概要】

最近の情報通信技術（IT）の進歩は著しく、建築のあらゆる領域に大きな影響を与えつつある。建築とITとの関わりにおける問題など建築計画上の諸課題を取り上げ、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。

学生は、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心を持つテーマを設定し、既往の研究の確認、研究方法などを中心に調査研究する。その上で、新たな研究調査を実施させ、独自の研究成果を得るように、そしてそれらの結果をもとに研究をさらに深化させ、学位論文として完成するように研究指導する。

【授業計画】

上記授業概要に従って、各自の研究テーマに関する研究発表とその討論および助言・指導を行う。

【評価方法】

１年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

都市環境デザイン特別研究ＤⅡ-05a・b（建築歴史・意匠論）

河辺泰宏

【授業の概要】

古代から近代に至る建築の歴史とデザイン様式について、文献講読や資料収集、現地調査等を通じて学び、特定のテーマについて新しい見地を得て論文等にまとめる。

【授業計画】

受講生の関心と先進的な研究課題とを考え合わせて、講読すべき文献や資料を選んでセミナーを行う。また、必要があれば調査などを計画していく。

【評価方法】

研究成果をまとめたレポート、論文、研究発表等によって総合的に判断する。

【テキスト】

必要に応じて指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

都市環境デザイン特別研究ＤⅣ-05a・b（建築・都市空間デザイン論）

日色真帆

【授業の概要】

建築・都市空間のデザインに関して、環境行動研究、人間環境系の計画理論、設計方法論などの成果を踏まえて倫理的考察を進める。その一方で、都市居住に関わる現代都市の具体的問題を対象に行う調査分析と、様々な共同作業を支援する新しい設計手法の開発とを実践的課題として掲げる。これらの研究分野について指導し、それを受けて学生は、教員および他の学生と協力して研究を進める。学生との論議を重ねて個別の学位研究テーマを絞り込むよう指導する。調査分析、研究発表、学位論文の作成等に関する技法上の指導も併せて行う。

【授業計画】

個別指導。

【評価方法】

論文による評価。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン特別研究ＤⅢ-05a・b（地震防災計画論）

太田 裕

【授業の概要】

地震からの安全確保はわが国はもとより世界60余に及ぶ地震国の悲願であり、これに資する学理の建設が急務である。このためには地震の発生－被災に至る諸象を正確に分析・解明し、防災・減災への計画・戦略立案へと展開する一連の考究が必須となる。これを根幹におき、受講者の関連基礎知見・研究関心等を勘案し、受講者との協議を経て個別課題を設定する。その上で、関連分野の専門書・主要文献の選定を行い当初はこれらをセミナー形式で講読する。基礎知見の習熟と併行して、受講者が主体的に個別課題考究へ移行できる態勢を整える。若手研究者としての資質涵養・実践力付与に目標を置く。

【授業計画】

したがって、初期は受講者を主体とするセミナー形式で専門書・文献講読を進める。併行して、個別課題考究への計画・段階目標をうち立て、研究実践に入る。この段階では受講者による方針提案・中間報告、等々を素材とする水平的討議が主な授業形態となる。

【評価方法】

前半期は専門書・文献等の抄読結果（レポート）が主となる。後半期は研究成果の学会等への報告も可能となり、評価の対象となる。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

受講者の基礎知見・研究意欲、関心等を踏まえた上で、関連専門書・文献等を適宜用意する。

生体情報心理学特講1・2（脳と認知情報処理）

沖田庸嵩

【授業の概要】

社会的コミュニケーションに関わる脳内認知情報処理を心理生理学的な観点から探る。前期は、まず脳研究全般の概略を把握し、ついで事象関連脳電位（ERP）の特性と基本的な研究パラダイムについて理解を深める。後期は、注意・記憶・言語・顔認知に関わる近年の知見とモデルを学ぶ。

【授業計画】

前期

1．Kandel, E. R. (2000) The brain and behavior. In: E. R. Kandel, J.H. Schwartz, and T.M. Jessell（Eds）. Principles of Neural Science, 4 th edition, pp. 5－18. McGraw－Hill. この文献の内容を受講者が分担して報告し、講読を進める。

2．ERPで脳内認知情報処理を探る方策について講義する。

後期

3．注意・記憶・言語・顔認知、各テーマの総説を取り上げ、受講者が分担してその内容を紹介し、全員で討論する。

【評価方法】

分担報告の内容と授業への参加度により評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜プリントを配布する。

生体情報心理学特講3・4（感情の精神生理学）

清水 遵

【授業の概要】

生体が感覚刺激として受容する外界情報やそれらを処理する過程で派生する内部情報は様々な生理・心理的反応を惹起する。これら生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる情動のプロセスを精神生理学的観点から検討していく。

【授業計画】

前期は神経系の機能や生理指標に関する欧文書を講読、解説を加え、精神生理学の基礎的知識の習熟をめざす。

後期は、これまでになされてきた情動プロセスの精神生理学的研究に関する欧文書を輪読することで神経活動、内分泌系活動および免疫系活動との関連性についての知見を深める。

【評価方法】

授業への積極的参加度、文献内容理解力により評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜テーマに関連する文献を紹介する。

生体情報心理学特講5・6（認知神経心理学）

吉崎一人

【授業の概要】

まず心理学研究法の基礎を学び、さらに認知心理学、認知神経心理学に関連する研究論文の精読する。これらを通じて、実験パラダイム並びにその理論的背景について学習する。

【授業計画】

前期

Neuropsychology（神経心理学）の概論テキスト（英文）を読み、認知神経科学の考え方、方法論等を学習する。

後期

Psychological Science, Trends in Cognitive Sciences等の欧文誌を輪読する。

【評価方法】

レポーターの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

未定

生体情報心理学演習3・4

清水 遵

【授業の概要】

環境の快適性や情動ストレスとその精神生理学的及び神経化学的測定法に関する内外の文献を講読し、発表討論を行う中で各人のテーマ決定の方向づけを行う。

【授業計画】

1．環境の快適性に関する研究
2．高齢者感情コントロールに関する研究
3．パーソナリティとストレスの関連性に関する研究
4．唾液中感情関連物質の同定
4．その他

【評価方法】

発表討議内容、研究活動の報告レポートなどにより評価する。

【テキスト】

使用しない。

生体情報心理学演習５・６

吉崎一人

【授業の概要】

修士研究の完成を目指す。

【授業計画】

前期は、修士研究に関連した論文の紹介をレポーター形式で行う。
また実験計画について発表する。

後期は、実験結果のプレゼンテーションし、結果の解釈等について議論する。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容、授業への取りくむ姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず

社会心理学特講３・４（対人行動論）

斎藤和志

【授業の概要】

社会的認知や他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する思考や態度の研究を中心に検討する。対人行動や社会的事象をクリティカル（批判的）に考えるプロセスに焦点をあてる。いわゆる論理的思考や社会的認知の諸問題に加えて、人間や社会を考えようとする姿勢の重要性、社会心理学的な知見や考え方を現実社会の中に取り入れていくことの可能性などについてさまざまな視点から検討していきたい。

【授業計画】

テキストを受講者で分担し、発表者はその内容の紹介と引用文献や関連領域からの示唆などを含めて発表し、全員で討論していく。取り上げるテキストのキーワード（領域）としては「社会的認知」「クリティカルシンキング」「心理学教育」などがある。また、特に社会心理学の研究法についての文献は随時取り上げていく予定である。

【評価方法】

発表と討論への参加によって評価する。

【テキスト】

未定。決まり次第 URL：http://www2.aasa.ac.jp/~saitok/ で告知する。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

社会心理学特講１・２（コミュニティ心理学）

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティに内在する諸問題を、福祉臨床社会心理学ともいえる視点から扱うコミュニティ心理学は、一つには従来の個人臨床心理学の限界を補完ないし打開するものとして、また個人を取り巻く各種組織や小社会のシステムの実践的変革を目指す心理学として期待されている。ただ、わが国においてはまだなじみが薄く、研究実績的にも乏しいという現状に鑑みて、当面は、この新しい心理科学の実際を紹介することを課題と目標とする。

上記の理由から、啓蒙的意味を込めて、コミュニティ心理学の全体的概要を紹介することから始める。コミュニティ心理学の成立に至る背景・歴史、研究理念・目標、独特の研究方法、過去の中心テーマであった精神保健問題、今日の解決課題・テーマなど、主にアメリカのデータに基づきながら進めるが、これはまた日本の現在および近未来の姿でもあろう。

【授業計画】

スキレッピら著・植村勝彦訳『コミュニティ心理学』（ミネルヴァ書房）をテキストに、受講者に分担してもらいながら、また引用文献の紹介も分担してもらいながら討論を含めて進める。前後期とも継続で進行する。

また、Duffy & Wong著・植村勝彦監訳『コミュニティ心理学』（ナカニシヤ出版）、オーフォード著・山本和郎監訳『コミュニティ心理学』（ミネルヴァ書房）などの参考書を随時資料としながら補足する。

【評価方法】

前期、後期にそれぞれ課すレポートと、分担発表の成績により評価する。

【テキスト】

コミュニティ心理学
（スキレッピら著・植村勝彦訳　ミネルヴァ書房）

社会心理学特講５・６（比較文化心理学）

高井次郎

【授業の概要】

文化に関連する心理学の主要３領域を取り上げます。文化心理学、比較文化心理学および異文化間心理学の主なテーマを取り上げ、それぞれの領域の特異性について検討し、それぞれの研究のアプローチについて考えます。

【授業計画】

前期
1．文化の心理学について
2．文化心理学の特徴
3．文化と認知
4．文化と発達
5．文化と家族
6．文化とパーソナリティー
7．異文化間心理学の特徴
8．異文化接触の個人への影響
9．社会的アイデンティティ
10．人種偏見と差別

後期
1．異文化適応
2．異文化コミュニケーション
3．比較文化心理学の特徴
4．対人関係の比較
5．対人コミュニケーションの比較
6．比較文化心理学の研究法
7．文化的等価性の問題

【評価方法】

授業における参加とレポートによって評価します。

【テキスト】

適宜論文やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

適宜紹介します。

社会心理学演習１・２

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、深い学識と緻密な論理構成のもとに、各自が関心を持つテーマを設定し追究することによって、最終的には修士論文を作成することを課題と目標とする。

コミュニティ心理学のトピックスを扱っている専門誌である『American Journal of Community Psychology』、『Journal of Community Psychology』、『Journal of Community and Applied Social Psychology』、『コミュニティ心理学研究』掲載の論文を中心に、内外の著書、論文の輪読を通じてコミュニティ心理学の理解を深めること、また各自の修士論文につながる研究の展開を目指す演習とする。

加えて、実証的研究に不可欠な、データの統計的処理方法や、多変量解析の理論とその実際についても解説する。

【授業計画】

毎回個人発表を行い、取り上げられた論文やテーマについて徹底した討論によって、その内容や方法、論旨の展開を批判的に読みとり、論理的・実証的に再構築できる力を養う。とくに２年次学生については、修士論文作成に向けての助言・指導に当てる。

【評価方法】

毎回の個人発表、およびレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

臨床心理学特講１（精神分析的心理療法）

米倉五郎

【授業の概要】

精神分析的な心理療法について、その面接技法である面接契約、面接構造、面接途中で生じる転移と抵抗や逆転移、解釈などについて解説・討議していく。

【授業計画】

面接技法と方法については、主にテキストを中心とする講義を行うが、事例を取り上げながら臨床的に解説していく。

【評価方法】

授業内容の理解度、レポートにより成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

臨床心理学特講２（家族療法）

西出隆紀

【授業の概要】

家族を対象とした心理臨床について学ぶ。最初に家族臨床に関する概説を講義し、以降は家族に対して独自の立場から臨床実践を行ったマスターセラピスト達についてレポーターが調べ、その発表に対して受講者全員で討論する。またロールプレイによって、体験的理解ができるようにも工夫していきたい。

【授業計画】

０．現実の家族と心的現実としての家族（講義）
１．精神分析から見た家族
　Freud,S.　Klein,M.　Winnicott,D.W.
２．精神分析的家族療法
　Ackerman,N.W.　Bowen,M.
３．戦略的家族療法
　Erickson,M.の影響　MRIモデル　Haley,J.
４．構造派家族療法（Minuchin,S.）
５．システミック家族療法（ミラノ派）
６．解決志向的家族療法（BFTCモデル）

【評価方法】

レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

臨床心理学特講３（児童臨床）

西出隆紀

【授業の概要】

児童に対する心理療法、特に精神分析的なプレイセラピーについて学ぶ。レポーターが児童の分析家について調べ、発表する形式と、児童に対する精神分析的心理療法の実践論文の講読を週毎に交互に行う。実践論文に関してはHunter,M.著Psychotherapy with young people in care.を読む予定である。

【授業計画】

・レポーター形式
　１．Klein,M.のPlay technique
　２．Freud,A.のChild analysis
　３．Winnicott,D.W.の臨床実践
・Psychotherapy with young people in care.の講読
　１．Joseph-a therapy in pictures.
　２．Charlotte-Early deprivation and abuse.
　３．Restless children-Hyperkinetic disorder.
　４．Identity in crisis.
　５．Child sexual abuse.

【評価方法】

レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

臨床心理学特講４（医療心理臨床）

米倉五郎

【授業の概要】

医療・病院の心理臨床の職場における医師や看護師などの他職種のスタッフとの共同治療やコンサルテーション・リエゾン心理臨床での臨床心理士の実務と面接技法について講義する。

【授業計画】

まず、精神科領域における個人心理療法、家族療法、集団心理療法および心理検査法をめぐるコンサルテーション・リエゾン心理臨床の実際とその技法について、事例報告をまじえ講義する。次に他の一般科（内科、小児科、外科）との心理臨床の実務についても事例を中心にして解説していく。

【評価方法】

授業内容の理解度、レポートにより成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

学校臨床心理学特講

江口昇勇

【授業の概要】

スクールカウンセラーとして学校現場に入って活動する臨床心理士が身につけておかねばならない学校という場に対する知識と学校現場で教師と対応する場合に必要な技術、そしてなによりも一市民として身につけるべき礼儀を修得することを目標としている。

【授業計画】

第１講　スクールカウンセラーの導入にいたる経過
　スクールカウンセラー黎明期の苦難；学校側の困惑
第２講　「スクール・カウンセラー」になる準備
　スクールカウンセラー体験から学んだこと
第３講　現代中学生の健康度
　思春期危機をもたらすもの
第４講　現代高校生の健康度
　今どきの高校生はと言われる行動の背後にあるもの
　存在不安とそれへの対処
　むかつかずに授業に出ていけない教師の苦悩
第５講　教師とのかかわりにおけるポイント
　現場教師といかに渡り合うか
第６講　スクールカウンセラーの活動実践
　「影の仕事人」としてのスクールカウンセラー
第７講　スクールカウンセラーの新しい地平
　コミュニティ・アプローチの試み
　不登校の子どもをもつ保護者の自助グループ
第８講　不登校へのグループアプローチ
　不登校とキャンプ、キャンプにおける子どもたち
第９講　教師への現職教育；講義の場合
　教師対象の現職教育と研修プログラム
第10、11講　教師への現職教育；訓練プログラムの工夫
　対象理解と自己理解
第12、13講　スクールカウンセラーの現在と未来
　学校側が期待するSCとは?
　SCの研修プログラムとSVの必要性

【評価方法】

授業での質疑等、積極的受講態度を評価対象とする。

【テキスト】

テキストは使用しない。必要な資料を授業中、配布する。

臨床心理面接特講１・２

後藤秀爾

【授業の概要】

臨床心理面接の基本は、「相手を正しく理解する」という一事に尽きる。面接場面でのかかわりを通して、多面的に、多層的に、多次元的に、クライエントである大人や子どもの姿を理解する視点と、理解を深めるために必要な知識や知見を学習する。

【授業計画】

前期：
１）精神分析にかかわる基礎的な概念を整理して理解を深めるため、テキストとなる文献を定めて講読を行なう。まず、精神分析の創始者であるフロイトに焦点を置いて学習を深める。
２）テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。ユングやエリクソンらの考え方も、この文脈から捉えなおす。
３）具体的な事例を理解するための知識として使いこなせるよう、事例を紹介しながら学習内容の理解を深める。

後期：
１）発達の基本を理解することを含めて、精神分析的オリエンテーションをもった児童臨床にかかわる文献をテキストに定めて講読を行なう。最早期の発達や母子関係の捉え方を学ぶことはあらゆる心理臨床実践の基盤作りとなる。
２）テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。マーラー、クライン、ウィニコット、レボビシ、スターンらの考え方を、この文脈から捉えなおす。
３）学習内容に応じて、各自の関与している具体的な臨床事例の提供を求め、事例理解の手順とポイントを学ぶ。

【評価方法】

授業への参加状況（出席回数のことではない）による。

【テキスト】

（前期）エディプスと阿闍世（小此木啓吾著　青土社）
（後期）現代のエスプリ別冊・ウィニコットの世界（妙木浩之編　至文堂）

人格心理学特講

冨安玲子

【授業の概要】

人格の変容・発達と関わるカウンセリング及び人格理解の方法のひとつとしての面接について取り上げ、面接過程における諸問題について考察するとともに、メタ理論としてのマイクロカウンセリングによる面接の技法、主に基本的かかわり技法について学習し、ロール・プレイや事例を通して実践性も高めていくことを目的としたい。

【授業計画】

テキストを中心に講義を行うが、ビデオによるロール・プレイの検討なども含めて、「学び－使う－教える」の過程を習得する。

１．人格心理学とカウンセリング
２．マイクロカウンセリングとは
３．マイクロ技法の意味と基本的かかわり技法
４．かかわり行動
５．会話への誘い・質問技法
６．明確化～はげましといいかえ～
７．感情の反映
８．要約技法
９．意味の反映
10．基本的かかわり技法の統合

初回と最終回にロール・プレイを実施し、技法の意味を考える。

【評価方法】

ロール・プレイの逐語録検討レポートと授業への参加関与度による。

【テキスト】

マイクロカウンセリング（アイビイ,A.E.著　福原真知子他訳編　川島書店）

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学特講

冨安玲子

【授業の概要】

教育という価値を伴う働きかけの効果は、働きかけるひとと働きかけられるひとの人間関係のあり方が関わっている。人間関係のひとつとしてカウンセリングを取り上げ、特に、働きかける側の影響を考えるために、マイクロカウンセリングの積極技法を中心に学習し、ロール・プレイや事例を通して実践性も高めていくことを目的としたい。

【授業計画】

テキストを中心に講義を行うが、ビデオによるロール・プレイの検討なども含めて、「学び－使う－教える」の過程を習得する。

1．教育心理学とカウンセリング
2．マイクロ技法の意味と積極技法
3．基本的傾聴技法の連鎖
4．焦点のあて方技法
5．対決技法
6．指示技法
7．フィードバックと自己開示
8．論理的帰結
9．解釈／再構成
10．積極的要約と助言
11．技法の統合/面接の５段階

最終回にロール・プレイを実施し、技法の意味を考える。

【評価方法】

ロール・プレイの逐語録検討のレポートと授業への参加関与度にする。

【テキスト】

マイクロカウンセリング（アイビイ,A.E..著　福原真知子他訳編　川島書店）

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

グループアプローチ特講

池田豊應

【授業の概要】

1）まず、エンカウンター・グループ、集団心理療法、セルフヘルプ・グループ等々、「グループ・アプローチ」の概念について検討、整理する。
2）担当者が10数年来、取り組んできた「不登校生徒のためのグループ・アプローチ ＜ヨコ体験グループ＞」を取りあげ、数人の生徒の歩みに即して、グループの動きを紹介する。
3）その詳細な検討を通して、この活動の心理療法としての意味、治療要因、治療条件、構造論、個人心理療法との関係、個人心理療法論の集大成としての面と独自な治療的グループ・ダイナミックス等々の主題について考察したい。

【授業計画】

第１回から第３回：上記の１）について講義
第４回から第８回：上記の２）について講義
第９回から第13回：上記の３）について講義

【評価方法】

授業への参加態度およびレポートの内容から評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、授業の中で、参考文献は紹介し、資料は配布する。

投影法特講

池田豊應

【授業の概要】

ロールシャッハ法を中心にして、TAT、SCT、バウムテスト、風景構成法、コラージュ等を横糸に編み込みながら、いきいきとした人間理解をめざすアプローチについて学んでいくことにしたい。

半期ではあるが、難しいとされるロールシャッハ法を使えるようになることが目標である。

このクラスでは、将来、臨床家になることを望んでいる受講者のみに限定し、倫理の問題、実施法、分析と解釈等について、特講ではあるが演習的要素も取り入れることで、受講生が真剣にインボルブして、体験的に高度専門職としての態度と技能を身に付けられるよう進めていきたいと考えている。

【授業計画】

第１回：心理臨床にかかわることの前提、倫理。
第２回：投映法一般についての概論。
第３回：ロールシャッハ法そのほか個々の接近法についての概説。
第４回から第６回：実施法およびスコアリングについて解説。
第７回と第８回：小グループでの分析、解釈に関する演習。
第９回から第12回：各グループによる発表
第13回：まとめ

【評価方法】

授業への参加姿勢、発表の内容、レポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

臨床投映法入門（池田豊應編　ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

適宜、授業の中で、参考文献は紹介し、資料は配布する。

障害児発達心理学特講１・２

二宮 昭

【授業の概要】

人の「からだ」の動きを本人の主体的な身体運動制御という心理学的な活動として捉え、そのような制御能力を高めることを目的として行われる「動作法」の理論と方法を中心に、「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助のあり方について検討する。

昨年に引き続き、とくに、動作法を実施していく上で大きな問題となる援助者と被援助者との間でみられる「やりとり」に関して、それを成立させる基盤としての「からだ」のもつ意義や、それを考えるときに重要だと思われる「間主観性」の問題について検討していく。

【授業計画】

前期は動作法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式と、講義形式の併用で授業を進める。

後期は下記の参考書籍を中心に、主として討論形式で授業を行う。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【参考文献・資料】

Braiten,S.（Ed）Intersubjective Communication and Emotion in Early Ontogeny.Cambridge University Press,1998

精神医学特講

古井 景

【授業の概要】

精神医学一般について診断体系を述べ、乳幼児、小児期、思春期・青年期、成人期、老年期などに好発する各疾患について、診断と治療を解説する。

【授業計画】

Ⅰ．総論
1．精神医学の概念
2．精神障害の成因と分類
（1）内因、外因、心因とICD-10、DSM-Ⅳ
（2）人格・神経症・心身症・精神病
3．脳と精神機能（大脳生理・神経学）
4．精神症状学
（1）意識障害（2）知能障害（3）記憶障害（4）知覚障害（5）思考障害（6）感情・情動・気分障害（7）意欲と行動の障害（8）巣症状と症候群
5．診断
（1）病歴と現症（2）生理・生化学的検査（3）心理査定
6．治療
（1）薬理学的療法（2）精神療法（3）環境調整
Ⅱ．各論
a乳幼児期b小児期c思春期・青年期d成人期e老年期の各時期に於いて好発する疾患・障害について、下記の項目に沿って説明していく
（1）器質脳疾患に伴う精神障害（2）身体疾患に伴う精神障害（3）中毒性精神障害（4）心因性精神障害（心因反応・神経症）（5）統合失調症（精神分裂病）、感情障害、他の精神病（6）人格と行動の障害

【評価方法】

毎回の授業のテーマ・内容に沿ったレポートを、次回の授業時に提出する。このレポート及び授業に取り組む姿勢をもって評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

現代臨床精神医学（大熊輝雄著　金原出版）
臨床精神医学講座（中山書店）
精神症状学（濱田秀伯著　弘文堂）
標準精神医学（野村総一郎・樋口輝彦編集　医学書院）　など

心身医学特講

古井 景

【授業の概要】

まず、力動精神医学の立場から、心のメカニズム（自我機能）に目を向け、“適応”についての知識を深め、“適応困難（不適応）”となった者が現していく『症状・疾病状態』について言及していく。

更に、医学的及び臨床心理学的治療のあり方について学んでいく。

【授業計画】

・精神力動とストレス
・意識的行動と無意識的行動、身体症状化
・自我機能と防衛機制
・幼児期不適応：夜尿、夜驚、自家中毒、チック
・学校生活不適応：不登校、心因性視力障害・頭痛腹痛
・家庭内暴力
・摂食障害：拒食症・過食症
・児童虐待：虐待する母親、される子供
・職場不適応：長期欠勤、鬱病
・薬物依存：有機溶剤、麻薬・覚醒剤、アルコール
・心身症：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、腰痛症、過敏性腸症候群、メニエル症候群、顎関節症、舌痛症など

【評価方法】

毎回の授業内での質疑をもとに評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

臨床心理学演習１・２

米倉五郎

【授業の概要】

指導院生が関心をもつ心理臨床の事例やテーマに関して、臨床面接法や心理査定法などの技法を活用する事例研究および調査研究などによる修士論文の作成を目標とする。

【授業計画】

院生の各自が研究テーマを設定し、事例研究法および調査研究法などの方法論の特定が検討される。そして心理臨床の研究対象の選定がなされる。演習では、毎回その面接過程と考察が各人より報告され、グループスーパービジョンがなされる。こうしたグループ検討と指導により２年次学生での修士論文の完成を目指していく。

【評価方法】

授業における発言の姿勢、発表の内容およびレポートにより評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

臨床心理学演習４

後藤秀爾

【授業の概要】

大学院指導生の研究指導を行なう。

具体的には、修士論文の執筆にかかわって、問題意識の絞り込み、研究方法の吟味、結果を整理する方向性の確認、考察部分を中心にした研究成果全体のオリジナリティの出し方などを、指導する。

必要に応じて周辺的な知識や技能の習得を求めることもあれば、共通課題について副次的に共同研究などを行なう場合もあり、できるだけ幅の広い学問研究の場にしたいと考えている。

指導形態の基本は個別指導に置くが、課題によって流動的に状況設定する。

【授業計画】

特に指導スケジュールを定めない。

おおよその目安として、大学院１年目のうちに、関連する従来の研究成果に広くあたりながら、臨床的な活動の場への参加経験を社会的場面で積んでもらいたい。そのことを通して、自分の中で研究主題を確認できていくと良い。

主題が絞られた段階で、具体的な研究企画を構築することになる。２年目の早い時期に、実現可能な研究計画を練り上げる。

その後、データの収集と整理を手始めに、論文執筆へと進む。その作業が、その後の問題意識の展開へと結びつき、ライフワークが見えてくると幸いである。

心理臨床の研究は、実践体験のなかから生きた問題意識が産まれ出るものである。「手を汚さずに言うなかれ」を自戒の言葉とし、机上の研究に終わらせることのないように取り組むことが、求められる。

研究結果を対象となった人達にフィードバックして喜ばれるような研究を目指して欲しい。

【評価方法】

途中経過の報告を含めて、論文に反映された学習内容により評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

個別に助言・指導を行なう。

臨床心理学演習５・６

古井 景

【授業の概要】

自我機能・精神力動に関する知識を深めていく。自我機能の健全な発達と障害について学び、臨床心理面接技法へと繋げていく。様々な論文・著書を活用し、積極的な討議を行っていく。

また、修士論文の作成に関しても、参加者自らの積極的取り組みを前提として、互いに検討・議論を積み重ねていく。

【授業計画】

以下の項目を中心として、参加者の発表と討論を通して、知識を深めていく。

・自我心理学の歴史
・対象関係論への発展
・自我構造モデルと自我機能
・対象喪失と取り入れ
・分裂的機制
・抑鬱的態勢、躁的防衛
・乳幼児期の自我- 対象- 分裂
・移行対象と移行現象
・分離個体化理論

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

臨床心理学演習７・８

二宮 昭

【授業の概要】

内外の「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助に関する著書・論文の講読を行い、彼らにみられる「障害」とは何か、また、その「障害の改善」とはどういうことかについて理解を深めるとともに、「障害児」を対象とした実践的研究のまとめ方を学ぶ。その中で修士論文の研究テーマを決定し、具体的な研究計画の検討を行う。

【授業計画】

受講者が読んだ文献の発表と討論を行いながら、研究テーマの検討、および具体的な研究方法の特定というかたちで展開される。

【評価方法】

発表内容、討論への参加の仕方、および研究計画やその方法論の内容などによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

臨床心理査定演習１・２（臨床心理アセスメント）

米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理士として様々な事例に関わって行く中で、事例の抱える問題点を的確に把握することは極めて重要な作業である。この演習では、神経心理学的障害、情緒的障害、人格障害の心理アセスメントのために、様々な検査法を理解し可能な限り実習体験を行っていく。

【授業計画】

資料配付に基づいて講義を行い、演習として実際の査定方法を体験していく。

1　心理アセスメント・心理査定法について
2　知能のアセスメント
　ウェクスラー知能検査（成人・小児）
　乳幼児精神発達診断検査
　老人の知能の評価
　など
3　パーソナリティーのアセスメント
　自己記入式質問紙法
　投影法（自我の構造モデルと自我機能の理解）
　精神作業検査
　など
4　テストバッテリーについて
　心理査定法からの情報と統合的な解釈法

【評価方法】

授業内容の理解度により、成績を評価判定する。

【テキスト】

参考図書はその都度提示する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

臨床心理基礎実習１ａ

古井 景　二宮 昭　冨安玲子　西出隆紀　米倉五郎　後藤秀爾

【授業の概要】

臨床心理学の実践に必要な基礎知識・技能・態度を身につけるための実習である。

本実習内容を修得した者のみが、本学併設の心理臨床相談室での臨床活動を行うことが許される。

【授業計画】

1．心理臨床入門講習
　1・1　カウンセリングにおける心構え
　1・2　受理面接１（幼児期・児童期）
　1・3　受理面接２（思春期・青年期）
　1・4　受理面接３（成年期・老年期）
　1・5　受理面接４（障害児）
　1・6　受付・契約・限界設定・危機介入
　1・7　心理検査・クリニカルレポート・カルテの記載と管理・守秘義務
　1・8　医療機関との連携・リファー・診断と見立て・治療方針・共同治療
2．ロールプレイ実習

入門講習は、講義・演習方式に加えて実習形式も適宜取り入れていく。ロールプレイ実習は入門講習の後の時間に開講し、相互にカウンセラー・クライエ
ント役を演じ、参加者の講評を受ける。

なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点に留意すること。

【評価方法】

受講態度と提出物で評価する。特殊な実習なので、やむを得ない事情がない限り、１回でも遅刻・欠席があれば単位は認めない。

臨床心理基礎実習１ｂ

二宮 昭　古井 景　後藤秀爾　米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理基礎実習laを基にして、心理臨床の実践を行い始めた学生を対象として、その臨床実践に対するスーパービジョンを受けることを通して、心理臨床家（臨床心理士）となっていくための基礎的な能力の修得をめざすための実習である。

そのため、受講は臨床心理基礎実習laを履修したものに限られる。

【授業計画】

1．心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。

2．スーパービジョン体験

スーパーバイジーとしてスーパービジョンを受ける。原則として指導教員がスーパーバイザーとなり、セッション１～３回につき、最低１回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることもあり得る。

このように完全な実習であり、当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当な時間をとられることを覚悟しておいてもらいたい。

なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度によって評価する。

臨床心理実習１ａ・ｂ

宮本 淳　森﨑博志　長瀬治之

【授業の概要】

心理臨床実践を行い、それに対するスーパービジョン、ケース・コンサルテーションなどを受けることにより、一人前の心理臨床家（臨床心理士）となるための幅広く、より高い能力の修得をめざすための実習である。

【授業計画】

1．心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習、および病院や福祉施設などの外部施設での実習。

2．スーパービジョン体験

スーパーバイジーとしてスーパービジョンを受ける。原則として１名のスーパーバイザーに４名が１組となってスーパービジョンを受ける。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることもある。

このように、完全な実習であり、当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に相当な時間をとられることになる。

なお、すべての内容に守秘義務が課せられているので、その点にも留意されたい。

【評価方法】

実習態度によって評価する。

臨床心理基礎実習２ａ・ｂ

後藤秀爾　二宮 昭

【授業の概要】

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実践を行なうための基礎的な能力の修得を目指し、事例検討会に参加する。また、所定の条件を満たし、相談活動に関与するようになって後は、ケースカンファレンスに事例報告し指導を受ける義務を負う。

【授業計画】

1．心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。

2．ケース・カンファレンス

本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションを行って、討議を通して指導を受ける。また、他者の提示したケース資料について討議する。

3．スーパービジョン体験

スーパーバイジーとしてスーパービジョンを受ける。原則としてセッション１回につき、１回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることにもなる。

上記のように、完全に実習中心で進める。当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。

なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度から評価する。

なお、特別な理由なくケース・カンファレンスに欠席した場合は、この科目の受講資格を失う。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要な参考文献を検索し自己研鑽する能力を身に付ける、という学習の仕方が前提である。

なお、相談事例にかかわる資料の管理にあたっては、個人情報の漏洩に充分な配慮を求める。

臨床心理実習２ａ・ｂ

古井 景　米倉五郎　西出隆紀

【授業の概要】

臨床心理基礎実習で修得した基礎的臨床能力に加え、臨床における応用能力を身につけるための高度な実習内容を目指す。

積極的にケースを持ち、専門的な理論・モデルに基づいた臨床心理面接技法の実践を行う。

【授業計画】

1．心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。

2．ケース・カンファレンス

本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションを行って、討議を通して指導を受ける。また、他者の提示したケース資料について討議する。

3．スーパービジョン体験

スーパーバイジーとしてスーパービジョンを受ける。原則としてセッション１回につき、１回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることにもなる。

上記のように、完全に実習中心で進める。当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。

なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度から評価する。なお、特別な理由もなくケース・カンファレンスに欠席した場合は、その場で失格となる上、今後いかなる場合も受講を認めない。

【テキスト】

使用しない。しかし、参考文献としてかなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示されることになろう。

心理学研究法特講

二宮 昭　清水 遵　植村勝彦　後藤秀爾
沖田庸嵩　古井 景　米倉五郎

【授業の概要】

心理学における主要な研究法である1）実験法、2）観察法、3）調査法、4）面接法、5）心理検査法および事例研究法について、それぞれの教員が分担して講義する。

【授業計画】

実験法に関しては、清水遵、沖田庸嵩が分担し、清水はストレスや感情をテーマにした具体的な実験例を紹介しながら実験に伴う実験計画法について、沖田は認知・生理的な測定法について、講義をする。観察法については二宮昭、調査法については植村勝彦、面接法については後藤秀爾が担当する。古井景と米倉五郎は心理検査法と事例研究法を担当する。

【評価方法】

各研究法ごとにレポートを提出させ、評価する。

【テキスト】

プリントの配布による。

心理統計特講

斎藤和志　西出隆紀　吉崎一人

【授業の概要】

心理統計に関わるいくつかの問題を大きく3つの側面から扱う。心理統計の基礎的な部分については斎藤が、実験計画法を中心とした領域については吉崎が、多変量解析を中心とした領域については西出が担当する。基本的な事項の講義に加えて、統計ソフトSPSSを使用した具体的な事例の検討も行う。

【授業計画】

1．データの種類と特徴
2．代表値と散布度
3．変数間の関係、変数の分布と変換
4．統計的検定の基礎
5．実験計画法の基礎
6．平均値の差の検定
7．分散分析
8．カテゴリカル・データの検定
9．多変量解析の考え方
10．予測と説明
11．変数の分類
12．尺度構成と信頼性・妥当性
13．まとめ

【評価方法】

受講態度とレポートによって評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

応用言語学特講1（英語教育）

松本青也

【授業の概要】

言語教育の一環としての外国語教育という視点から、日本における英語教育を経済的、文化的、政治的な状況の中で捉え、そのさまざまな課題を検討するとともに、外国語運用の技能を検証することで、コミュニケーション能力養成に向けての英語教育をどのように位置づけるべきかを考察する。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1．外国語教育の歴史
2．諸外国の外国語教育政策
3．日本における外国語教育政策の変遷
4．言語教育の一環としての外国語教育
5．外国語運用の技能
・Listening
・Speaking
・Reading
・Writing
6．異文化コミュニケーション能力

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講2（英語教育）

松本青也

【授業の概要】

世界における外国語教授法の歴史と多様性を概観し、主要な教授法について詳しく検証しながら、日本固有の言語状況に適合した理想的な英語教授法と、日本の学習者の立場から考えた理想的な英語学習法とは何かを考察する。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1．ESLとEFL
2．外国語教授法の変遷
3．日本の外国語教授法
4．外国語教授法の理論的背景
5．動機付けと学習法
6．教授法の原則
7．マルチメディアの活用
8．教師の役割と評価

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講3 (Topics in Applied Linguistics)

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

Explorations of the interface between language, communication and community. A major goal is to acquire an informed perspective on sociolinguistic matters, particularly those international and intercultural in scope. By gaining knowledge of concepts and principles of sociolinguistics, one will be better able to avoid stereotyping or other cultural biases. An allied goal is to sharpen critical cultural analysis for effective research applications whether as a consumer or producer of academic research.

【Schedule】

Tentatively. course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

・Course Introduction
・Culture in World Perspective
・Bases for Critical Communication
・Misattributions
・Avoiding "Isms"
・Communication Style I

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

応用言語学特講4 (Topics in Applied Linguistics)

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

Explorations of the interface between language, communication and community. This course is a continuation of 応用言語学特講7. A major goal is to acquire an informed perspective on sociolinguistic matters, particularly those international and intercultural in scope. By gaining knowledge of concepts and principles of sociolinguistics, one will be better able to avoid stereotyping or other cultural biases. An allied goal is to sharpen critical cultural analysis for effective research applications whether as a consumer or producer of academic research.

【Schedule】

Tentatively. course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

・Overview
・Communication Style II
・Communication, Rhetoric, and Language
・Major Linguistic Approaches
・Discourse Applications I
・Discourse Applications II

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

応用言語学特講５（中国語教育）

馮 富榮

【授業の概要】

本講義では、主として日本における中国語教育について以下の角度から検討する。

1．日本における中国語教育の現状
2．日本における中国語教育の問題点
（1）教材の問題
（2）カリキュラムの問題
（3）教育者間の連携の問題
3．日本における中国語教育の展望

【授業計画】

この授業は、下記のステップを踏んで展開していく。

1．日本における中国語教育の現状を調べる。主として日本の大学での中国語教育に焦点を当てる。
2．日本の大学での中国語教育における問題点について討論を行う。具体的には、
1）教材に関する問題；
2）カリキュラムに関する問題；
3）中国語教育者間の連携の問題。
という３つのカテゴリーに分けて、それぞれ具体的に議論し、改善案を検討する。
3．日本における今後の中国語教育への提案にまとめる。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

【テキスト】

論文のコピーや新聞などを使う。

応用言語学特講６（中国語教育）

馮 富榮

【授業の概要】

本講義では、主として日本における中国語教育について以下の角度から検討する。

1．日本における中国語教育の現状
2．日本における中国語教育の問題点
（1）教材の問題
（2）カリキュラムの問題
（3）教育者間の連携の問題
3．日本における中国語教育の展望

【授業計画】

この授業は、下記のステップを踏んで展開していく。

1．日本における中国語教育の現状を調べる。主として日本の大学での中国語教育に焦点を当てる。
2．日本の大学での中国語教育における問題点について討論を行う。具体的には、
1）教材に関する問題；
2）カリキュラムに関する問題；
3）中国語教育者間の連携の問題。
という３つのカテゴリーに分けて、それぞれ具体的に議論し、改善案を検討する。
3．日本における今後の中国語教育への提案にまとめる。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

【テキスト】

論文のコピーや新聞などを使う。

応用言語学特講７（日本語教育）

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の現在と将来の課題を考察する。

日本語教育は、1980年代を画期にその目的と内容を大きく変えた。コミュニケーションのために、日本語を新たな手段とする地域が広がってきている。第２言語教育の研究がすすんでいる一方で、国語と日本語の境界が教育現場でも取り払われつつあるようである。

日本語教育方法とその背景にある諸問題を概観し、テーマに応じて議論を深め問題の解決を探究する。

【授業計画】

次についてテーマを定めて講義をおこなう。

日本語教育の歴史
日本語教育の方法
日本語教師の使命
日本語ボランティア
日本語と文化
日本語教育文法理論
日本語とコミュニケーション
日本語と地域
コンピュータ利用の日本語教育

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

特に定めない。プリント資料を用いる。

応用言語学特講８（日本語教育）

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の現在と将来の課題を考察する。

日本語教育は、1980年代を画期にその目的と内容を大きく変えた。コミュニケーションのために、日本語を新たな手段とする地域が広がってきている。第２言語教育の研究がすすんでいる一方で、国語と日本語の境界が教育現場でも取り払われつつあるようである。

日本語教育方法とその背景にある諸問題を概観し、テーマに応じて議論を深め問題の解決を探究する。

【授業計画】

次についてテーマを定めて講義をおこなう。

日本語教育の歴史
日本語教育の方法
日本語教師の使命
日本語ボランティア
日本語と文化
日本語教育文法理論
日本語とコミュニケーション
日本語と地域
コンピュータ利用の日本語教育

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

特に定めない。プリント資料を用いる。

応用言語学特講 9（日本語学）

窪田守弘

【授業の概要】

日本語の文構造の特徴の一つとして、終止形と連体形が同形ということがあげられる。例えば、「飛ぶ」は「鳥が飛ぶ」の場合に終止形で、「飛ぶ鳥」の場合に連体形になる。また、形容名詞の「こと」をつければ、「鳥が飛ぶこと」という名詞句になる。本講ではこのような現象の成立と歴史的な背景を考え、動詞文、形容詞文、名詞文などの基本的な文型を分析し、文構造の在り方を考察する。

【授業計画】

本講では、まず動詞や形容詞が示す活用という現象が、どのような意味をもっているかを考える。そして、それぞれの活用形はどのようにして成立したのかについて概観する。特に、三上章の文法論を中心にして、現代の日本語の構造がどのような輪郭になっているかについて考察する。

【評価方法】

講義の出席状況、レポート等の内容で評価する。

【テキスト】

日本語基礎講座- 三上文法入門（山崎紀美子著　ちくま新書）

【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

応用言語学特講 10（日本語学）

山内啓介

【授業の概要】

日本語学の分野から、音韻論、文法論、意味論を講義する。

音韻論：音声科学と日本語音韻論

文法論：形態文法と統語文法

意味論：歴史的文献実証研究ロ現代意味論のとらえかた

【授業計画】

本年度は、日本語教育の文法論を概観し、日本文法形態論から統語論へ進める。

受講生との議論を通して日本語共時論の記述分析、日本語教育用文法を考える。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

特に定めない。プリント配布。

応用言語学特講 11（対照言語学＜日英＞）

松本青也

【授業の概要】

日本語と英語について、音、語彙、文法、発想、背景文化といった側面から、言語体系と言語行動の対応を明らかにすることで、それぞれの言語の特質を浮き彫りにする。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1．英語教育における対照言語学の役割
2．日英語の音声
3．日英語の語彙
4．日英語の文法
5．日英語の発想
6．日英語の背景文化

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講 12（対照言語学＜日中＞）

馮 富榮

【授業の概要】

言語を構造面（文法）といった側面から捉えるだけでなく、文化や社会といった側面からも多角的に捉えることをテーマとする。この授業では、中国語を柱とし、主として日本語との比較をしながら、両言語の違い、また両言語を支えている両国の文化・習慣及び思考様式の違いを探ってみる。いわば、言語学的のみではなく、語用論という視点からも日・中両言語の言語現象を分析してみる。

【授業計画】

授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。

1．日・中両言語に関する比較研究を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
2．日・中両言語の共通点と相違点を検討する。文法などという言語学的な側面だけでなく、文化や思考様式などという語用論的な側面からも捉える。
3．上記した日・中両言語の相違点は、すなわち中国人の日本語学習の問題点となるか否か、または日本人の中国語学習の問題点となるか否かを検討する。

授業は、輪読という形で展開される予定である。もちろん、講読の材料となる研究論文についても議論をする。よって、論文によって解明された問題を確認すると共に、まだ残っている研究課題を絞りだす。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

論文のコピーを使用する。

応用言語学特講 13（児童英語教育法）

高橋美由紀

【授業の概要】

公立小学校に「総合的な学習の時間」の枠組みの中で「国際理解教育の一環」として導入された小学校英語活動において、指導的な立場を担う人材を養成することを目的として行う。授業は、小学校英語活動の意義や効果的な指導法、カリキュラムや年間計画、授業プランの立て方、小・中連携の英語教育の在り方、教材・教具研究などの講義と、ワークショップから構成される。毎時間、英語の歌やダンス等を紹介する。

【授業計画】

1．オリエンテーション：小学校英語活動と児童英語教育
2．「総合的な学習の時間」の枠組みの中での小学校英語活動、国際理解教育
3．アジア諸国、ヨーロッパ諸国での小学校英語教育の取り組み
4．文部科学省「小学校英語活動実践の手引き」を読む
5．小学校における英語（外国語）教育の目的と意義、研究開発校の事例研究等から
6．小学校英語活動における学習者に対する効果的な教授法
7．早期外国語教育プログラム（イマージョン、FLES、FLEX）
8．小学校英語の指導者について・ALTとのTT授業について
9．発達段階に応じた効果的な英語活動・中学校の英語教育との連携について
10．小学校英語活動の教材・教具・設備について
11．小学校英語活動の視覚教材・聴覚教材研究
12．小学校英語活動のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
13．テキストと授業計画、指導案の書き方について
14．模擬授業の具体例と指導案（その１）
15．模擬授業の具体例と指導案（その２）、まとめ

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省　開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀　開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子　開隆堂出版）
Curtain, H & C.A.Dahlberg 2004 Languages and Children: Making the Match: Third Edition（Pearson）
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

応用言語学特講 14（日本語教授学）

山内啓介

【授業の概要】

外国語としての日本語教育および日本語を目標言語とした第２言語教育について日本語教授の理論と実践法、教授法について講述する。

応用言語学を日本語教授学に活用する。

【授業計画】

次のテーマにそって行う

1　日本語教育・研究の流れ
2　日本語と社会
3　日本語と学習ストラテジー
4　異文化コミュニケーション
5　日本語教授法
6　日本国内の日本語教育
7　海外の日本語教育
8　言語テスト
9　日本語教授学の課題

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

プリント資料を用いる。

【参考文献・資料】

日本語教科書・参考書・教材用資料

コミュニケーション学特講1（Practicum in Communication Studies）

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively.

It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic.

So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates.

The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject.

We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectrures and discussion about rhetoric and communication studies.

Topics covered will include:

1．Classical rhetoric
2．Contemporary rhetoric
3．Studies of persuasion
4．Contemporary communication studies

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and oral presentations.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

コミュニケーション学特講2（Practicum in Communication Studies）

MOLDEN, Danny T.

【Course Content】

Rhetoric is the study of how humans can communicate more clearly and debate more effectively.

It is the study of how we decide what to say and when to say it.

Of course, rhetoric and debate are very broad methods - they are really ways of studying or thinking about a topic.

So, the class will focus first on the study of rhetoric and debate, then it will look at specific examples of debates.

The students will decide what topics they have an interest in studying, then they will examine the various forms of communication about that subject.

We will study speeches, newspapers, magazines, books, music, television programs, movies, plays, art, etc.

【Schedule】

Class meetings will consist of lectrures and discussion about rhetoric and communication studies.

Topics covered will include:

1．Classical rhetoric
2．Contemporary rhetoric
3．Studies of persuasion
4．Contemporary communication studies

【Assessment】

Assessment will be based on attendance, quizzes, written papers, and oral presentations.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course although readings may be provided

コミュニケーション学特講3・4（Academic Writing）

McDANIEL, Edwin R.

【Course Content】

The course is designed to improve student skills in planning, drafting, revising, and editing academic essays/reports. Emphasis is placed on the purpose, structure, and style of academic writing. Learning to compose and support arguments using multiple source materials will be stressed. The course will also help improve students' ability to read and analyze complex academic texts and exercise critical thinking.

【Schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Determining an essay topic of interest.
- Identifying and using research source material.
- Reviewing the literature
- Preparing an outline
- Constructing and writing the report.
- Source citation requirements.
- Proper source citation format.

【Assessment】

Course assessment will be through a series of writing exercises culminating in an academic research paper.

【Textbooks】

Course material will be drawn from contemporary academic journals and books.

コミュニケーション学特講5（Multilingual Communication）

STEPHENSON, Brett

【Course Content】

The purpose of this seminar is to increase students' awareness and understanding of the theory & practice of Japanese-English translation. The seminar will be approximately 30 percent theory and 70 percent practice. Theory will be introduced to aid in understanding of the translation process, but the major focus of the seminar is improving the practical J-E translation skills of students.

Note: The primary language of instruction for this course is Japanese, but the subject matter is English. Readings and translations are in English, but explanation of concepts and ideas will be conducted in Japanese. Students will have the opportunity to improve their textual skills in English. This is a very intensive program. There will be a significant amount of individual work outside the classroom and peer discussion of work completed. Students must be prepared to study in a mature and responsible manner. Guidance will be provided, but students must take the initiative in a pro-active approach to self-improvement.

【Schedule】

Four major translation areas will be covered:

1） Commercial Translation－Advertising/promotional material
2） Technical Translation－User's Manual/Instructions
3） Socio-Political Issues－Magazine/Newspaper articles
4） Business－Finance & Economics

【Assessment】

There will be a practical translation test on the final day and students will have the opportunity to apply what they have learned.

【Textbooks】

Introducing translation studies (Jeremy Munday (2001) Routledge, London)
(ISBN 0-415-22927-8)

【Reference】

In order to improve their own English expression, students should try to read as much English material, as possible.

コミュニケーション学特講6（Multilingual Communication）

STEPHENSON, Brett

【Course Content】

The purpose of this seminar is to increase students' awareness and understanding of the theory & practice of Japanese-English translation. The seminar will be approximately 30 percent theory and 70 percent practice. Theory will be introduced to aid in understanding of the translation process, but the major focus of the seminar is improving the practical J-E translation skills of students.

Note: The primary language of instruction for this course is Japanese, but the subject matter is English. Readings and translations are in English, but explanation of concepts and ideas will be conducted in Japanese. Students will have the opportunity to improve their textual skills in English. This is a very intensive program. There will be a significant amount of individual work outside the classroom and peer discussion of work completed. Students must be prepared to study in a mature and responsible manner. Guidance will be provided, but students must take the initiative in a pro-active approach to self-improvement.

【Schedule】

Four major translation areas will be covered:

1） Commercial Translation－Advertising/promotional material
2） Technical Translation－User's Manual/Instructions
3） Socio-Political Issues－Magazine/Newspaper articles
4） Business－Finance & Economics

【Assessment】

There will be a practical translation test on the final day and students will have the opportunity to apply what they have learned.

【Textbooks】

Introducing translation studies (Jeremy Munday (2001) Routledge, London)
(ISBN 0-415-22927-8)

【Reference】

In order to improve their own English expression, students should try to read as much English material, as possible.

コミュニケーション学特講7・8（Intercultural Communication）

McDANIEL, Edwin R.

【Course Content】

This course will examine the concepts of intercultural communication. The goals are: (1) to instill students' with an in-depth understanding of the concepts, principles, and skills regarding communication between persons from different cultural backgrounds, and (2) provide opportunities for students to apply those precepts to contemporary, practical situations. The class will focus on the worldviews, values, beliefs, and communication styles of differing cultural, ethnic, and national groups. Students will examine how culture influences perception, social organization, language, and nonverbal messages, during intercultural interactions.

Although the course emphasizes social and behavioral science orientations in its approach, it also draws from other perspectives such as history, economic, business, management, and human resources.

【Schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following general areas:

- Globalization
- Culture and Communication
- Cultural Perception and Values
- Language and Culture
- Culture and Nonverbal Communication
- Intercultural Cultural Context
- Intercultural Adaptation and Assimilation
- Intercultural Competence

【Assessment】

Attendance, class participation, short written or oral reports, and one short research paper on an intercultural topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

The textbook will be announced at the first class meeting.

コミュニケーション学特講9 (Media Communication)

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

This class will focus at a graduate level on the effects of media on our daily lives and ways of looking at the world. We will look at various theories about life in a highly mediated world and look at concrete areas in our lives that it affects. Students willfocus on develop critical thinking skills about analyzing modern (or postmodern) life.

【Schedule】

We will look closely at various theories in turn, then analyze specific examples of how those theories explain life and the media. Exact theories and practices will vary depending on student interest and the world situation.

【Assessment】

Grades will be assigned based on attendance, participation, and reports.

【Textbooks】

There will be no set textbook, but there will be various readings in both Japanese and English.

コミュニケーション学特講10(Media Communication)

McGEE, Jennifer J.

【Course Content】

This class will focus at a graduate level on the effects of media on our daily lives and ways of looking at the world. We will look at various theories about life in a highly mediated world and look at concrete areas in our lives that it affects. Students will focus on develop critical thinking skills about analyzing modern (or postmodern) life.

【Schedule】

We will look closely at various theories in turn, then analyze specific examples of how those theories explain life and the media. Exact theories and practices will vary depending on student interest and the world situation.

【Assessment】

Grades will be assigned based on attendance, participation, and reports.

【Textbooks】

There will be no set textbook, but there will be various readings in both Japanese and English.

コミュニケーション学特講 11 (日中翻訳技術)

杜 英起

【授業の概要】

翻訳は単なるある言語から他の言語に転換する単純な作業ではない。翻訳する際、原文の真意を理解し、それを他の言語圏で生活している人に理解しやすい形に変えて翻訳しなければならない。そのためには、双方の言語を熟知するだけでなく、双方の文化習慣、表現様式などをよく検討する必要もある。本講義では、中国語から日本語訳にまた日本語から中国訳に、という翻訳の練習をしながら、日中双方の言語の違い、文化習慣の違い、そして日本人と中国人の表現様式の違いについて、検討する。

【授業計画】

日中翻訳基礎
日中文法翻訳初等
ビジネス関係文章の翻訳（一）
即席通訳基礎

【評価方法】

平常点及び及びレポートにて評価する

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

日中翻訳教程－基礎編	北京語言文化大学
即席通訳	大連理工大学

コミュニケーション学特講 12 (日中翻訳技術)

杜 英起

【授業の概要】

翻訳は単なるある言語から他の言語に転換する単純な作業ではない。翻訳する際、原文の真意を理解し、それを他の言語圏で生活している人に理解しやすい形に変えて翻訳しなければならない。そのためには、双方の言語を熟知するだけでなく、双方の文化習慣、表現様式などをよく検討する必要もある。本講義では、中国語から日本語訳にまた日本語から中国訳に、という翻訳の練習をしながら、日中双方の言語の違い、文化習慣の違い、そして日本人と中国人の表現様式の違いについて、検討する。

【授業計画】

日中翻訳実践
日中文法翻訳（中等）
ビジネス関係文章の翻訳（二）
即席通訳応用

【評価方法】

平常点及びレポートにて評価する

【テキスト】

プリント配布

【参考文献・資料】

日中翻訳教程—実践編	北京語言文化大学出版
即席通訳	大連理工大学
中国経済新論	日本新報社

コミュニケーション学特講13（中国語コミュニケーション）

杜 英起

【授業の概要】

言葉が通じなくても、同じ漢字を使って、筆談できるという点においては、日本語と中国語は世界でほかにないと言える。しかし同じ漢字圏に属していながらも、日本と中国では、文化も違うし、人々の価値観もかなり違っている。ゆえに、同じ漢字であっても日本語と中国語に内包されている意味はそれぞれ異なる場合がある。その違いを理解することは日本人と中国人の円滑なコミュニケーションを図るには不可欠なことである。本講義の目的は、こうした日中の違いを紹介し、日本人と中国人のコミュニケーションに生じやすい誤解や思い違いをいかにすれば解消することができるかを検討することにある。

【授業計画】

日本における中国文化の伝来と現状
（言語、医学、民俗、食、茶、酒など）
“集団性”における日本人と中国人の相違
“外国との付き合い”における日本人と中国人の相違
中国の地域性と中国人の気質（一）
中国ビジネスで成功と失敗の人為要素（一）

【評価方法】

平常点及び学期末レポートにて評価する

【テキスト】

プリント配布

コミュニケーション学特講14（中国語コミュニケーション）

杜 英起

【授業の概要】

言葉が通じなくても、同じ漢字を使って、筆談できるという点においては、日本語と中国語は世界でほかにないと言える。しかし同じ漢字圏に属していながらも、日本と中国では、文化も違うし、人々の価値観もかなり違っている。ゆえに、同じ漢字であっても日本語と中国語に内包されている意味はそれぞれ異なる場合がある。その違いを理解することは日本人と中国人の円滑なコミュニケーションを図るには不可欠なことである。本講義の目的は、こうした日中の違いを紹介し、日本人と中国人のコミュニケーションに生じやすい誤解や思い違いをいかにすれば解消することができるかを検討することにある。

【授業計画】

日本における中国文化の伝来と現状
（言語、医学、民俗、食、茶、酒など）
“家庭”に対する日本人と中国人認識の相違
“宗教”に対する日本人と中国人認識の相違
中国の地域性と中国人の気質（二）
中国ビジネスで成功と失敗の人為要素（二）

【評価方法】

平常点及び及び期末レポートにて評価する

【テキスト】

プリント配布

コミュニケーション学特講15（中国語学）

周 国龍

【授業の概要】

現代中国語の文法を一通り概観して、中国語の文法の基礎的な知識を身につける。演習形式で一緒に議論して中国語の文法をより深く認識し理解できるように進めていく。

【授業計画】

第1講　授業プログラムの概説
第2講　中国語についての概説
第3講　品詞の分類及び名詞などについて
第4講　動詞について
第5講　形容詞について
第6講　副詞について
第7講　前置詞・接続詞について
第8講　助詞について
第9講　文成分及び主語、述語、目的語について
第10講　修飾成分（定語、状語、補語等について
第11講　単文について
第12講　複文について
第13講　総括

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート
以上の3点を総合して評価する。

【テキスト】

適宜資料配付

【参考文献・資料】

現代中国語文法総覧（劉月華他著　相原　茂監訳　くろしお出版）

コミュニケーション学特講16（中国語学）

周 国龍

【授業の概要】

言語学の文法理論で中国語を分析する方法を紹介し、実際に使われている中国語の実例を持って、それぞれの分析する方法の長所と限界を演習形式で一緒に考えていく。

【授業計画】

第1講　授業プログラムの概説
第2講　品詞の分類について（1）
第3講　品詞の分類について（2）
第4講　文の分析方法について
第5講　層次分析法
第6講　変換分析法
第7講　語義特徴分析法
第8講　配価分析法
第9講　語義指向分析法
第10講　語義範疇について
第11講　虚詞について
第12講　第二言語としての文法について
第13講　総括

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート
以上の3点を総合して評価する。

【テキスト】

適宜資料配付

【参考文献・資料】

現代漢語語法研究教程（陸倹明　北京大学出版社）
文法講義（朱德熙著　杉村博文・木村英樹訳　白帝社）

コミュニケーション学特講17（日本語表現）

窪田守弘

【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くておもしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくいが、映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語の談話分析という視点から、テレビや映画というマスメディアにおける言語表現を考えていく。

1）日本語コミュニケーションa

本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中でなされる言語表現の基本的な談話分析をして、理解を深めるようにする。

2）日本語コミュニケーションb

後期には、日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として談話分析をさらに進める。映画やテレビを通して種々の言語や文化の在り方を調べ、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することにしている。そして、日本語コミュニケーションは、日常生活のコミュニケーションの在り方を、第二言語習得という視点から研究する考えである。

【授業計画】

毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから論文を作成するための基礎的な知識や技術を身につける。

【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

談話分析を学ぶ人のために（マルコム・クールタルド他著　世界思想社）

コミュニケーション学特講18（日本語表現）

窪田守弘

【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くておもしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくいが、映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語の談話分析という視点から、テレビや映画というマスメディアにおける言語表現を考えていく。

1）日本語コミュニケーションa

本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中でなされる言語表現の基本的な談話分析をして、理解を深めるようにする。

2）日本語コミュニケーションb

後期には、日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として談話分析をさらに進める。映画やテレビを通して種々の言語や文化の在り方を調べ、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することにしている。そして、日本語コミュニケーションは、日常生活のコミュニケーションの在り方を、第二言語習得という視点から研究する考えである。

【授業計画】

毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから論文を作成するための基礎的な知識や技術を身につける。

【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

談話分析を学ぶ人のために（マルコム・クールタルド他著　世界思想社）

コミュニケーション学特講19（研究方法論）

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学、推計学の基本的概念を講義し、統計と社会の関わりあいについて学ばせる。

【授業計画】

第1回　講義の目的と授業計画の提示

第2回～第11回　以下の項目について講義する。

1．統計分析
2．平均値、代表値、標準偏差
3．相関係数
4．回帰分析
5．統計的推測

第12回　まとめ

いずれも講義とコンピュータを用いた実習を組み合わせて授業を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

コミュニケーション学特講20（研究方法論）

石橋善弘

【授業の概要】

コミュニケーション学特講19（研究方法論）で習得した統計学、推計学の基礎およびコンピュータを用いた統計解析能力を前提に、統計学、推計学の応用について講義する。コンピュータによる解析能力の向上をはかる。

【授業計画】

第1回　本講義の目的と授業計画の提示

第2回～11回　以下の項目について講義する

1．重回帰分析
2．因子分析
3．クラスター分析

第12回　まとめ

いずれも講義とコンピュータを使った実習をくみあわせて授業を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

比較文化論１（日米）

McDANIEL, Edwin R.

【Course Content】

The history of Japanese-U.S. relations is characterized by periods of close cooperation, estrangement, and even hostilities. Many of the problems affecting the relationship are the result of diverse cultural influences and dissimilar communication styles.

This course will compare Japanese and U.S. culture with emphasis on how varied culturally based values produce different social norms, behaviors, and communication styles. The emphasis will be on examining and comparing the difference in Japanese and U.S. cultural values, beliefs, and attitudes and how they influence communication across different contexts.

【Schedule】

Class meetings will be a combination of lecture and discussion. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Geographical and historical factors influencing Japan and U.S. culture
- Japanese and U.S. cultural characteristics
- Japanese and U.S. communication styles (verbal and nonverbal)
- Japanese and U.S. communication across contexts
- Communication and culture in contemporary Japanese-U.S. relations

【Assessment】

Attendance, class participation, quizzes, short written or oral reports, and one research paper on a topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

- Different Games, Different Rules (1999) (Haru YAMADA ; Oxford Press)
- Other readings will be provided

【Reference】

- American Cultural Patterns (1991) (Edward C. STEWART & Milton J. BENNETT ; Intercultural Press)
- American Ways (2000) (Gary ATHEN ; Intercultural Press)

比較文化論２（日欧）

山井徳行

【授業の概要】

日本と欧州の関係や日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教さらには近代合理主義の中に求めて探求する。

以上のような知的準備をしたうえで、フランス、イギリス等のヨーロッパの主な国々と日本を、文化の生産物としての文化財や文化現象を具体的に比較しながら、抽象的な一般論にまで高めたい。しかし、フランスについて語ることが多くなると思う。ただ比較するだけでなく、そこから現代の日本やヨーロッパの持つ問題点を明らかにしたい。

【授業計画】

第１週　授業のやり方や準備の仕方を説明する。
第２～３週　日本とヨーロッパの関係を歴史的に探る。
第４～５週　ヨーロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義ついて。
第６～８週　生活の具体的な諸側面の比較考察。
第９～10週　日本人的人生、ヨーロッパ人的人生。
第11～12週　日本の問題、ヨーロッパの問題。
第13～15週　整理とまとめ。

学生は課題図書をしっかり読み発表し、それを土台に討論が可能になるような授業にしたい。

【評価方法】

発表と試験で行う。

【テキスト】

特になし。プリントや論文を用意する。

【参考文献・資料】

沈黙のことば（エドワード・T・ホール著　〔The Silent Language（Edward T. Hall)〕）
英語と日本人（太田雄三著　講談社学術文庫）

比較文化論３（日中）

周 国龍

【授業の概要】

中国語の表現方法と日本語の表現方法を比較し、その共通点と相違点を見出す。その違いから中国語話者と日本語話者との発想と考え方の違いを考え、そこから中日両言語の背後にある文化の特徴について考えてみる。

【授業計画】

第１講　授業のプログラムの概説
第２講　日本語話者の視点、中国語話者の視点
第３講　受身表現から見る日中の違い
第４講　使役表現から見る日中の違い
第５講　授受表現から見る日中の違い
第６講　敬語表現から見る日中の違い
第７講　自・他動詞の使用から見る日中の違い
第８講　婉曲表現から見る日中の違い
第９講　省略の方法から見る日中の違い
第10講　比喩表現から見る日中の違い
第11講　中国語と比べて、日本語は曖昧か
第12講　日本語話者の考え方、中国語話者の考え方
第13講　総括

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、レポート
以上の３点を総合して評価する。

【テキスト】

適宜資料配付

【参考文献・資料】

日本語の視点（森田良行　創拓社）
日本人の発想、日本語の表現（森田良行　中公新書）

比較文化論４（日韓）

窪田守弘

【授業の概要】

日韓両国は、これまで「近くて遠い国」として相互の文化交流はあまり円滑には行なわれてこなかった。しかし、1988年のソウル・オリンピック以来、韓国は外国に対する閉鎖的な態度を改め、日本にも積極的に門戸を開放し始めた。そして、2002年のワールド・カップでは日韓共同開催もあって、スポーツを通じた両国の関係は大幅に改善された。

それに伴い文化交流も盛んに行なわれるようになり、最近日本では韓国のTVドラマや映画や音楽などが大変なブームとなっている。しかし、それは単に熱狂的なファン層に支えられた現象とも思えないので、このような現象が何故生じたのかについて考えてみる必要がある。

そこで、本講義では日韓のTVドラマや映画を教材として文化比較を行い、両国でみられるする文化的要素の、共通点もしくは相違点について考察を加えていきたい。

【授業計画】

日韓の映画やドラマの中から、いくつかのジャンルの作品を選び、それを教材として内容を分析し、カルチュラル・スタディーズの視点から文化比較を試みる。

＜使用映画のジャンル＞
歴史、戦争、伝統芸能、ラブ・ストーリー、アクション、コメディ、社会ドラマなど

【評価方法】

出席状況とレポートなどで評価する。

【テキスト】

配布プリント、ビデオ、DVDなど。

【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

応用言語学特講１（英語教育）

松本青也

【授業の概要】

言語教育の一環としての外国語教育という視点から、日本における英語教育を経済的、文化的、政治的な状況の中で捉え、そのさまざまな課題を検討するとともに、外国語運用の技能を検証することで、コミュニケーション能力養成に向けての英語教育をどのように位置づけるべきかを考察する。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1．外国語教育の歴史
2．諸外国の外国語教育政策
3．日本における外国語教育政策の変遷
4．言語教育の一環としての外国語教育
5．外国語運用の技能
　・Listening
　・Speaking
　・Reading
　・Writing
6．異文化コミュニケーション能力

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講２（英語教育）

松本青也

【授業の概要】

世界における外国語教授法の歴史と多様性を概観し、主要な教授法について詳しく検証しながら、日本固有の言語状況に適合した理想的な英語教授法と、日本の学習者の立場から考えた理想的な英語学習法とは何かを考察する。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1．ESLとEFL
2．外国語教授法の変遷
3．日本の外国語教授法
4．外国語教授法の理論的背景
5．動機付けと学習法
6．教授法の原則
7．マルチメディアの活用
8．教師の役割と評価

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講３・４（中国語教育）

馮 富榮

【授業の概要】

本講義では、主として日本における中国語教育について以下の角度から検討する。

1．日本における中国語教育の現状
2．日本における中国語教育の問題点
　（1）教材の問題
　（2）カリキュラムの問題
　（3）教育者間の連携の問題
3．日本における中国語教育の展望

【授業計画】

この授業は、下記のステップを踏んで展開していく。

1．日本における中国語教育の現状を調べる。主として日本の大学での中国語教育に焦点を当てる。
2．日本の大学での中国語教育における問題点について討論を行う。具体的には、
　1）教材に関する問題；
　2）カリキュラムに関する問題；
　3）中国語教育者間の連携の問題。
　という３つのカテゴリーに分けて、それぞれ具体的に議論し、改善案を検討する。
3．日本における今後の中国語教育への提案にまとめる。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

【テキスト】

論文のコピーや新聞などを使う。

応用言語学特講５・６（日本語教育）

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の現在と将来の課題を考察する。

日本語教育は、1980年代を画期にその目的と内容を大きく変えた。コミュニケーションのために、日本語を新たな手段とする地域が広がってきている。第２言語教育の研究がすすんでいる一方で、国語と日本語の境界が教育現場でも取り払われつつあるようである。

日本語教育方法とその背景にある諸問題を概観し、テーマに応じて議論を深め問題の解決を探究する。

【授業計画】

次についてテーマを定めて講義をおこなう。

日本語教育の歴史
日本語教育の方法
日本語教師の使命
日本語ボランティア
日本語と文化
日本語教育文法理論
日本語とコミュニケーション
日本語と地域
コンピュータ利用の日本語教育

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

プリント資料を用いる。

応用言語学特講7 (Topics in Applied Linguistics)

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

Explorations of the interface between language, communication and community. A major goal is to acquire an informed perspective on sociolinguistic matters, particularly those international and intercultural in scope. By gaining knowledge of concepts and principles of sociolinguistics, one will be better able to avoid stereotyping or other cultural biases. An allied goal is to sharpen critical cultural analysis for effective research applications whether as a consumer or producer of academic research.

【Schedule】

Tentatively. course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

- Course Introduction
- Culture in World Perspective
- Bases for Critical Communication
- Misattributions
- Avoiding "Isms"
- Communication Style I

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

応用言語学特講8 (Topics in Applied Linguistics)

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

Explorations of the interface between language, communication and community. This course is a continuation of 応用言語学特講7. A major goal is to acquire aninformed perspective on sociolinguistic matters, particularly those international and intercultural in scope. By gaining knowledge of concepts and principles ofsociolinguistics, one will be better able to avoid stereotyping or other cultural biases. An allied goal is to sharpen critical cultural analysis for effective research applications whether as a consumer or producer of academic research.

【Schedule】

Tentatively. course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

- Overview
- Communication Style II
- Communication, Rhetoric, and Language
- Major Linguistic Approaches
- Discourse Applications I
- Discourse Applications II

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

応用言語学特講9 (日本語学)

窪田守弘

【授業の概要】

日本語の文構造の特徴の一つとして、終止形と連体形が同形ということがあげられる。例えば、「飛ぶ」は「鳥が飛ぶ」の場合に終止形で、「飛ぶ鳥」の場合に連体形になる。また、形容名詞の「こと」をつければ、「鳥が飛ぶこと」という名詞句になる。本講ではこのような現象の成立と歴史的な背景を考え、動詞文、形容詞文、名詞文などの基本的な文型を分析し、文構造の在り方を考察する。

【授業計画】

本講では、まず動詞や形容詞が示す活用という現象が、どのような意味をもっているかを考える。そして、それぞれの活用形はどのようにして成立したのかについて概観する。特に、三上章の文法論を中心にして、現代の日本語の構造がどのような輪郭になっているかについて考察する。

【評価方法】

講義の出席状況、レポート等の内容で評価する。

【テキスト】

日本語基礎講座－三上文法入門（山崎紀美子著　ちくま新書）

【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

応用言語学特講10 (日本語学)

山内啓介

【授業の概要】

日本語学の分野から、音韻論、文法論、意味論を講義する。

音韻論：「モーラ音節」の連合と音便現象

文法論：形態文法と統語文法

意味論：歴史的研究における意味のとらえかた

【授業計画】

本年度は、日本語教育の文法論を概観し、日本文法形態論を行う。

受講生との議論を通して日本語共時論の記述分析をすすめる。

【評価方法】

課題レポート

【テキスト】

未定。

応用言語学特講 11（対照言語学＜日英＞）

松本青也

【授業の概要】

日本語と英語について、音、語彙、文法、発想、背景文化といった側面から、言語体系と言語行動の対応を明らかにすることで、それぞれの言語の特質を浮き彫りにする。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1．英語教育における対照言語学の役割
2．日英語の音声
3．日英語の語彙
4．日英語の文法
5．日英語の発想
6．日英語の背景文化

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講 12（対照言語学＜日中＞）

馮 富榮

【授業の概要】

言語を構造面（文法）といった側面から捉えるだけでなく、文化や社会といった側面からも多角的に捉えることをテーマとする。この授業では、中国語を柱とし、主として日本語との比較をしながら、両言語の違い、また両言語を支えている両国の文化・習慣及び思考様式の違いを探ってみる。いわば、言語学的のみではなく、語用論という視点からも日・中両言語の言語現象を分析してみる。

【授業計画】

授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。

1．日・中両言語に関する比較研究を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
2．日・中両言語の共通点と相違点を検討する。文法などという言語学的な側面だけでなく、文化や思考様式などという語用論的な側面からも捉える。
3．上記した日・中両言語の相違点は、すなわち中国人の日本語学習の問題点となるか否か、または日本人の中国語学習の問題点となるか否かを検討する。

授業は、輪読という形で展開される予定である。もちろん、講読の材料となる研究論文についても議論をする。よって、論文によって解明された問題を確認すると共に、まだ残っている研究課題を絞りだす。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

論文のコピーを使用する。

応用言語学特講 13（児童英語教育法）

高橋美由紀

【授業の概要】

公立小学校に「総合的な学習の時間」の枠組みの中で「国際理解教育の一環」として導入された小学校英語活動において、指導的な立場を担う人材を養成することを目的として行う。授業は、小学校英語活動の意義や効果的な指導法、カリキュラムや年間計画、授業プランの立て方、小・中連携の英語教育の在り方、教材・教具研究などの講義と、ワークショップから構成される。毎時間、英語の歌やダンス等を紹介する。

【授業計画】

1．オリエンテーション：小学校英語活動と児童英語教育
2．「総合的な学習の時間」の枠組みの中での小学校英語活動、国際理解教育
3．アジア諸国、ヨーロッパ諸国での小学校英語教育の取り組み
4．文部科学省「小学校英語活動実践の手引き」を読む
5．小学校における英語（外国語）教育の目的と意義、研究開発校の事例研究等から
6．小学校英語活動における学習者に対する効果的な教授法
7．早期外国語教育プログラム（イマージョン、FLES、FLEX）
8．小学校英語の指導者について・ALTとのTT授業について
9．発達段階に応じた効果的な英語活動・中学校の英語教育との連携について
10．小学校英語活動の教材・教具・設備について
11．小学校英語活動の視覚教材・聴覚教材研究
12．小学校英語活動のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
13．テキストと授業計画、指導案の書き方について
14．模擬授業の具体例と指導案（その1）
15．模擬授業の具体例と指導案（その2）、まとめ

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き（文部科学省　開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 1（山岡多美子・高橋美由紀　開隆堂出版）
Sunshine Kids Book 2（高橋美由紀・山岡多美子　開隆堂出版）
Curtain, H & C.A.Dahlberg 2004 Languages and Children: Making the Match: Third Edition（Pearson）
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

応用言語学演習 1（英語教育）

松本青也

【授業の概要】

応用言語学の分野の中でも、特に第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策に焦点を絞り、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、研究仮題の選択、文献調査、研究題目の設定から研究方法と論文の構成・形式まで、独創的な研究のための指導を行う。

【授業計画】

それぞれの研究題目に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、項目ごとに研究発表と議論を積み重ねる。

【評価方法】

研究発表、論文の総合評価。

【テキスト】

未定。

応用言語学演習２（英語教育）

松本青也

【授業の概要】

第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策について、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、独創的な研究論文作成のための指導を行う。

【授業計画】

それぞれの研究内容に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、修士論文作成のための個別指導を行う。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

応用言語学演習３・４（中国語教育）

馮 富榮

【授業の概要】

応用言語学特講３・４と平行して、当「演習」講座では、受講者の高度な中国語コミュニケーション能力の養成に重点が置かれる。最終的な目標は、中国語の話す能力、聞く能力、書く能力と翻訳する能力の４つの能力を極めるだけでなく、中国語で考えることができ、それをすぐ中国語で表現することができるようなレベルまで養成していく。要するに、立派な中国語の教育者と研究者としての素質を培っていく。

【授業計画】

授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。

1．中国語研究や、日本語と中国語の比較研究、そして対外中国語教育に関する論文を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
2．受講者の関心のある研究テーマを搾り出す。その研究テーマに関連のある研究論文を読んで、先行研究の問題点についてディかションを行い、整理する。
3．受講者の研究目的をはっきりさせ、その研究目的に達することができるように、最適の研究方法を検討する。
4．中間発表に向けて、具体的な研究作業に入る。そして、研究過程において、受講者の持っている問題点や疑問に対して、随時アドバイスを行う。

【評価方法】

努力や研究成果などで、総合的に評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

応用言語学演習５・６（日本語教育）

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の課題を調査研究し、問題の解決をする。

日本語教育の実情とデータの収集を行い分析する。

日本語とその歴史や教育、日本語研究理論を内容とする日本語学、言語と社会、文化論、言語教育理論と実践、とりわけCALLなどにも視点を持つこと。研究の立場を持つことが重要。

演習授業であるので、参加者がプレゼンテーションを行い、発表について議論をする。

【授業計画】

個別にテーマを設定する。

次の手順で調査発表を行う。

1 テーマ届け
2 テーマについての予備研究
3 先行文献探索
4 調査実行
5 調査発表と議論

なお、分析と理論は方法論について、たてるとよい。

この演習授業は論文作成を目途に発表と議論を行うので、すでにテーマについての文献を渉猟し研究史に着手しておくことがのぞまれる。研究科専攻に入学時のおりテーマをいくつかたてて実行することを進める。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容による。

【テキスト】

特にない。

コミュニケーション学特講３・４（Academic Writing）

McDANIEL, Edwin R.

【Course Content】

The course is designed to improve student skills in planning, drafting, revising, and editing academic essays/reports. Emphasis is placed on the purpose, structure, and style of academic writing. Learning to compose and support arguments using multiple source materials will be stressed. The course will also help improve student's ability to read and analyze complex academic texts and exercise critical thinking.

【Schedule】

Topics examined may include, but are not limited to, the following:

・Determining an essay topic of interest.
・Identifying and using research source material.
・Reviewing the literature
・Preparing an outline
・Constructing and writing the report.
・Source citation requirements.
・Proper source citation format.

【Assessment】

Course assessment will be through a series of writing exercises culminating in an academic research paper.

【Textbooks】

Course material will be drawn from contemporary academic journals and books.

コミュニケーション学特講5（翻訳技術）

STEPHENSON, Brett

【Course Content】

The purpose of this seminar is to increase students' awareness and understanding of the theory & practice of Japanese－English translation. The seminar will be approximately thirty percent theory and seventy percent practice. Theory will be introduced to aid in understanding of the translation process, but the major focus of the seminar is improving the J－E translation skills of students.

【Schedule】

Four major translation areas will be covered:

1）Commercial Translation－Advertising/promotional material
2）Technical Translation－User's Manual/Instructions
3）Socio－Political Issues－Magazine/Newspaper articles
4）Business－Finance & Economics

【Assessment】

There will be a practical translation test on the final day and students will have the opportunity to apply what they have learned.

【Textbooks】

Introducing translation studies (Jeremy Munday Routledge London 2001)
(ISBN 0－415－22927－8)

コミュニケーション学特講6（翻訳技術）

STEPHENSON, Brett

【Course Content】

The purpose of this seminar is to increase students' awareness and understanding of the theory & practice of Japanese－English translation. The seminar will be approximately thirty percent theory and seventy percent practice. Theory will be introduced to aid in understanding of the translation process, but the major focus of the seminar is improving the J－E translation skills of students.

【Schedule】

Four major translation areas will be covered:

1）Commercial Translation－Advertising/promotional material
2）Technical Translation－User's Manual/Instructions
3）Socio－Political Issues－Magazine/Newspaper articles
4）Business－Finance & Economics

【Assessment】

There will be a practical translation test on the final day and students will have the opportunity to apply what they have learned.

【Textbooks】

Introducing translation studies (Jeremy Munday Routledge London 2001)
(ISBN 0－415－22927－8)

コミュニケーション学特講7・8（日本語表現）

窪田守弘

【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くておもしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくいが、映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語の談話分析という視点から、テレビや映画というマスメディアにおける言語表現を考えていく。

1）日本語コミュニケーションa
　本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中でなされる言語表現の基本的な談話分析をして、理解を深めるようにする。

2）日本語コミュニケーションb
　後期には、日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として談話分析をさらに進める。映画やテレビを通して種々の言語や文化の在り方を調べ、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することにしている。そして、日本語コミュニケーションは、日常生活のコミュニケーションの在り方を、第二言語習得という視点から研究する考えである。

【授業計画】

毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから論文を作成するための基礎的な知識や技術を身につける。

【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

談話分析を学ぶ人のために（マルコム・クールタルド他著　世界思想社）

コミュニケーション学演習3（日本語表現）

窪田守弘

【授業の概要】

日本語は長い歴史の中で、中国語に始まり、ポルトガル語、オランダ語、ドイツ語、フランス語、英語など、多くの外国語の影響を受けてきている。それが日本語の豊かな表現形式、特に外来語として日本語の中で重要な構成要素となっている。最近は、隣国の中国や韓国との交流がますます活発になり、相互の言語や文化に新しい傾向が見られる。中国語は表意文字であり、ハングルは表音文字であるが、日本語はその両方の特性を具有していると考えられる。そこで、現在の日本語にはどのような表現上の特色があるかについて、それが日本語独自のものか、あるいは他の言語にも見られる現象なのかについて、「対照言語学」の視点からその特徴を明かにしていきたい。

【授業計画】

日本語と英語、中国語、韓国語などの表現上の関連についてはこれまでも多くの指摘や研究がある。本演習ではまずそれらについて概観し、その知識を基礎して相互の言語の傾向を知る。具体的には著名な小説、ドラマのシナリオ、映画の字幕などを教材として、その中に見られる典型的な談話構文を比較し分析していく。

【評価方法】

出席状況、学期末のレポートの結果などで評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

演習時に紹介する。

コミュニケーション学演習４（日本語表現）

窪田守弘

【授業の概要】

日本語は長い歴史の中で、中国語に始まり、ポルトガル語、オランダ語、ドイツ語、フランス語、英語など、多くの外国語の影響を受けてきている。それが日本語の豊かな表現形式、特に外来語として日本語の中で重要な構成要素となっている。最近は、隣国の中国や韓国との交流がますます活発になり、相互の言語や文化に新しい傾向が見られる。中国語は表意文字であり、ハングルは表音文字であるが、日本語はその両方の特性を具有していると考えられる。そこで、現在の日本語にはどのような表現上の特色があるかについて、それが日本語独自のものか、あるいは他の言語にも見られる現象なのかについて、「対照言語学」の視点からその特徴を明かにしていきたい。

【授業計画】

日本語で表現されるさまざまな表現形式に関して、それに言及している文法学者の代表的な考えを整理する。また、日本の代表的な作家による数冊の『文章読本』を資料として、その内容と形式について詳細に分析する。

【評価方法】

演習時の発表や参加態度、学期末のレポートの結果などで評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

演習時に紹介する。

ビジネスコミュニケーション特講１（金融システム）

藤井正志

【授業の概要】

エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の金融システムの問題点を論ずる。

【授業計画】

第１講～12講　エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を論ずる。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ビジネスコミュニケーション特講２（金融システム）

藤井正志

【授業の概要】

エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の金融システムの問題点を論ずる。

【授業計画】

第１講～12講　エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を論ずる。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ビジネスコミュニケーション特講３（ビジネスと情報倫理）

梅田敏文

【授業の概要】

この講義では、第一にビジネスの中で情報システムがどのように活用されているか検討する。具体的には、20世紀後半の銀行情報システムの変遷と発展のあとをたどる。次に、情報システムを活用する場面でどのような倫理問題が発生しているかを考察する。

情報倫理の課題としては、技術倫理、プライバシー、知的財産権、情報モラル、コンピュータ犯罪などを取り上げる。

【授業計画】

第１講　オリエンテーション
第２講　銀行情報システム概論
第３講　第一次オンラインシステム
第４講　第二次オンラインシステム
第５講　第三次オンラインシステム
第６講　経営情報システム
第７講　情報倫理概論
第８講　知的財産権
第９講　個人情報保護
第10講　コンピュータ犯罪
第11講　情報倫理の基礎（１）
第12講　情報倫理の基礎（２）
第13講　情報倫理の基礎（３）
第14講　まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

ビジネスコミュニケーション特講4（ビジネスと情報倫理）

梅田敏文

【授業の概要】

情報倫理は、どのような体系を持ちどのような課題に挑戦しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。

当講義では、技術倫理、プライバシー、知的財産権、情報モラル、コンピュータ犯罪などの内容を事例に即して検討した後、情報倫理の必要性、情報倫理が新しい学問分野として認識されてきた経緯、情報倫理のフレームワークなどを論じる。

【授業計画】

第１講　オリエンテーション
第２講　情報倫理の基礎（１）
第３講　情報倫理の基礎（２）
第４講　情報倫理の基礎（３）
第５講　技術倫理
第６講　プライバシー
第７講　知的財産権
第８講　情報モラル
第９講　個人情報保護
第10講　コンピュータ犯罪
第11講　法律と情報倫理
第12講　倫理思想と情報倫理
第13講　情報倫理のフレームワーク
第14講　まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

情報倫理（村田潔編　経営情報学会情報倫理研究部会著　有斐閣）

ビジネスコミュニケーション特講5（ASEAN,NIESの投資環境）

森下允之

【授業の概要】

東アジア諸国は、日本を中心とした外国からの直接投資がもたらす資本の蓄積、雇用の創設、技術修得、外貨獲得能力の向上により先進国が長期間かけて達成した工業化を短期間に達成した。これらを論じる。

【授業計画】

東南アジア諸国の歴史
アセアン発足の契機
NIESの発展
アセアン経済の発展
直接投資の役割
アジア通貨危機の発生
これらを12回にわけて講義する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション特講6（中東欧の投資環境）

森下允之

【授業の概要】

ベルリンの壁が崩壊後、ポーランド、チェコ、ハンガリーなどの中東欧諸国は、社会主義、ソ連圏経済から、資本主義、西欧経済へと180度の劇的な転換を試みた。そして2004年念願のEU加盟を果たした。これらの諸国の政治、経済の変化と現状について論じる。

【授業計画】

中欧、東欧諸国の歴史
ソ連経済圏での役割分担
各国毎の政治経済状況
社会主義経済から市場経済への移行状況
EU加盟が投資環境へおよぼした影響
これらを12回にわけて講義する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション特講7（会計記号論）

杉本典之

【授業の概要】

企業会計は、元来、中世イタリアの商人たちが開発した記録計算法であるが、少なくとも６～７世紀の間に経済の国際化に伴って各国に伝播し、今日ではビジネス社会における国際的に共通の情報システムになっている。このような歴史的事実とその根底に貫徹する複式簿記の論理とに注目しつつ、企業会計の情報システムとしての基本的構造と社会的機能とを記号論的に多角的に考察する。

【授業計画】

（１）株式会社会計を典型とする企業会計、（２）情報システムとしての企業会計、（３）企業会計の認識・測定・伝達のプロセス、といった事項をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記３点の拙著をコピーして使用する場合もある。
（１）引当経理と繰延経理－その構造と機能－（同文舘　1981年）
（２）会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－
（同文舘　1991年）
（３）キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－
（共著　東京経済情報出版、1995年）

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞（日刊紙）の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション特講8（会計記号論）

杉本典之

【授業の概要】

企業会計は、ビジネス社会における国際的に共通の情報システムになった。つまり、企業会計制度の国際化が進展した。この事実を、各国の会計基準設定主体や国際会計基準委員会等が公表する会計基準や概念的枠組みを比較分析することによって確認し、企業会計の現状と課題をいわば語用論的に具体的に考察する。

【授業計画】

（1）情報システムとしての企業会計の基本的構造、（2）決算財務諸表をめぐる会計基準、（3）会計基準の国際的調和化、（4）各国の会計基準と国際会計基準、といった事項をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記3点の拙著をコピーして使用する場合もある。

（1）引当経理と繰延経理－その構造と機能－（同文舘　1981年）

（2）会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－（同文舘　1991年）

（3）キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－（共著　東京経済情報出版　1995年）

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞（日刊紙）の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション特講11・12（異文化教育）

霜田一敏

【授業の概要】

世界各地で起こっている紛争は、根底に経済的な格差、貧富の問題を置きながらも、人種差別や民族差別、宗教の違いから起こっている。同じ国のなかでも民族間の差別や対立、人種や宗教の違いから国を割ることへも発展する。そこでは経済的な利害からくる紛争もあろうし、歴史的宗教的な背景からくる紛争もある。いずれにしても早急に解決しなければならない21世紀の最大の課題である。この問題を教育と経済の観点から解決の方途を探究する。

履修生の関心と問題意識を重視した、次のような問題について前後期を通して履修生の研究発表を交えて論評し討論を行う。

1．アメリカの人種差別の歴史と多文化主義の問題
　　－経済格差を基盤として－
2．カナダの多文化主義の特色と問題点
3．イギリス植民地からの移民と文化的同化問題
4．フランスの人種差別の問題と政治的な右傾化問題
5．ドイツへの移民の実態と共存政策と排他運動
6．オーストラリアへの移民の歴史と先住民政策の問題
7．中国の少数民族共存の政策と経済格差の問題
8．イスラム文化圏の文化同化運動の問題
9．台湾の少数民族の実態と経済発展政策
10．日本における在日外国人問題と多文化主義
11．その他履修生が取り上げたい国の民族問題や経済問題、教育問題を検討する。

【授業計画】

履修生の関心や専門に応じて一つの国を選択して、自分でテーマ設定を図り、その個人研究と発表に基づき集団討議を行う。発表者のレポートとテキスト、その国のVTRを使って講義を進める。

【評価方法】

授業への参加度や積極的な態度、研究レポートとその発表、更に最終段階での総括によって評価を行う。

【テキスト】

多文化教育の比較研究
（小林哲也・江淵一公編著　九州大学出版会　1985）

ビジネスコミュニケーション特講9・10（異文化コミュニケーション）

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

日本国内の外資系の会社や、外国企業との取引において必要不可欠となるコミュニケーションの知識、技術についての言語表現（Verbal Expression）と非言語表現（Nonverbal expression）の両側面から、分析、考察するコースである。

【授業計画】

1．Course Orientation
2．コミュニケーションとは何か
3．オフィスの対人コミュニケーション
4．コーチング－相手の能力を引き出す最新ツール
5．組織の討議能力とファシリテーション
6．異文化コミュニケーションと英語コミュニケーションの醍醐味
7．国際交渉のスキル－感情と論理のバランス
8．コミュニケーションの言語的スキル－ビジネス英語の場合
9．進化する企業の対外コミュニケーション
10．コミュニケーション・ツールとしてのIT
11．discussion
12．summary
13．期末試験（またはレポート）

【評価方法】

期末試験（またはレポート）、presentation、授業への参加状況、出席率などを総合的に判断して評価する。

【テキスト】

ビジネスと異文化のアクティブ・コミュニケーション *Active Communication for Global Managers*（足立幸子、椿弘次、信達郎　同文舘出版　2002）

【参考文献・資料】

欧米式ビジネスマナーをスマートに身につける本（Ann Marie Sabath　スリーエーネットワーク2002）

ビジネスコミュニケーション特講13・14（ジェンダー）

國信潤子

【授業の概要】

まず、ジェンダー概念についての説明する。これは社会文化的に形成された性別であり、産業領域においても日本社会では明確なジェンダー区分がある。また海外のジェンダー関係の動向についても基本文献を講読・紹介する。さらに英語・日本語資料により、雇用機会均等関連の国連調査資料を検討する。

【授業計画】

各学生の研究テーマにそって資料・文献の講読、講義、各自の調査結果報告等によって授業を進める。各自の報告内容をレジメ作成し、発表する。その内容検討と質疑応答、討論を行う。また一部共同調査などもいれる。

各自の問題意識にそった資料講読をする。修士論文執筆にあたり、ジェンダー・センシティブな視点を反映できるように多面的にテーマ選択をする。

【評価方法】

受講態度、提出資料・レジメ・論文・調査報告内容などの評価

【参考文献・資料】

随時提示する。

ビジネスコミュニケーション特講15（統計）

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学、推計学の基本的概念を講義し、統計と社会の関わりあいについて学ばせる。

【授業計画】

第１回　講義の目的と授業計画の提示

第２回～第11回　以下の項目について講義する。

1．統計分析
2．平均値、代表値、標準偏差
3．相関係数
4．回帰分析
5．統計的推測

第12回　まとめ

いずれも講義とコンピュータを用いた実習を組み合わせて授業を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ビジネスコミュニケーション特講16（統計）

石橋善弘

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーション特講15で習得した統計学、推計学の基礎およびコンピュータを用いた統計解析能力を前提に、統計学、推計学の応用について講義する。コンピュータによる解析能力の向上をはかる。

【授業計画】

第１回　本講義の目的と授業計画の提示

第２回～11回　以下の項目について講義する

1．重回帰分析
2．因子分析
3．クラスター分析

第12回　まとめ

いずれも講義とコンピュータを使った実習をくみあわせて授業を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション特講19（国際ビジネス政策）

真田幸光

【授業の概要】

東アジアの経済状況を題材に研究、その上で日本企業のアジア戦略、日本国政府・地方自治体の国際経済外交戦略、地域経済活性化戦略について研究する。

【授業計画】

毎回、教員よりカレントなトピックスを上げて概要を講義、その上で講義内容に関わるディベートを行う。

【評価方法】

授業に於ける議論の内容及び提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。
必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

ビジネスコミュニケーション特講20（国際ビジネス政策）

真田幸光

【授業の概要】

前期に研究した内容を基に、企業、日本国政府、地方自治体のいずれかを想定してアジア戦略、国際経済外交戦略、地域活性化戦略に関する各自の研究レポートを作成する。

【授業計画】

毎回、各学生の個別指導を行う。

【評価方法】

提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

ビジネスコミュニケーション演習1（金融システム）

藤井正志

【授業の概要】

エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の金融システムの問題点を研究する。

【授業計画】

第1講～12講　エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を研究する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ビジネスコミュニケーション演習2（金融システム）

藤井正志

【授業の概要】

エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の金融システムの問題点を研究する。

【授業計画】

第1講～12講　エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を研究する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ビジネスコミュニケーション演習3（ビジネスと情報倫理）

梅田敏文

【授業の概要】

1985年の『Computer　Ethics』（D.Johnson）発刊以来、欧米を中心に、さまざまな情報倫理関係のテキストが出版されてきた。当演習では、そうした代表的なテキストを取り上げ、講読と受講者による発表を行う。発表担当者の内容と作成資料をベースに、受講者間で、そのテーマについて論議し、欧米における情報倫理の研究内容を理解する。また、日本における情報倫理のあり方を検討する。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　テキスト概説（1）
第3講　テキスト概説（2）
第4講　テキスト講読（1）
第5講　テキスト講読（2）
第6講　テキスト講読（3）
第7講　テキスト講読（4）
第8講　テキスト講読（5）
第9講　テキスト講読（6）
第10講　テキスト講読（7）
第11講　テキスト講読（8）
第12講　テキスト講読（9）
第13講　テキスト講読（10）
第14講　まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

Computer　Ethics（Deborah G.Johnson著　Prentice　Hall）

ビジネスコミュニケーション演習4（ビジネスと情報倫理）

梅田敏文

【授業の概要】

当演習では、欧米で発表された情報倫理に関する書籍、論文を取り上げ、講読と受講者による発表を行う。テーマとしては、プライバシー、個人情報保護、プロフェッショナル倫理、知的財産権などが含まれる。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　テキスト概説（1）
第3講　テキスト概説（2）
第4講　テキスト講読（1）
第5講　テキスト講読（2）
第6講　テキスト講読（3）
第7講　テキスト講読（4）
第8講　テキスト講読（5）
第9講　テキスト講読（6）
第10講　テキスト講読（7）
第11講　テキスト講読（8）
第12講　テキスト講読（9）
第13講　テキスト講読（10）
第14講　まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

Computer Ethics and Professional Responsibility
（Terrell Ward Bynaum & Simon Rogerson著　Blackwell）

ビジネスコミュニケーション演習5（ASEAN,NIESの投資環境）

森下允之

【授業の概要】

日本の製造業の対外直接投資の最重要地域である東アジアにおける本邦企業の動きを分析調査する。対象はアセアン諸国、NIESとする。アセアン、NIES諸国は97年の通貨危機前まで「東アジアの奇跡」と称賛されるまで発達してきた。しかしながら、通貨危機および近年台頭著しい中国の影響を受け、従来の成長を今後も維持できるか問題なしとしない。今後の発展のために必要な政策を探る。

【授業計画】

アジア通貨危機後の経済回復状況
日米欧銀行からの資金流出入動向調査
金融セクター再生の現状
日系企業の動向
アジアの産業構造の変化
中国の影響と自由貿易協定
以上を12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション演習6（中東欧の投資環境）

森下允之

【授業の概要】

中東欧諸国の魅力は、EUに陸続きの中進国であり、巨大市場でありながらアジアやアメリカに比し日本のプレゼンスがやや低いEUへの輸出基地になりうることである。

EU新加盟国のうち、特にポーランド、チェコ、ハンガリー各国につき、直接投資先としての優劣を分析するとともに、統一通貨ユーロへの条件、可能性などを分析調査する。

【授業計画】

中東欧の企業進出先としての特色
各国毎の投資誘致方針と魅力
直接投資動向（国別、業種別）
日系企業の進出状況
EUへの加盟後の課題とユーロ参加の展望
これらを12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション演習7（会計記号論）

杉本典之

【授業の概要】

この演習はビジネスコミュニケーション特講7と相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、複式簿記の論理が貫徹する情報システムとしての企業会計を多角的に考察するために必要な情報を収集し、分析し、そして修士論文のテーマを模索しかつ明確化する、ということを学生自らに実践していただく。

【授業計画】

各学生に各自の問題意識にもとづいた学習・研究の成果を発表してもらい、全員で討論する。このような授業をつうじて、問題発見能力、思考力、および表現力を向上させ、修士論文の基礎を固める。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記3点の拙著をコピーして使用する場合もある。
（1）引当経理と繰延経理－その構造と機能－（同文舘　1981年）
（2）会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－
（同文舘　1991年）
（3）キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－
（共著　東京経済情報出版　1995年）

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞（日刊紙）の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション演習8（会計記号論）

杉本典之

【授業の概要】

この演習はビジネスコミュニケーション特講8と相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、企業会計制度の国際化が進展したという事実を具体的に理解するために必要な情報を収集し、分析し、その成果を修士論文としてまとめる、ということを学生自らに実践していただく。

【授業計画】

修士論文のテーマを明確化させ、論文作成のための具体的な作業を進展させる。各学生は順番に中間報告を何回かに分けて行い、討論を積み重ねて論文を完成させていく。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート、修士論文等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記3点の拙著をコピーして使用する場合もある。
（1）引当経理と繰延経理－その構造と機能－（同文舘　1981年）
（2）会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－
（同文舘　1991年）
（3）キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－
（共著　東京経済情報出版　1995年）

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞（日刊紙）の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション演習9・10（異文化コミュニケーション）

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

当演習はビジネスコミュニケーション特講9,10（異文化コミュニケーション）と相互補完関係にあり、当該特講を履修する学生が、主体的に自らの修士論文のテーマに沿って研究を進めていくコースである。

【授業計画】

学生は各自の選択した修士論文のテーマのもとに、研究計画を作成、関連資料を読破し、独自の思考や、アイデアをまとめて修士論文を完成させる。

【評価方法】

平常の担当教師への報告、討論、レポート、及び修士論文などを総合して成績を評価する。

【テキスト】

各自の修士論文に沿った教材、資料の文献録を提出し、担当教師の指示やアドバイスを受ける。

ビジネスコミュニケーション演習11・12（異文化教育）

霜田一敏

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーションにおける教育学的な研究の可能性の追究を基底において、広く今日的なグローバルな視点から問題の発掘や課題解決を図る。その上で、各人の個別的な関心や問題意識に応じて、テーマ設定を行い、修士論文の完成にむけて論文執筆指導を行う。その際、参考文献、実践・調査報告書等の入手方法の紹介、研究方法の指導、論文の章節ごとの検討等、適宜修士論文作成に必要な指導を行う。

【授業計画】

履修生は関心のある内外の研究資料や論文を毎回レポートし、集団討議を行い、批判的な考察と論評を行う。その積み重ねのなかから論文作成の基礎的な技術を身につけさせる。

【評価方法】

レポートの発表と集団討議への参加度、論文作成と研究成果を総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション演習13・14（ジェンダー）

國信潤子

【授業の概要】

ジェンダー論、産業社会学の領域である。まず、各自のテーマを選び、それぞれの領域で国際的比較データを収集、考察する。特にジェンダー関係分析の論文、統計データなどを検討する。領域として、ビジネス環境、産業社会学におけるジェンダー問題、人種問題、移住労働者、雇用の平等などの和英資料を講読する。またジェンダーにかかわる理論書についても講読をし、議論する。異文化における雇用関係のジェンダー問題を中心に講ずる。

【授業計画】

資料・文献の講読、各自の報告等によって授業を進める。各自の報告内容についてレジメを作成し発表する。その内容の検討と質疑応答、討論を行う。

【評価方法】

受講態度、講読能力、提出資料・レジメ・論文内容などの評価。

【テキスト】

随時資料配布

【参考文献・資料】

随時資料配布

ビジネスコミュニケーション演習15（統計）

石橋善弘

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーション特講15で習得した統計学、推計学の基本的概念を応用する能力を育成する。

【授業計画】

第1回　講義の目的と授業計画の提示

第2回～第11回　学生の研究テーマに関係する統計学、推計学の問題を取り上げ、学生の発表をもとに、聴講生の間の討議の訓練を行う。

第12回　まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポート等により総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション演習16（統計）

石橋善弘

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーション特講16で習得した統計学、推計学の基本的概念を応用する能力を育成する。

【授業計画】

第１回　講義の目的と授業計画の提示

第２回～第11回　学生の研究テーマに関係する統計学、推計学の問題を取り上げ、学生の発表をもとに、聴講生の間の討議の訓練を行う。

第12回　まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポート等により総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション演習19（国際ビジネス政策）

真田幸光

【授業の概要】

担当教員が行っている各企業、日本国政府、地方自治体に対するアドバイス内容を事例研究として取り上げ、その内容について解説を行う。

【授業計画】

各授業は担当教員からの解説を受けた後、各回、その開設内容についてディベートを行う。

【評価方法】

各授業に於ける発言内容及び提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

ビジネスコミュニケーション演習20（国際ビジネス政策）

真田幸光

【授業の概要】

大学院一年次に作成したレポートを基礎に、個別日本企業、日本国政府、地方自治体を取り上げ、そのアジア戦略、国際経済外交戦略、地域経済活性化戦略の具体案を作成する。

【授業計画】

毎回授業で各学生毎に個別指導を行うこととする。

【評価方法】

提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

比較文化論１（日米）

McDANIEL, Edwin R.

【Course Content】

The history of Japanese-U.S. relations is characterized by periods of close cooperation, estrangement, and even hostilities. Many of the problems affecting the relationship are the result of diverse cultural influences and dissimilar communication styles.

This course will compare Japanese and U.S. culture with emphasis on how varied culturally based values produce different social norms, behaviors, and communication styles. The emphasis will be on examining and comparing the difference in Japanese and U.S. cultural values, beliefs, and attitudes and how they influence communication across different contexts.

【Schedule】

Class meetings will be a combination of lecture and discussion. Topics examined may include, but are not limited to, the following:

- Geographical and historical factors influencing Japan and U.S. culture
- Japanese and U.S. cultural characteristics
- Japanese and U.S. communication styles (verbal and nonverbal)
- Japanese and U.S. communication across contexts
- Communication and culture in contemporary Japanese-U.S. relations

【Assessment】

Attendance, class participation, quizzes, short written or oral reports, and one research paper on a topic of individual interest will be used to evaluate student progress.

【Textbooks】

- Different Games, Different Rules (1999) (Haru YAMADA ; Oxford Press)
- Other readings will be provided

【Reference】

- American Cultural Patterns (1991) (Edward C. STEWART & Milton J. BENNETT ; Intercultural Press)
- American Ways (2000) (Gary ATHEN ; Intercultural Press)

比較文化論２（日欧）

山井徳行

【授業の概要】

日本と欧州の関係や日本人の中に生成されてきたヨーロッパのイメージを点検する。そのような関係性の中に、日本人としてのヨーロッパ理解の実態が浮き上がる、と思うからである。ヨーロッパ精神の源流をギリシャ文化とキリスト教さらには近代合理主義の中に求めて探求する。

以上のような知的準備をしたうえで、フランス、イギリス等のヨーロッパの主な国々と日本を、文化の生産物としての文化財や文化現象を具体的に比較しながら、抽象的な一般論にまで高めたい。しかし、フランスについて語ることが多くなると思う。ただ比較するだけでなく、そこから現代の日本やヨーロッパの持つ問題点を明らかにしたい。

【授業計画】

第１週　授業のやり方や準備の仕方を説明する。
第２～３週　日本とヨーロッパの関係を歴史的に探る。
第４～５週　ヨーロッパ文明の根幹をなすキリスト教や科学主義ついて。
第６～８週　生活の具体的な諸側面の比較考察。
第９～10週　日本人的人生、ヨーロッパ人的人生。
第11～12週　日本の問題、ヨーロッパの問題。
第13～15週　整理とまとめ。

学生は課題図書をしっかり読み発表し、それを土台に討論が可能になるような授業にしたい。

【評価方法】

発表と試験で行う。

【テキスト】

特になし。プリントや論文を用意する。

【参考文献・資料】

沈黙のことば（エドワード・T・ホール著　〔The Silent Language（Edward T. Hall)〕）
英語と日本人（太田雄三著　講談社学術文庫）

生体情報心理学特殊研究 1

沖田庸嵩

【授業の概要】

脳内認知情報処理を扱う心理生理学的研究のうち、主として事象関連脳電位（ERP）を測度とする領域で、各自の関心にしたがい先行研究を調べ、論文を読み、そしてその発表・討論を繰り返すなかで、修士論文のテーマを決定し、その作成に向けた準備を行う。

【授業計画】

順次、各自が取り上げた論文を紹介し、全員で討論する。また、修士論文の作成に向けた予備実験・本実験の計画・結果についても発表し、討論する。

【評価方法】

発表討論と研究活動により評価する。

【テキスト】

使用しない。

生体情報心理学特殊研究 2

清水 遵

【授業の概要】

情動喚起刺激によって賦活される生体システム（神経系、内分泌系、免疫系）の反応メカニズムを電気生理学、精神内分泌学、精神神経免疫学的指標からとらえる方法論について検討する。また、情動体験とこれら生体システムの活性指標との関連性について条件発生的検索を行なうことで、情動が心身の健康に及ぼす影響についても考察する。

【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行なう。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書に基づき予備実験を行ない、学年末には中間発表が出来るよう研究指導を行なう。

3年次には、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点について、より研究を深化するよう指導し、学位論文に結実するよう指導する。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

社会心理学特殊研究 1

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、深い学識と綿密な論理構成のもとに、その最先端を拓き追究することを可能にするよう、支援・助言すること。そして、最終的には学位審査に値する博士学位論文に結実するようにすることを目標とする。

第1年次においては、修士論文およびその後の展開を含めて、学会誌に投稿する論文の作成指導を中心とする。

第2年次においては、各自が選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献レビューなどについて指導を行い、加えて、新たな研究を調査として実施させ、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。

第3年次においては、第2年次に実施した調査をまとめ、学会誌に投稿するための支援を行うとともに、これらの論文を含めて、博士学位審査論文として提出するに必要な事柄の指導を行う。

また、他者を指導するという経験が、自己の研究を高めるうえで有効であることを確認させる目的で、博士課程学生には研究指導として、学部学生の卒論指導にも参加する。

【授業計画】

特には定めない。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

臨床心理学特殊研究 1

二宮 昭

【授業の概要】

障害児臨床を中心に、臨床心理学領域における学術的価値の高いユニークな研究論文を作成するための指導・助言を行う。

【授業計画】

第1年次では、研究テーマの設定、方法論の検討などをより深め、各自が修士論文で扱った問題をさらに展開させる。

第2年次では、各自が選んだ個別テーマに沿って、研究方法および文献研究等の指導を行い、学年末には中間発表が出きるようにする。

第3年次では、中間発表を踏まえ、さらに研究方法の問題点と改善点について、研究がより深化するように指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するようにさらに指導を行う。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

言語コミュニケーション特殊研究 1

松本青也

【授業の概要】

応用言語学（英語教育）

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特殊研究 2

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育、日本言語学の研究

経済と企業のグローバル化は日本語教育に新たな局面を見せている。いま、日本文化の理解と異文化の理解をもとに広い視野にたった、コミュニケーションを核とした日本語知識をもつ教師が求められるようになった。

新しい要請にこたえる日本語学、日本語教育文法学、日本語教育方法、日本語コミュニケーション、またマルチメディアを用いた教育と学習法について、それぞれの理論を構築し実践についての考察を行う。

【授業計画】

1年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。

2年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。

3年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進める。学位論文に結実するよう、指導を行う。

以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

【評価方法】

論文作成のための課題レポート、また議論の参加など、平常の態度。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特殊研究 3

馮 富榮

【授業の概要】

中国語教育及び日・中両言語の比較

【授業計画】

本講義では、日・中両言語について、主として統語論、語用論、語彙論という3つの側面から検討する。輪読という形で講義を進めていくが、先行研究を幅広く講読する。そしてディスカッションを交えながら先行研究に残っている問題点や日・中両言語のそれぞれの特徴、両言語を機能させている文化的な背景、そして両言語の相違点を生み出した歴史的な原因、思考様式の相違による原因などについても議論する。

本講義では、また日本の大学での中国語の教育についても検討する。具体的に言うと、今の日本の大学の中国語教育には、どのような問題点（教材、やカリキュラムの編成、そして教育の方法や教育目標の設定など）があるか、そういった問題点を解決するにはどうすればよいか、今後の日本の大学の中国語の教育をどう展開させるべきか、そして日本人を対象とする中国語教育の特色はどこにあるかを検討していきたい。

要するに、本講義は中国語の教育者と日・中両言語の比較に関する研究者を養成することを目的としている。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

【教材】

論文のコピーなど使用する。

言語コミュニケーション特殊研究 4

窪田守弘

【授業の概要】

日本人は、日常生活のさまざまな場面で複雑な表現活動をしているが、実はそれを無意識に行なっていることが多い。そこで、日本人が場面に応じて使い分ける一種独特の表現やジェスチャーについて、心理学、社会学、コミュニケーションなどの関連する学問分野の成果を取り入れながら、詳しく検証していく。

【授業計画】

日本人の言語活動が視覚的にわかりやすく表現される媒体として映画やテレビなどが考えられる。そこで、代表的な日本映画やテレビドラマを厳選して、その会話の部分を中心に会話文の構造から、日本人の文法意識の実態について分析を行なう。その際には「第二言語習得」（Teaching Japanese as a Second Language）の視点を中心にして分析し、これからの日本語教育の教授法として、実際に適用できる方法論となるか否かという可能性について考察する。

【評価方法】

本講義の発表内容や参加態度、レポートなどの結果などで評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

言語コミュニケーション特殊研究5

McDANIEL, Edwin R.

【Course Content】

Special research in language communication is designed to facilitate in depth exploration of a communication topic of interest. Through student-instructor interaction, the student will be guided in applying philosophy of knowledge concepts to a selected research subject.

【Schedule】

Topics examined may include, but will not be limited to, the following, which will be explored from the perspective of the student's specific communication research interest.

- Ontology
- Epistemology
- Axiology
- Methodology
- Theoretical Paradigms
- Theoretical application
- Research resources

【Assessment】

Progress will be assessed through periodic student-instructor discussions and a comprehensive research paper on the student's selected topic.

【Textbooks】

A reading list will be constructed jointly by the student and the instructor. Reading materials will be drawn from relevant journal articles, books, and other sources as may be decided.

言語コミュニケーション特殊研究 1

松本青也

【授業の概要】

応用言語学（英語教育）

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特殊研究 2

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育、日本言語学の研究

経済と企業のグローバル化は日本語教育に新たな局面を見せている。いま、日本文化の理解と異文化の理解をもとに広い視野にたった、コミュニケーションを核とした日本語知識をもつ教師が求められるようになった。

新しい要請にこたえる日本語学、日本語教育文法学、日本語教育方法、日本語コミュニケーション、またマルチメディアを用いた教育と学習法について、それぞれの理論を構築し実践についての考察を行う。

【授業計画】

1年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。

2年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。

3年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進める。学位論文に結実するよう、指導を行う。

以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

【評価方法】

論文作成のための課題レポート、また議論の参加など、平常の態度。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特殊研究 4

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

当コースは、博士課程後期において博士論文を執筆するにあたり、異文化コミュニケーション分野の広い専門知識を総括する目的を持つと同時に、個々の学生がその広範囲な分野において自身の学問的興味の焦点である論文のテーマに絞って研究を行うための指標を示す目的をも合い持つものである。

【授業計画】

Part 1： Foundations of Intercultural Communication
Part 2： Intercultural Communication Process
Part 3： Intercultural Communication in Everyday Life
Part 4： Intercultural Communication in Applied Settings

【評価方法】

上記教材についての学生のオーラルレポート、関連論文読解、発表能力などを総合的に判断評価する。

【テキスト】

Experiencing Intercultural Communication:An Introduction（Judith N. Martin and Thomas K. Nakayama　McGraw Hill　2001）

言語コミュニケーション特殊研究 5

馮 富榮

【授業の概要】

中国語教育及び日・中両言語の比較

【授業計画】

本講義では、日・中両言語について、主として統語論、語用論、語彙論という3つの側面から検討する。輪読という形で講義を進めていくが、先行研究を幅広く講読する。そしてディスカッションを交えながら先行研究に残っている問題点や日・中両言語のそれぞれの特徴、両言語を機能させている文化的な背景、そして両言語の相違点を生み出した歴史的な原因、思考様式の相違による原因などについても議論する。

本講義では、また日本の大学での中国語の教育についても検討する。具体的に言うと、今の日本の大学の中国語教育には、どのような問題点（教材、やカリキュラムの編成、そして教育の方法や教育目標の設定など）があるか、そういった問題点を解決するにはどうすればよいか、今後の日本の大学の中国語の教育をどう展開させるべきか、そして日本人を対象とする中国語教育の特色はどこにあるかを検討していきたい。

要するに、本講義は中国語の教育者と日・中両言語の比較に関する研究者を養成することを目的としている。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

【教材】

論文のコピーなど使用する。

言語コミュニケーション特殊研究6

窪田守弘

【授業の概要】

日本人は、日常生活のさまざまな場面で複雑な表現活動をしているが、実はそれを無意識に行なっていることが多い。そこで、日本人が場面に応じて使い分ける一種独特の表現やジェスチャーについて、心理学、社会学、コミュニケーションなどの関連する学問分野の成果を取り入れながら、詳しく検証していく。

【授業計画】

日本人の言語活動が視覚的にわかりやすく表現される媒体として映画やテレビなどが考えられる。そこで、代表的な日本映画やテレビドラマを厳選して、その会話の部分を中心に会話文の構造から、日本人の文法意識の実態について分析を行なう。その際には「第二言語習得」（Teaching Japanese as a Second Language）の視点を中心にして分析し、これからの日本語教育の教授法として、実際に適用できる方法論となるか否かという可能性について考察する。

【評価方法】

本講義の発表内容や参加態度、レポートなどの結果などで評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

ビジネス特講Ⅰ（統計）

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学、推計学の基本的概念を講義し、統計とビジネスとの関わりあいについて学ばせる。

【授業計画】

第１回　　本講義の目的および授業計画の提示
第２回－第11回　以下の項目について講義する。
　1　統計分析
　2　平均値、代表値、標準偏差
　3　相関係数
　4　回帰分析
　5　統計的推測
第12回　　補足とまとめ
また、随時Excelの利用の訓練を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

ビジネス特講Ⅱ（マーケティング）

石橋善弘

【授業の概要】

企業による顧客創造活動として体系づけられる現代マーケティング論の全体像を把握するために、マーケティング論の基本的テキストであるP.Kotlerの「マーケティングマネジメント」を輪読する。これにより、マーケティングに関する基本的な知識を得ることを目指す。なお、P.Kotler の考え方を実際の事例にあてはめる「ケース分析」を適宜行い、応用力の涵養にもつとめたい。

【授業計画】

1．マーケティングマネジメントの理解（1）
2．マーケティングマネジメントの理解（2）
3．マーケティングマネジメントの理解（ケース）
4．マーケティング機会の分析（1）
5．マーケティング機会の分析（2）
6．マーケティング機会の分析（ケース）
7．マーケティング戦略の立案（1）
8．マーケティング戦略の立案（2）
9．マーケティング戦略の立案（ケース）
10．マーケティング上の意志決定（1）
11．マーケティング上の意志決定（2）
12．マーケティング上の意志決定（ケース）
13．マーケティングチャネルのマネジメント
14．マーケティングコミュニケーションと広告
15．まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ビジネス特講Ⅲ（経営学）

河合篤男

【授業の概要】

経営学の中でも、とくに企業革新に焦点を当てる予定です。まず、企業革新を論じるにあたって必要なフレームワークを概観します。その後、最近になって大きな企業革新を遂げた企業の、ケース・スタディーを取り上げます。ケース分析に基づき、既存のフレームワークの拡張をめぐり、ディスカッションをしていきたいと考えます。

【授業計画】

1．企業のドメイン
2．企業の資源展開
3．企業革新モデル
4．経営戦略と組織
5．企業のパラダイム（フレームワーク）
6．企業のパラダイム（機能と逆機能）
7．企業における新事業開発体制
8．ヒューレット・パッカードのケース
9．IBMのケース
10．松下電器産業のケース
11．GEのケース
12．3Mのケース
13．3Mのケース（その２）
14．ケース・スタディーと仮説構築
15．まとめ

【評価方法】

未定

【テキスト】

組織能力を活かす経営　３Ｍ社の自己超越ストーリー（河合篤男・伊藤博之・山路直人・山田幸三　中央経済社）

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する

ビジネス特講Ⅳ（ファイナンス）

藤井正志

【授業の概要】

日本銀行による金融の量的緩和政策にもかかわらず、企業部門のマネーフローの変化から銀行貸出残高は減少を続け、マネーサプライ残高の伸び率も低い水準にとどまっている。その中で、日本経済は2002年以降緩やかな景気回復過程に入っている。本講義においては、エクセルを用いて日本経済・金融の現状を分析し、金融システムの問題点を論ずる。

【授業計画】

第１講～12講　エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を研究する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ビジネス特講Ⅴ（国際ビジネス）

秦 忠夫

【授業の概要】

日本企業の東アジアビジネス戦略の構築、日本国政府・地方自治体の国際経済外交戦略・地域経済活性化戦略に資する国際化戦略、東アジア諸国の対日経済ビジネス戦略全般を研究し、日本の国益に適う国際ビジネス政策立案に向けた研究、考察、そして研究発表（学会発表ではなく関連各所への提案）に向けた基礎知識を養うこと目的とする。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．グローバル経済現状認識１（米国）
3．同上（欧州）
4．同上（中近東・アフリカ）
5．同上（北東アジア）
6．同上（東南アジア・南アジア）
7．国際金融市場の動向
8．日本企業のグローバル戦略
9．日本国政府の経済外交戦略
10．地域経済活性化と地方自治体の経済新興策
11．米国政府・米国企業の経済外交、国際ビジネス戦略との比較
12．東アジア諸国の対日戦略
13．日本企業の国際ビジネス（ケーススタディ）
14．政策提案、企業アドバイスに向けたディスカッション
15．総括

【評価方法】

授業への取組み姿勢と期末レポートで評価。

ビジネス特講Ⅶ（現代ビジネス）

森下允之

【授業の概要】

ベルリンの壁が崩壊後、ポーランド、チェコ、ハンガリーなどの中東欧諸国は、社会主義、ソ連圏経済から、資本主義、西欧経済へと180度の劇的な転換を試みた。そして2004年念願のEU加盟を果たした。これらの諸国の政治、経済の変化と現状について論じる。

【授業計画】

中欧、東欧諸国の歴史
ソ連経済圏での役割分担
各国毎の政治経済状況
社会主義経済から市場経済への移行状況
EU加盟が投資環境へおよぼした影響
これらを12回にわけて講義する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネス特講Ⅵ（アジア経済）

真田幸光

【授業の概要】

東アジア地域経済の発展と日本経済、日本の地域経済、そして日本企業の発展をリンクさせ、東アジア地域経済の共存共栄システムを構築する為の研究を行う。

主要研究分野は以下の通り。

（1）担当教員がアドバイスをする韓国政府関連機関、モンゴル政府関連機関などの東アジア諸国と日本の経済交流促進スキーム構築に関わる研究。
（2）担当教員がアドバイスをする政府関連機関、地方自治体等が進める国際化、地域経済活性化に寄与する東アジア経済の活用に仕方に関わる研究。
（3）担当教員がアドバイスする個別企業の経営戦略全般に於ける国際戦略構築に関わる研究。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．アジア各国に於ける日本企業のビジネス展開に関する個別研究（韓国）
3．同上（北朝鮮）
4．同上（モンゴル）
5．同上（中国１）
6．同上（中国２）
7．同上（台湾・香港・シンガポール）
8．同上（フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア）
9．同上（ベトナム、カンボジア、ミャンマー）
10．同上（インド、パキスタン、スリランカ）
11．アジアビジネスに於ける米国の影響に関する考察
12．アジアビジネスに於ける欧州の影響に関する考察
13．日本企業のアジアビジネスを支援する政府・地方自治体の政策
14．日本企業のアジア戦略（ケーススタディー）
15．総括

【評価方法】

平常点及び必要に応じて論文内容にて評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。

ジェネラルビジネス演習Ⅰ（マーケティング）

石橋善弘

【授業の概要】

マーケティングに関する戦略的意志決定の精度を高めるためには、個人的な経験の枠を超えた、客観的データと「理論」による分析が不可欠である。ジェネラルビジネス演習Ⅰ、Ⅱは、マーケティングにおける数量的分析を行うためのベースとなる様々な「理論」を関連文献の輪読を通じて学習し、客観的データ、具体的ケースを分析するための「考え方」を身につけることを目指す科目である。なお本演習では、マーケティング理論の中でも、特に競争構造分析、消費者行動、プライシングに関連する部分について重点的に取り上げる。

【授業計画】

1．イントロダクション
2．市場の規定と競争構造分析（1）
3．市場の規定と競争構造分析（2）
4．消費者行動（1）
5．消費者行動（2）
6．セグメンテーションと戦略の決定（1）
7．セグメンテーションと戦略の決定（2）
8．製品デザインと属性アプローチ
9．プライシングの基礎
10．消費者心理に基づくプライシング（1）
11．消費者心理に基づくプライシング（2）
12．プライシング：応用
13．ケース・スタディ（1）
14．ケース・スタディ（2）
15．まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ジェネラルビジネス演習Ⅱ（マーケティング）

石橋善弘

【授業の概要】

マーケティングに関する戦略的意志決定の精度を高めるためには、個人的な経験の枠を超えた、客観的データと「理論」による分析が不可欠である。ジェネラルビジネス演習Ⅰ、Ⅱは、マーケティングにおける数量的分析を行うためのベースとなる様々な「理論」を関連文献の輪読を通じて学習し、客観的データ、具体的ケースを分析するための「考え方」を身につけることを目指す科目である。なお本演習では、マーケティング理論の中でも、特に流通、ブランド、広告の３要素について重点的に取り上げる。

【授業計画】

1．イントロダクション
2．流通と営業（1）
3．流通と営業（2）
4．流通と営業（3）
5．コミュニケーションと広告（1）
6．コミュニケーションと広告（2）
7．コミュニケーションと広告（3）
8．プロモーション（1）
9．プロモーション（2）
10．ブランドマネジメント：基礎
11．ブランド力の測定
12．ブランドマネジメント：応用
13．テストとコントロール（1）
14．テストとコントロール（2）
15．まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ジェネラルビジネス演習Ⅲ（ファイナンス）

藤井正志

【授業の概要】

日本銀行による金融の量的緩和政策にもかかわらず、企業部門のマネーフローの変化から銀行貸出残高は減少を続け、マネーサプライ残高の伸び率も低い水準にとどまっている。その中で、日本経済は2002年以降緩やかな景気回復過程に入っている。本講義においては、エクセルを用いて日本経済・金融の現状を分析し、金融システムの問題点を研究する。

【授業計画】

第１講～12講　エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を研究する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ジェネラルビジネス演習Ⅳ（ファイナンス）

藤井正志

【授業の概要】

銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について研究する。

【授業計画】

金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について研究する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ジェネラルビジネス演習Ⅴ（国際ビジネス）

真田幸光

【授業の概要】

東アジアの経済状況を題材に研究、その上で日本企業のアジア戦略、日本国政府・地方自治体の国際経済外交戦略、地域経済活性化戦略について研究する。

更に、その研究した内容を基に、企業、日本国政府、地方自治体のいずれかを想定してアジア戦略、国際経済外交戦略、地域活性化戦略に関する各自の研究レポートを作成する。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．自動車業界の国際戦略研究
3．電子・電機業界の国際戦略研究
4．鉄鋼業界の国際戦略研究
5．一般機械業界の国際戦略研究
6．ITソフト業界の国際戦略研究
7．海外労務管理研究
8．海外物流研究
9．海外資金調達研究
10．海外資金回収研究
11．FTA
12．地域経済活性化策と地域の国際化
13．総括討議１
14．総括討議２
15．総括討議３

【評価方法】

平常点及び必要に応じて論文で評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。

ジェネラルビジネス演習Ⅵ（国際ビジネス）

真田幸光

【授業の概要】

ジェネラルビジネス演習Ⅴで研究した個別日本企業、日本国政府、地方自治体を取り上げ、そのアジア戦略、国際経済外交戦略、地域経済活性化戦略の具体案を作成する。

【授業計画】

1．ガイダンス
2．業界別戦略策定と発表（自動車業界）
3．同上（電子。電機業界）
4．同上（鉄鋼業界）
5．同上（一般機械業界）
6．同上（ITソフト業界）
7．FTA戦略の策定と発表（対アジア）
8．同上（対中近東）
9．同上（対アフリカ）
10．地域国際化（埼玉県の事例）
11．同上（神奈川県の事例）
12．同上（愛知県の事例）
13．朝鮮半島経済外交戦略
14．中国経済外交戦略
15．総括

【評価方法】

平常点及び必要に応じて論文にて評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。

ジェネラルビジネス演習Ⅶ（現代ビジネス）

森下允之

【授業の概要】

日本の製造業の対外直接投資の最重要地域である東アジアにおける本邦企業の動きを分析調査する。対象はアセアン諸国、NIESとする。アセアン、NIES諸国は97年の通貨危機前まで「東アジアの奇跡」と称賛されるまで発達してきた。しかしながら、通貨危機および近年台頭著しい中国の影響を受け、従来の成長を今後も維持できるか問題なしとしない。今後の発展のために必要な政策を探る。

【授業計画】

アジア通貨危機後の経済回復状況
日米欧銀行からの資金流出入動向調査
金融セクター再生の現状
日系企業の動向
アジアの産業構造の変化
中国の影響と自由貿易協定
以上を12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ジェネラルビジネス演習Ⅷ（現代ビジネス）

森下允之

【授業の概要】

中東欧諸国の魅力は、EUに陸続きの中進国であり、巨大市場でありながらアジアやアメリカに比し日本のプレゼンスがやや低いEUへの輸出基地になりうることである。

EU新加盟国のうち、特にポーランド、チェコ、ハンガリー各国につき、直接投資先としての優劣を分析するとともに、統一通貨ユーロへの条件、可能性などを分析調査する。

【授業計画】

中東欧の企業進出先としての特色
各国毎の投資誘致方針と魅力
直接投資動向（国別、業種別）
日系企業の進出状況
EUへの加盟後の課題とユーロ参加の展望
これらを12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

アントレプレナー特論Ⅰ

上野允久

【授業の概要】

日本におけるベンチャー企業に関連する諸課題を解明しつつ起業のあり方について幅広く研究する。

講義は、具体的事例を豊富に交えて、起業の方法からリスク回避策まで検討する。

受講者には、ベンチャー企業1社の分析を課題として与え、共同研究を行う。

【授業計画】

1．日本のベンチャー企業を取り巻く状況概観
2．起業方法論の学習
（1）起業の種類と特徴
（2）起業に必要な資源
（3）起業の具体的方法
（4）起業と資金調達
（5）起業とガバナンス
3．アントレプレナーシップの研究
4．起業に関する諸課題の検討
5．起業リスクマネジメントの概観
6．株式公開について概観
7．ケーススタディ

【評価方法】

1．講義時における関心・態度・質問等の評価
2．課題（レポート）の評価
1および2の総合判定

【テキスト】

起業論テキストブック（上野允久著　三恵社）
単価　1000円　講義開始時に販売

アントレプレナー特論Ⅱ

都島忠比古

【授業の概要】

将来の日本経済を担う新しい企業群の出現が期待される今日、起業家達には激しい技術革新や移ろいやすい消費者ニーズにも速応できる環境変化対応力とスピードが要求されている。事業規模の拡大とスピードアップの手段として、リスクマネーの導入と株式公開、その中でも新興市場の実態を研究し問題点の把握に努める。個人投資家の育成、持続可能な社会の一員としての企業のあり方にも触れ、起業のための環境整備も授業の対象とする。

【授業計画】

1．起業と株式公開
2．株式公開基準と審査
3．上場準備現場の実際と受審
4．間接金融から直接金融への模索
5．リスクマネー育成
6．IOSUKOと証券行政
7．投資家への説明義務とIR
8．SRIとCSR・ISO

【評価方法】

期末の筆記試験とレポートによる

【テキスト】

なし。プリント配布

マネジメントゲームⅠ

増田賀照

【授業の概要】

ひと・もの・かね・情報という経営資源をどのように活用すればよいか、実践的、体験的に学びます。経営者に必要な判断力、計数力、情報力を養うことが目的です。300万円の自己資本で創業し、実際に経営に即した意思決定によって最終期の自己資本の多さを競うゲームです。

ソニーと日本総合研究所が社会人教育用に開発した教材を使用し、現金出納は実際に記帳、決算はパソコンを利用します。一人一人が社長として資材調達、生産設備、販売、経理、人事、決算とすべての経営プロセスを模擬的に体験します。思考の連続性が必要なため、集中講義となっています。

【授業計画】

1．概要とルール説明
2．創業準備
3．第1期ゲーム
4．第1期決算
5．原価計算
6．第2期ゲーム
7．第2期決算
8．損益分岐点分析
9．第3期ゲーム
10．第3期決算
11．経営計画策定
12．第4期ゲーム
13．第4期決算
14．経営戦略
15．第5期ゲーム
16．第5期決算
17．経営分析
18．株主総会

【評価方法】

参加の積極性とレポートによる

【テキスト】

当日配布

マネジメントゲームⅡ

増田賀照

【授業の概要】

ひと・もの・かね・情報という経営資源をどのように活用すればよいか、実践的、体験的に学びます。経営者に必要な判断力、計数力、情報力を養うことが目的です。前社長が退陣したため、急遽あなたが社長に指名されました。前社長の経営を継承しますが、社名も経営方針も自由に変更できます。新社長である、あなたは株式の時価総額最大化を目指してあらゆる経営努力をします。

インターネット教材を使用し、実践さながらのマネージメントゲームに挑戦します。マネージメントゲームⅠとは、別のゲーム（ルール）です。参加人数によって、ゲームの進行や授業計画は異なります。

【授業計画】

1．概要説明
2．取締役会・株主総会
3．中期経営計画立案
4．第1期意思決定
5．第2期意思決定
6．資金調達コスト
7．第3期意思決定
8．人事戦略
9．第4期意思決定
10．中期経営計画修正
11．第5期意思決定
12．第6期意思決定
13．顧客満足
14．第7期意思決定
15．ブランド戦略
16．第8期意思決定
17．経営分析
18．取締役会・株主総会

【評価方法】

参加の積極性と経営分析レポートによる

【テキスト】

当日配布

ビジネスコミュニケーション特講Ⅰ（異文化コミュニケーション）

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

当コースはビジネスコミュニケーションの分野を異文化コミュニケーションの理論的背景から分析、考察を行う講座である。従って学生は、21世紀のボーダレス社会において、国際間でのビジネス取引や外資系企業において起こりうるIntercultural Communication分野に関連する諸問題を取り上げて学習する。

【授業計画】

1．Course Orientation
2．序　章：現代社会と異文化コミュニケーション
3．第1章：研究の歴史的背景
4．第2章：研究の方法と視点
5．第3章：研究と実践
6．第4章：理論の概念と理論の構築および評価
7．第5章：メッセージ中心の理論
8．第6章：対人関係中心の理論
9．第7章：集団・組織中心の理論
10．第8章：異文化接触中心の理論
11．第9章：新理論構築の意義
12．第10章：情報代謝理論より異文化交流史研究へ
13．まとめ
14．期末試験（またはレポート）

【評価方法】

期末試験、授業への参加状況、出席率などを総合的に評価判断する。

【テキスト】

異文化コミュニケーションの理論：新しいパラダイムを求めて（石井敏、久米昭元、遠山淳　有斐閣ブックス　2001）

【参考文献・資料】

Global Understanding: Success in International Business（Makoto Shishido, Bruce Allen　Seibido　2003）

ビジネスコミュニケーション特講Ⅱ（国際ビジネスロー）

石畔重次

【授業の概要】

現在の企業活動は、海外との取引を抜きにしては語れない。商習慣や法制度が異なる海外との取引においては、国内取引には無い解決困難な問題が発生し、慎重なリスク管理が要求される。本講においては、国際売買契約、国際販売・代理店契約、国際ライセンス契約、国際合弁契約などの基本形態に関する知識を習得しながら国際取引の特質について考察していく。

【授業計画】

1．国際取引の特質
2．国際取引に関する法
3．国際売買契約
4．国際販売・代理店契約
5．国際ライセンス契約
6．国際合弁契約
7．国際紛争の解決

【評価方法】

試験またはレポートの提出により評価する。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

マテリアルズ国際取引法（澤田壽夫・柏木昇・森下哲朗編著　有斐閣）

ビジネスコミュニケーション特講Ⅲ（コンフロンテーションとディベート）

鈴木哲至

【授業の概要】

2004年秋のブッシュとケリーのコンフロンテーションとディベートはまだ記憶に新しい。この特講では、欧米において古くから教育プログラムに取り入れられているコンフロンテーションとディベートを、ビジネス交渉術としていかにグローバリゼーションの進む企業環境の中で生かしていくかを研究する。

【授業計画】

1）はじめに、成功するコンフロンテーションとディベート
2）コンフロンテーション概説
3）ディベート概説
4）論理的思考
5）情報の収集
6）情報の分析
7）シミュレーションの方法
8）プレゼンテーションの方法
9）ディベート各論（立論、反対尋問、作戦、反駁、審査法）
10）ディベート準備
11）コンフロンテーション、ディベートの実践
12）講評、フィードバック、まとめ

【評価方法】

出席状況、授業態度、プレゼンテーション、ディベート結果、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

ビジネスコミュニケーション特講Ⅳ（日欧比較）

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

本クラスでは、欧州諸国の文化が如何にビジネス慣習やコミュニケーションに影響を与えているのか学習することを目的とします。前半では欧州各国の文化を相対的に「静的」に捉え、リーダーシップ、意思決定、ティームワーク、交渉のスタイル、人材活用等への文化の影響を考察します。後半では文化を「変動的」に捉え、欧州内外での文化の接触に伴う適応・対立をテーマに、ケーススタディーの分析を中心に学習を進めます。

【授業計画】

1．Course Orientation.
2．Ch 1：What is Europe?
　Ch 2：European Stereotypes: True or False
3．Ch 3：Overcoming Culture Shock
　Ch 4：Italy and Japan: Surprising Similarities
4．Ch 5：Will Monarchies Survive in Europe
　Ch 6：European Beauty Secrets
5．Ch 7：A Continent with Fabulous Fashions
　Ch 8：The Art of Eating
6．Ch 9：Why Wine is Important in Europe
　Ch10: Made in Europe
7．Ch11: The New European Woman
　Ch12: The European Woman
8．Ch13: European Health Care
　Ch14: The Star on the Christmas Tree
9．Ch15: Why Thirteen is an Unlucky Number
　Ch16: The Importance of the Individual
10．Ch17: Education in Europe: Tradition vs. Reform
　Ch18: Special Events
11．Ch19: The New Faces of Europe
　Ch20: Europe Today: Traditions and New Directions
12．まとめ
13．期末試験（またはレポート）

【評価方法】

期末試験、出席率、レポート、授業への参加状況など総合的に判断評価する。

【テキスト】

生まれ変わるヨーロッパ　*Appreciating European Culture*（Joan McConnell Masahiro Tsuji Seibido　2004）

【参考文献・資料】

The Fascination of Europe ヨーロッパの文化と歴史（Joan McConnell　Seibido　1998）
ヨーロッパ人と知的につきあう方法：仕事と旅行での文化の衝突（ジョンモール　西村書店　1992）

ビジネスコミュニケーション特講Ⅴ（ジェンダー）

國信潤子

【授業の概要】

ジェンダーに敏感な視点で国内外の男女雇用機会均等の実態、労使関係、常用雇用者と非常勤労働者との格差、家庭的責任を持つ労働者の問題など有償・無償労働の両面について産業社会学の手法で比較検討する。各種資料、統計データ等から、生活、ビジネス、地域などでの性別役割の実態、セクシュアルハラスメントの実態、組織内男女の行動様式および意思決定などにおけるジェンダー間の相違を検討する。

【授業計画】

ビジネスにおけるジェンダー格差を統計で検討しつつ、事例的にその組織内格差形成の要因を検討する。学生各自が自分の研究テーマを絞り、それにそってリサーチ、報告を行う。例えばテーマとしては、雇用機会均等法の実施状況、少子化社会への対策などを取り上げ、日本社会のビジネスとジェンダーを概観する。まず、統計資料の検討、各種法制の詳細な検討を行うことが必要である。必要に応じて、英語資料も講読する。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、討議を行うなどこれらの総合評価による。

【参考文献・資料】

随時、資料を提示する。

ビジネスコミュニケーション演習Ⅰ（異文化コミュニケーション）

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

ボーダレス社会における国際取引関係のコミュニケーションについて、特に非言語的要素（Nonverbal Communicational Factors）の観点から研究を行う。

【授業計画】

履修する院生は各自関連する興味あるテーマを選び、それに沿って研究計画をたて、関連教材、資料を読破する。

【評価方法】

授業への積極的貢献、discussion　への参加状況、レポートなどを総合的に評価判断する。

【テキスト】

適宜指導、配布する。

ビジネスコミュニケーション演習Ⅱ（異文化コミュニケーション）

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

ボーダレス社会における国際取引関係のコミュニケーションについて、特に非言語的要素（Nonverbal Communicational Factors）の観点から研究を行う。

【授業計画】

履修する院生は各自関連する興味あるテーマを選び、それに沿って研究計画をたて、関連教材、資料を読破する。

【評価方法】

授業への積極的貢献、discussion　への参加状況、レポートなどを総合的に評価判断する。

【テキスト】

適宜指導、配布する。

ビジネスコミュニケーション演習Ⅲ（コンフロンテーションとディベート）

鈴木哲至

【授業の概要】

ビジネスにおいて、交渉相手とのコンフロンテーションをいかにコーポレーションにもっていくのか、そして情報収集と分析、議論の構築、プレゼンテーションを通じていかにディベートを成功へと導くかということは、近年ますます重要になってきている。この演習では「知の技術」としての交渉術を鍛えていく。

【授業計画】

1）はじめに
2）ディベートとコンフロンテーションの概説
3）論理的思考、ディベート各論
4）ディベート準備
5）ディベート実践1
6）まとめ1、ビジネスシーンへの応用1
7）ディベート準備
8）ディベート実践2
9）まとめ2、ビジネスシーンへの応用2
10）ディベート準備
11）ディベート実践3
12）まとめ3、ビジネスシーンへの応用3

【評価方法】

出席状況、授業態度、プレゼンテーション、ディベート結果、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

ビジネスコミュニケーション演習Ⅳ（コンフロンテーションとディベート）

鈴木哲至

【授業の概要】

アメリカ合衆国においてコンフロンテーションとディベートは、ケネディとニクソンのテレビディベート以来、大統領候補を選ぶ重要な手段となっている。この演習では今までに行われた大統領候補テレビディベートを分析し、そこから学べるコミュニケーション技術をビジネスの場面に生かすための演習を行う。

【授業計画】

2004年、以下の日程、場所、司会者で行われたブッシュとケリーのアメリカ大統領候補テレビディベートのビデオおよびトランスクリプトを適宜利用し、視聴、討論、分析、演習を行う。

1）First presidential debate:
University of Miami（Coral Gables, Florida）
Thursday, September 30
Jim Lehrer
Anchor and Executive Editor, The NewsHour, PBS
2）Second presidential debate:
Washington University（Saint Louis, Missouri）
Friday, October 8
Charles Gibson
Co－Anchor, ABC News Good Morning America
3）Third presidential debate:
Arizona State University（Tempe, Arizona）
Wednesday, October 13
Bob Schieffer
CBS News Chief Washington Correspondent, and Moderator, Face the Nation

【評価方法】

出席状況、授業態度、プレゼンテーション、ディベート結果、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

上記のビデオ、およびトランスクリプト。

ビジネスコミュニケーション演習Ⅴ（ジェンダー）

國信潤子

【授業の概要】

この演習では主に開発途上国（アジア、太平洋地区）における開発協力においてジェンダー視点がどのように位置付けられているかを考察する。特に南北社会格差についてGDP、HDI、GEMなどの指標から経済格差、文化などの諸側面から検討する。またその格差縮小のために近年、国内外で各種NPOが活動し、政府や企業がカバーしてこなかった領域を活動領域としている。それらの活動状況について諸組織による調査報告、英語による国連関連機関報告資料を活用しながら事例研究を行う。

同時に、各学生の問題意識の明確化、論文テーマの確定、論文の構成をまず作成し、その内容に応じて資料検索、講読を進める。テーマの例としてジェンダー視点からの開発協力、雇用機会の均等化～国際比較～、無償労働の価値、ビジネス界における女性の位置など。

【授業計画】

学生各自が論文執筆を前提とする。各自のテーマにそった資料講読、英語資料講読を行う。また調査データの分析、考察を行う。

【評価方法】

論文内容の評価、英語資料講読能力などによる評価。

【参考文献・資料】

随時提示する。

ビジネスコミュニケーション演習Ⅵ（ジェンダー）

國信潤子

【授業の概要】

この講座は演習Ⅴの延長上にある。各学生の問題意識の明確化、論文テーマの確定、論文の構成をまず作成し、その内容に応じて資料検索、講読を進める。テーマの例としてジェンダー視点からの開発協力、雇用機会の均等化～国際比較～、無償労働の価値、ビジネス界における女性の位置など。

この演習では主に開発途上国（アジア、太平洋地区）における開発協力においてジェンダー視点がどのように位置付けられているかを考察する。特に南北社会格差についてGDP、HDI、GEMなどの複合指標から経済格差、文化などの諸側面から検討する。

【授業計画】

各学生の論文執筆をすすめ、その内容についてアドバイスする。

【評価方法】

論文内容による評価。

【参考文献・資料】

随時提示する。

情報システム特講Ⅰ（経営情報システム）

三浦信宏

【授業の概要】

組織の維持・発展には、組織の内外の環境からいかに情報を収集し、それを処理・出力していくことが必要不可欠である。「情報システム特講Ⅰ」は、経営に関連する情報を取り扱うしくみをシステムの視点で捉え、経営における情報システムはいかにあるべきかを研究するものである。21世紀はＩＴ（情報技術）の時代とも言われるが、そうした言葉に翻弄されるのでなく、経営に役立つＩＴを活用した情報システムはどのように設計されるべきか、またそのような情報システムの運用・管理のあり方についても研究する。「情報システムありき」からスタートするのでなく、情報システムはあくまでも人間のビジネス活動を補完するツールに過ぎないことを認識し、組織における人間相互の活動と情報システムとの相互作用により、あるべき経営活動を探求することが当講義の目的である。

【授業計画】

1．企業の経営と情報
2．情報に関する技術
3．企業のビジネスと情報化概要
4．生産と情報化
5．販売ビジネスと情報化
6．物流管理と情報化
7．人事管理と情報化
8．意思決定を支援するシステム
9．情報システムの開発方法論（1）
10．情報システムの開発方法論（2）
11．情報システムの運用（1）
12．情報システムの運用（2）
13．情報技術とコミュニケーション（1）
14．情報技術とコミュニケーション（2）

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

経営情報論（遠山暁他著　有斐閣アルマ）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報システム特講Ⅱ（情報倫理）

梅田敏文

【授業の概要】

情報倫理は、どのような体系を持ちどのような課題に挑戦しているのか、また今までの研究の経緯や成果はどのようなものがあるかなどを明確にする。

当講義では、技術倫理、プライバシー、知的財産権、情報モラル、コンピュータ犯罪などの内容を事例に即して検討した後、情報倫理の必要性、情報倫理が新しい学問分野として認識されてきた経緯、情報倫理のフレームワークなどを論じる。

【授業計画】

第１講　オリエンテーション
第２講　情報倫理の基礎（1）
第３講　情報倫理の基礎（2）
第４講　情報倫理の基礎（3）
第５講　技術倫理
第６講　プライバシー
第７講　知的財産権
第８講　情報モラル
第９講　個人情報保護
第10講　コンピュータ犯罪
第11講　法律と情報倫理
第12講　倫理思想と情報倫理
第13講　情報倫理のフレームワーク
第14講　まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

情報倫理（村田潔編　経営情報学会情報倫理研究部会著　有斐閣）

情報システム特講Ⅲ（システム開発）

三浦信宏

【授業の概要】

『情報システム開発のプロセスを理解し、それぞれの開発局面において必要となるソフトウェアの設計技法を習得する。また、ソフトウェア工学的な知識だけでなく、プロジェクトを運営していくための計画・管理技法についても採り上げる。』

【授業計画】

1．情報システム開発のプロセス
2．要件定義技法Ⅰ
3．要件定義技法Ⅱ
4．ソフトウェア外部設計技法Ⅰ
5．ソフトウェア外部設計技法Ⅱ
6．ソフトウェア内部設計技法Ⅰ
7．ソフトウェア内部設計技法Ⅱ
8．テスト技法
9．情報システムの運営と管理
10．情報システム開発プロジェクトの管理Ⅰ
11．情報システム開発プロジェクトの管理Ⅱ
12．情報システム開発プロジェクトの管理Ⅲ
13．まとめ
14．発表と討論

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

ソフトウェア工学（河村一樹著　近代科学社）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報システム特講Ⅳ（リスク管理）

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とした情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、現在の情報社会はビジネスリスクや通信ネットワークのリスクが増大している。本講ではこれらのリスクを概観し、その発生のメカニズム、リスクの評価・認識・管理について検討する。特に、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクと情報社会におけるビジネスリスクに焦点を当てる。

【授業計画】

1．情報システム、経営システムにおけるリスクについて
2．情報社会におけるビジネスリスク、システムリスクについて
3．情報社会におけるリスクの増大について
4．情報セキュリティ（コンピュータ・ウイルス）
5．情報セキュリティ（不正アクセス）
6．情報セキュリティ（電子商取引・電子マネー）
7．情報セキュリティ（知的所有権・個人情報保護）
8．ビジネスリスク（ネット告発）
9．ビジネスリスク（不祥事・不正とレピュテーショナル・リスク）
10．情報セキュリティ管理（1）
11．情報セキュリティ管理（2）
12．リスク・アセスメント、リスク分析（1）
13．リスク・アセスメント、リスク分析（2）
14．リスク・マネジメント

【評価方法】

受講態度、討議・研究内容、提出課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

情報システム特講Ⅴ（プログラミング１）

西荒井学

【授業の概要】

情報資源の管理・運営システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追及する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であるとおもわれるプログラミング設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

【授業計画】

1）既存ソフトウェアの機能分析
2）ソフトウェアの機能動作試験
3）ソフトウェアのカスタマイズ
4）総合検討

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、既存ソフトウェアの機能分析を課題として与えることとする。受講者は、担当部分の機能特性を明らかにした上で、逐次互いに種々の問題点を検討していく。

なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず

情報システム特講Ⅵ（プログラミング１）

西荒井学

【授業の概要】

情報資源の管理・運営システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追及する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であるとおもわれるプログラミング設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

【授業計画】

1）要求定義（機能設計、情報設計）の問題
2）システム設計技法の問題
3）プログラム設計技法の問題
4）プログラミング技法の問題

各種システムの構築に関わる問題を探索していくための題材として、『システム設計に関する学習プログラム』の作成を課題として与えることとする。受講生は、担当部分のモジュールの特性を考慮した上で、適切なアルゴリズムの展開を図り、最終的にコンピュータ処理段階まで移行させていくことによって、種々の問題点を互いに検討していく。

なお、受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず

情報システム特講Ⅶ（プログラミング２）

石橋善弘

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須要件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの背景となる数学的基礎、プログラミングの基本的な考え方および手法を解説し、また実習による体験を通じて、日常生活、社会活動、研究活動等において有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

【授業計画】

1．プログラミングの基礎
2．プログラミングに必要な数学的基礎Ⅰ
3．プログラミングに必要な数学的基礎Ⅱ
4．プログラミング実習（市販統計ソフトを用いた問題解決、図表化）
5．プログラミング（1）変数、式、演算子
6．プログラミング（2）関数
7．プログラミング実習（変数、式、演算子、関数）
8．プログラミング（3）くり返し
9．プログラミング実習（くり返し）
10．プログラミング（4）条件による分岐、フローチャート
11．プログラミング実習（条件による分岐）
12．プログラミング（5）作図、グラフ作成
13．プログラミング実習（作図、グラフ作成）
14．補足とまとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

情報システム特講Ⅷ（プログラミング２）

石橋善弘

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須要件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの背景となる数学的基礎、プログラミングの基本的な考え方および手法を解説し、また実習による体験を通じて、日常生活、社会活動、研究活動等において有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

【授業計画】

1．プログラミング概論
2．統計学基礎Ⅰ
3．統計学基礎Ⅱ
4．プログラミング実習（市販統計ソフトを用いた問題解決、図表化）
5．プログラミング実習（正規分布、二項分布）
6．プログラミング実習（平均、標準偏差）
7．プログラミング実習（共分散、相関係数、回帰分析）
8．コンピュータシミュレーション基礎Ⅰ
9．コンピュータシミュレーション基礎Ⅱ
10．プログラミング実習（シミュレーション）
11．プログラミング実習（シミュレーション）
12．プログラミング実習（ゲーム用プログラム）
13．プログラミング実習（総括）
14．補足とまとめ

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

情報システム特講Ⅸ（プログラミング３）

伊藤 雅

【授業の概要】

［プログラミング］＝［アルゴリズム］＋［データ構造］である。対象を高級言語に限れば、高級言語はさらに手続き型言語と非手続き型言語に分類できる。前者の代表格がCであり、後者のそれがJavaである。プログラミング言語をひとつ決めるとそのプログラミングパラダイム（考え方）が決まる。アルゴリズムやデータ構造もそのプログラミングパラダイムに依存する。JavaはC、C++といった手続き型言語を発展させて誕生したオブジェクト指向言語である。本特講では、C言語のポインタや構造体といった概念からスタートし、C++言語のクラスの概念を経て、Java言語で簡単なクライアント/サーバ・アプリケーションが構築できるまでを修得する。

【授業計画】

1．開発環境の整備
2．C言語の特長
3．ポインタと構造体
4．Cによるファイル処理
5．C++言語の特長
6．クラス概念
7．コンストラクタとデストラクタ
8．単一継承・多重継承
9．C++によるストリーム処理
10．Java言語の特長
11．インターフェースと抽象クラス
12．AWTとSwingによるGUIプログラミング
13．クライアント/サーバ・アプリケーションの構築
14．補遺

【評価方法】

情報システム特講Ⅹ（プログラミング３）

伊藤 雅

【授業の概要】

プログラミングの最近の主流はオブジェクト指向プログラミングである。さらに一歩進めたアスペクト指向プログラミングというのも存在する。さて、身近なオブジェクト指向言語のひとつにJavaがある。JavaはC、C++といった手続き型言語を発展させて誕生した言語である。本特講では、CやC++言語をある程度理解しているものとしてJavaについての造詣を深める。GUIプログラミングやネットワークプログラミングといったJavaアプリケーションだけに留まらず、JavaスクリプトやJavaアプレットについても言及する。

【授業計画】

1．開発環境の整備
2．C言語の特長
3．ポインタと構造体
4．C++言語の特長
5．クラス概念
6．Java言語の特長
7．Javaスクリプト
8．インターフェースと抽象クラス
9．イベント処理
10．例外処理
11．GUIプログラミング
12．ネットワークプログラミング
13．Javaアプレット
14．補遺

【評価方法】

情報システム演習Ⅰ（経営情報システム）

三浦信宏

【授業の概要】

当演習では、まず組織経営で利用される情報システムの設計・管理・運用に関する領域の基本的な先行研究をひもとき、経営と情報システムにまたがる領域を総合的に研究する。その上で各人の問題意識に基づく研究ノートへとまとめていただくことを目的としている。電子メールによる研究の補完的な活動ができることが望まれる。

【授業計画】

1.　　組織経営と情報システム
2.　　情報システムの設計概要－1
3.　　情報システムの設計概要－2
4.　　情報システムの運用・管理（概要－1）
5.　　情報システムの運用・管理（概要－2）
6．～10.　各自のテーマ分野の先行研究のサーベイ
11.　　各自の研究テーマ発表（1）
12.　　各自の研究テーマ発表（2）
13.　　各自の研究テーマ発表（3）
14.　　各自の研究テーマ発表（4）

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

情報システム演習Ⅱ（経営情報システム）

三浦信宏

【授業の概要】

当演習は、原則としては情報システム演習Ⅰを前提とするが、同演習Ⅱからの参加者の場合は、基礎編も含めて教授するように対応する。本演習では、組織経営で利用される情報システムの設計・管理・運用に関する領域の応用的な内容の先行研究をリサーチすると共に、経営と情報システムにまたがる領域をより深く研究する。各人の問題意識に基づく研究論文へとまとめていただくことを目的としている。電子メールによる研究の補完的な活動ができることが望まれる。

【授業計画】

1.　　情報システムの設計（応用－1）
2.　　情報システムの設計（応用－2）
3.　　情報システムの運用・管理（応用－1）
4.　　情報システムの運用・管理（応用－2）
5．～10.　各自のテーマ分野の先行研究のサーベイ
11.　　各自の論文テーマ発表（1）
12.　　各自の論文テーマ発表（2）
13.　　各自の論文テーマ発表（3）
14.　　各自の論文テーマ発表（4）

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

情報システム演習Ⅲ（情報倫理）

梅田敏文

【授業の概要】

1985年の『Computer　Ethics』（D. Johnson）発刊以来、欧米を中心に、さまざまな情報倫理関係のテキストが出版されてきた。当演習では、そうした代表的なテキストを取り上げ、講読と受講者による発表を行う。発表担当者の内容と作成資料をベースに、受講者間で、そのテーマについて論議し、欧米における情報倫理の研究内容を理解する。また、日本における情報倫理のあり方を検討する。

【授業計画】

第1講 ガイダンス
第2講　テキスト概説（1）
第3講　テキスト概説（2）
第4講　テキスト講読（1）
第5講　テキスト講読（2）
第6講　テキスト講読（3）
第7講　テキスト講読（4）
第8講　テキスト講読（5）
第9講　テキスト講読（6）
第10講　テキスト講読（7）
第11講　テキスト講読（8）
第12講　テキスト講読（9）
第13講　テキスト講読（10）
第14講　まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

Computer　Ethics　（Deborah G.Johnson著　Prentice　Hall）

情報システム演習Ⅳ（情報倫理）

梅田敏文

【授業の概要】

当演習では、欧米で発表された情報倫理に関する書籍、論文を取り上げ、講読と受講者による発表を行う。テーマとしては、プライバシー、個人情報保護、プロフェッショナル倫理、知的財産権などが含まれる。

【授業計画】

第1講　ガイダンス
第2講　テキスト概説（1）
第3講　テキスト概説（2）
第4講　テキスト講読（1）
第5講　テキスト講読（2）
第6講　テキスト講読（3）
第7講　テキスト講読（4）
第8講　テキスト講読（5）
第9講　テキスト講読（6）
第10講　テキスト講読（7）
第11講　テキスト講読（8）
第12講　テキスト講読（9）
第13講　テキスト講読（10）
第14講　まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

Computer Ethics and Professional Responsibility
（Terrell Ward Bynaum & Simon Rogerson著　Blackwell）

情報システム演習Ⅴ（システム開発）

三浦信宏

【授業の概要】

『情報システム開発を行う上で、ソフトウェア開発技術者に必要な業務分析手法やデータベース設計技法について、ケーススタディを通じてソフトウェア開発プロセスを基に実践的に学ぶ。』

【授業計画】

1．ケーススタディの説明
2．DFDによる構造化分析演習Ⅰ
3．DFDによる構造化分析演習Ⅱ
4．DFDによる構造化分析演習Ⅲ
5．DFDによる構造化分析演習Ⅳ
6．発表と討論
7．ERDによるデータベース設計演習Ⅰ
8．ERDによるデータベース設計演習Ⅱ
9．ERDによるデータベース設計演習Ⅲ
10．発表と討論
11．データの正規化Ⅰ
12．データの正規化Ⅱ
13．データの正規化Ⅲ
14．発表と討論

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

情報システム演習Ⅵ（システム開発）

三浦信宏

【授業の概要】

『情報システム開発を行ううえで、プロジェクト・マネジャーに必要な管理技法について、ケーススタディを通じて計画局面から実施局面、テスト局面におけるプロジェクトのライフサイクルを基に実践的に学ぶ。』

【授業計画】

1．ケーススタディの説明
2．システム開発プロジェクトの計画演習Ⅰ
3．システム開発プロジェクトの計画演習Ⅱ
4．システム開発プロジェクトの計画演習Ⅲ
5．発表と討論
6．システム開発プロジェクトの管理演習－要件定義局面Ⅰ
7．システム開発プロジェクトの管理演習－要件定義局面Ⅱ
8．発表と討論
9．システム開発プロジェクトの管理演習－設計局面Ⅰ
10．システム開発プロジェクトの管理演習－設計局面Ⅱ
11．発表と討論
12．システム開発プロジェクトの管理演習－テスト局面Ⅰ
13．システム開発プロジェクトの管理演習－テスト局面Ⅱ
14．発表と討論

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

PMBOK（Project Management Body of Knowledge）

情報システム演習Ⅶ（リスク管理）

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とした情報通信ネットワークを活用したｅビジネスの進展とともに、現在の情報社会はビジネスリスクや通信ネットワークのリスクが増大している。本講ではネットワークの構築や運用時、ネットワーク上でのコミュニケーション時に発生するシステムリスクやビジネスリスクに焦点をあてる。そして、リスクの低減策としてのセキュリティの知識と技術やリスクの計量化について検討する。

【授業計画】

1．情報化環境の構築と整備
2．情報化環境の運用と活用
3．情報化環境の管理
4．システム、ネットワーク環境と情報セキュリティ（1）
5．システム、ネットワーク環境と情報セキュリティ（2）
6．システムリスク、ビジネスリスクの対策と技術（1）
7．システムリスク、ビジネスリスクの対策と技術（2）
8．システムリスク、ビジネスリスクの対策と技術（3）
9．システムリスク、ビジネスリスクの計量化（1）
10．システムリスク、ビジネスリスクの計量化（2）
11．システムリスク、ビジネスリスクの計量化（3）
12．リスク分析モデルの構築（1）
13．リスク分析モデルの構築（2）
14．リスクの評価

【評価方法】

受講態度、討議・研究内容、提出課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

情報システム演習Ⅷ（リスク管理）

上原 衛

【授業の概要】

情報社会において情報セキュリティは重要な問題である。本講ではセキュリティを実現する理論とセキュリティを実現するための方法について検討する。

【授業計画】

1．コンピュータとネットワークのセキュリティ
2．コンピュータ・ウイルスについて
3．コンピュータ・ウイルスの対策
4．暗号化について（1）
5．暗号化について（2）
6．デジタル書名
7．不正アクセスの手口とその実例
8．ユーザー認証とパスワード管理、アクセス権と排他的制御
9．データのバックアップと復旧
10．信頼性の高いシステム構成
11．電子メールとWWWのセキュリティ
12．オペレーティングシステムのセキュリティ
13．電子商取引上のセキュリティ
14．ファイアーウォール、リスクアセスメント

【評価方法】

受講態度、討議・研究内容、提出課題等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

会計学特講Ⅰ（財務会計）

石川雅之

【授業の概要】

企業の外部利害関係者に対する財務報告を目的とする財務諸表制度について、その理論的構造と制度的問題を研究する。具体的には財務諸表制度を支える各種法令について、それぞれの基本的考え方を批判的に検討するとともに、それぞれの規定がどのような意味をもち、またどのような役割が期待されているのかを検討する。また、現行制度の改善すべき点についても、どのような方法が考えうるのかという点についても検討する。

【授業計画】

第１回　会計の領域と会計制度
第２回　会計公準と会計主体
第３回　会計理論の変遷
第４回　貸借対照表論
第５回　会計制度論における資産評価
第６回　取得原価主義会計の基礎
第７回　取得原価主義会計の諸問題
第８回　会計制度上の資産評価基準の変遷
第９回　流動資産総論
第10回　棚卸資産評価論
第11回　売価還元原価法
第12回　有形固定資産の会計１
第13回　有形固定資産の会計２
第14回　有形固定資産の交換・贈与
第15回　有形固定資産の減価償却
第16回　総合償却
第17回　減耗償却と級数法
第18回　固定資産取得に係る借入金利息
第19回　無形固定資産の会計１
第20回　無形固定資産の会計２
第21回　繰延資産の会計
第22回　繰延資産と研究開発費
第23回　負債会計の総論
第24回　負債性引当金
第25回　ワラントの会計問題
第26回　資本会計総論
第27回　資本概念の変遷
第28回　剰余金の会計
第29回　自己株式
第30回　総括

【評価方法】

筆記試験およびレポートに平常点を加味して総合的に評価する。
なお、受講に際しては日商簿記２級程度を理解していることが前提となる。

【テキスト】

五十嵐邦正『演習財務会計』森山書店
新井清光・加古宜士『財務会計論』中央経済社

会計学特講Ⅱ（会計計算）

杉本典之

【授業の概要】

企業会計は、ビジネス社会における国際的に共通の情報システムになった。つまり、企業会計制度の国際化が進展した。これに伴い各国の会計基準は大きく変容している。そこで、現代の会計が抱える問題を各国の会計基準設定主体や国際会計基準委員会等が公表する会計基準や概念的枠組みを比較分析することによって確認し、企業会計の現状と課題を主として会計計算面から具体的に考察する。

【授業計画】

下記の事項について、それぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

1．国際会計基準委員会が求める会計制度
2．日本の新会計基準と国際会計基準
3．連結財務諸表制度
4．持分法とセグメント情報
5．外貨建取引会計
6．物価変動会計、等

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記３点の拙著をコピーして使用する場合もある。（１）『引当経理と繰延経理－その構造と機能－』、同文舘、1981年、（２）『会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－』、同文舘、1991年、（３）『キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－』（共著）、東京経済情報出版、1995年。

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞（日刊紙）の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

会計学特講Ⅲ（管理会計）

吉村文雄

【授業の概要】

グローバル時代、IT時代に要求される管理会計の理論とスキルを鳥瞰し、実務能力と洞察力を培う。

管理会計の基礎概念（財務諸表、原価計算、CVP分析、関連原価分析、資本予算等）、利益管理会計（経営戦略、企業価値経営、経営計画、予算、分権制組織ならびに多国籍企業の利益管理）、原価管理会計（製造プロセス、標準原価管理、活動基準原価管理、原価企画と原価改善、ライフ・サイクル・コスト・マネジメント）をカバーする

【授業計画】

第１回　管理会計とファイナンス部門の役割
第２回　管理会計の基礎（管理会計総説）
第３回　問題発見のための会計（財務諸表分析）
第４回　意思決定に役立つ管理会計の基礎理論
第５回　経営管理に役立つ管理会計の基礎理論
第６回　企業経営と企業会計
第７回　管理階層別の管理会計
第８回　経営戦略の管理会計
第９回　マネジメント・コントロールの管理会計
第10回　個別構造計画と個別業務計画
第11回　短期利益計画
第12回　長期総合利益計画
第13回　予算管理の諸問題１
第14回　予算管理の諸問題２
第15回　業績評価会計
第16回　責任センター
第17回　分権組織と管理
第18回　国際管理会計
第19回　企業財務と管理会計
第20回　経営領域別の管理会計
第21回　管理会計情報システム
第22回　コスト・マネジメントの会計
第23回　原価企画
第24回　原価改善と原価維持
第25回　原価管理会計
第26回　製造プロセスの管理
第27回　標準原価管理
第28回　管理会計の新たなる課題
第29回　ITと管理会計
第30回　環境管理会計

【評価方法】

出席状況、課題レポート、期末試験により評価する。

【テキスト】

最初の講義でテキストを指示する。

【参考文献・資料】

講義を進めるなかで、適宜指示する。

会計学特講Ⅳ（会計監査）

友杉芳正

【授業の概要】

企業経営において、会計監査がなぜ必要とされるのかを制度論的に説明し、社会的コントロール・システムとしての監査の有用性の理解を深める。

【授業計画】

監査が企業経営になくてはならない役割存在であることの理解のため、前半は監査の全般的・基本的内容を把握することにし、後半は監査の事例研究を通して、問題発見力と問題解決力を高める。

1）監査の目的、機能、構造
2）監査の発展段階、各国の監査制度
3）コーポレート・ガバナンスと一元機構・二元機構
4）監査公準、監査基準
5）一般基準、実施基準、報告基準
6）中間財務諸表監査、四半期報告書監査
7）監査役（会）監査
8）監査委員会監査
9）内部監査、システム監査
10）国際監査基準

【評価方法】

出席、プレゼンテーション、レポートなどにより、総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時間中に指示する。

会計学特講Ⅴ（商法）

原 秀六　上田純子

【授業の概要】

企業活動のグローバル化にともない、わが国の商事法のみならず外国商事法に関する的確な知識が求められるようになっている。また、企業間競争という視点で捉えた場合、国内の立法の出来はまさに国内企業の競争力を左右しうる重要な要素である。以上を踏まえ、講義の前半（原担当分）においては、わが国の会社法制の基本枠組みの詳説と諸論点の探求を、後半（上田担当分）においては、外国語（英語）文献を教材に会社法制の基本枠組みにおける国際比較をそれぞれ行う。

【授業計画】

原担当分
1　会社の概念
2　株式会社の設立
3　株式
4　株主総会１
5　株主総会２
6　取締役と取締役会
7　取締役の会社に対する義務
8　株主代表訴訟
9　取締役の第三者に対する責任
10　監査役・会計監査人
11　委員会等設置会社
12　会社の計算
13　会社の資金調達
14　企業再編１
15　企業再編２

上田担当分
16　構成員自治と会社法制の意義
17　企業形態における国際比較（３週）
18　コーポレート・ガバナンスにおける国際比較（４週）
19　国際的な企業結合（３週）
20　企業誘致と法制度間競争（２週）
21　地域経済統合と企業法統合（２週）

【評価方法】

授業への出席状況および授業中のパフォーマンス等による。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献・資料】

特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考図書・参考文献を指示する。

会計学特講Ⅵ（税務会計）

遠藤秀紀

【授業の概要】

税務会計に関するテーマのなかから、財務会計と法人税との関連に焦点をあてて、その会計処理および表示に関する諸問題について検討する。これをとおして、法人税法の基本的内容を学ぶ。

【授業計画】

税務会計の論点を整理するため、その体系および概要をテキストおよびその他の資料に基づいて学習する。その後、各論点を受講生自身がレポートし、質疑応答する形式で授業を進める。その学習過程をとおして法人税法の基本的内容の理解を深める。

【評価方法】

レポートおよび出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

受講生と相談のうえ決定する。

【参考文献・資料】

授業において適宜指示する。

会計学特講Ⅶ（英文会計）

白木俊彦

【授業の概要】

基本的な英文会計の用語からさらに専門領域に関する用語について理解を深めていくとともに、国際会計基準および米国FASBの会計基準のなかで関心があるテーマを取り上げて財務諸表の用語・様式について各自の報告と理解に対応しながら講義する。必要な範囲で国際会計基準の条文自体も取り上げるほか、実際の英文による財務諸表と国内基準による財務諸表との比較も行う。

【授業計画】

講義と演習方式で行う。以下の内容について解説し、用語等については演習をして理解を確認しながら進めていく。

1．英語による会計用語の確認及び解説
2．国際財務報告基準の用語の確認及び解説
3．FASB基準書及び国際財務報告基準の内容
4．アニュアルレポートの理解
5．上記以外の理論的な文献研究

【評価方法】

講義の中で行う演習結果と出席状況及びレポートの内容も含めた総合評価による。

【テキスト】

講義の中で指示する。

【参考文献・資料】

国際財務報告基準、FASB基準書
各社ホームページに開示されるアニュアルレポート等

会計学演習Ⅰ（財務会計）

石川雅之

【授業の概要】

現代財務会計の諸問題のうちいくつかのトピックを選び出し、その問題に係る基本的な理解を得るとともに、現行財務会計制度上、わが国のどのような法令がどのように規定しているのかを検討する。また、諸外国の規定はどのようになっているのかを検討する。さらに、それらの規定が作られる以前はどのようになっていたのかについても検討する。そして、これら一連の考察を通じてさらなる問題を検討するための素地をつくる。

【授業計画】

第１回　現行財務会計制度と法令１
第２回　現行財務会計制度と法令２
第３回　会計基準の設定に関する会計問題１
第４回　会計基準の設定に関する会計問題２
第５回　会計基準の設定に関する会計問題３
第６回　会計基準の設定に関する会計問題４
第７回　会計基準の設定に関する会計問題５
第８回　会計基準の設定に関する会計問題６
第９回　会計情報開示に関する国際的動向１
第10回　会計情報開示に関する国際的動向２
第11回　会計情報開示に関する国際的動向３
第12回　会計情報開示制度の改革に伴う諸問題１
第13回　会計情報開示制度の改革に伴う諸問題２
第14回　会計情報開示制度の改革に伴う諸問題３
第15回　総括

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

会計学演習Ⅱ（財務会計）

石川雅之

【授業の概要】

財務会計論演習Ⅰではとりあげなかった他の問題点とりわけ米国会計制度上の問題点について、財務会計論演習Ⅰ同様、その問題に係る基本的な理解を得るとともに、現行米国の財務会計制度上、どのような法令がどのように規定しているのかを検討する。また、わが国での規定はどのようになっているのか、あるいはわが国でも同じような問題となりうるのかについて検討する。

【授業計画】

第１回　米国における財務会計制度変革の取り組み１
第２回　米国における財務会計制度変革の取り組み２
第３回　米国における財務会計制度変革の取り組み３
第４回　米国における財務会計制度変革の取り組み４
第５回　英国における財務会計制度変革の取り組み１
第６回　英国における財務会計制度変革の取り組み２
第７回　欧州における財務会計制度変革の取り組み１
第８回　欧州における財務会計制度変革の取り組み２
第９回　米国会計制度と国際会計基準
第10回　英国会計制度と国際会計基準
第11回　豪・加会計制度と国際会計基準
第12回　会計制度グローバル化の課題１
第13回　会計制度グローバル化の課題２
第14回　日本における会計制度グローバル化の諸問題
第15回　総括

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてその都度指示する。

会計学演習Ⅳ（管理会計）

吉村文雄

【授業の概要】

この演習は会計学特講Ⅲと相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、企業会計制度の国際化が進展したという事実を念頭に現代管理会計の重要なテーマを提示しつつ、それらのテーマをより深く追求するとともに、その成果を修士論文としてまとめる、ということを学生自らに実践していただく。

【授業計画】

第１回　経営戦略の策定
第２回　利益管理会計１
第３回　利益管理会計２
第４回　企業価値の指標とVBM
第５回　経営計画の策定
第６回　グローバル戦略の策定
第７回　グローバル企業の業績評価
第８回　グローバル経営戦略と新規事業計画
第９回　海外子会社のマネジメント・コントロール
第10回　製品開発の集中と分散
第11回　海外子会社への直接投資政策
第12回　海外子会社の業績評価と改善
第13回　研究開発の海外移転と回収管理
第14回　国際税務と移転価格の課題
第15回　資源移転の会計管理

【評価方法】

演習で課題に取り組む姿勢と修士論文の完成度を基準に評価する。

【テキスト】

全員で議論して決める。

【参考文献・資料】

21世紀の望ましい企業経営の方向と計数的手段の対応に関する資料を中心に授業中に指示する。

会計学演習Ⅲ（管理会計）

吉村文雄

【授業の概要】

この演習は会計学特講Ⅳと相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、現代管理会計の重要なテーマを提示しつつ、複式簿記の論理が貫徹する情報システムとしての企業会計を多角的に考察するために必要な情報を収集し、分析し、そして修士論文のテーマを模索しかつ明確化する、ということを学生自らに実践していただく。

【授業計画】

第１回　管理会計とファイナンス部門の役割
第２回　問題発見のための会計
第３回　意思決定に役立つ管理会計の基礎理論
第４回　経営管理に役立つ管理会計の基礎理論
第５回　コストビヘイビアの測定
第６回　コスト管理システムとABC
第７回　ABCとサポート部門の原価管理
第８回　CVP分析と直接原価計算
第９回　業績管理会計
第10回　短期利益計画のためのCVP分析企業予算
第11回　関連情報と意思決定
第12回　販売の意思決定
第13回　生産の意思決定
第14回　社内収益性分析
第15回　管理会計の最新手法

【評価方法】

演習での課題に取り組む姿勢を重視する。また、演習終了論文の作成計画を基準として評価する。

【テキスト】

最初の講義でテキストを指示する。

【参考文献・資料】

21世紀型企業経営と計数的手段のあり方に関する資料を中心に講義中に指示する。

ビジネス特殊研究Ⅰ

石橋善弘

【授業の概要】

マーケティング、システム論、金融工学、情報数学に関係の深い分野の中から、学生が興味をもつ研究テーマを選び、研究指導を行う。

【授業計画】

テーマに関係の深い著書の講読。
テーマに関係の深い論文の紹介。
研究の進展状況についての報告。
研究成果についての検討、討議。
研究成果の発表技術の習得。
研究成果についての論文作製。

【評価方法】

得られた研究成果によって評価する。

ビジネス特殊研究Ⅱ

杉本典之

【授業の概要】

企業会計がビジネス社会における国際的に共通の情報システムになり、会計制度の国際化が進展してきたという歴史的事実と、その根底に貫徹する複式簿記の論理とに注目しつつ、企業会計の基本的構造と社会的機能とを記号論的に多角的に考察していただく。そして、そのような考察の成果を複数の学術論文にまとめ、それらの論文をさらに体系的に編集し直すことによって博士論文を完成させる、というように指導する。

【授業計画】

各年次共に、博士論文の作成に資するように授業を進める。

【評価方法】

平常の報告、討論、投稿論文等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネス特殊研究Ⅲ

吉村文雄

【授業の概要】

現代の企業組織における内部志向的な会計を規定するものとして、コントロールと意思決定の構造化をめぐる問題がある。管理会計行為を導く構造としてのルーチンとルール、そしてそれらと調和のとれた会計手段・会計過程を追究する新たな会計学的視点が求められている。最近検討が加えられている戦略管理の諸要求に応える会計システムの設計に関する問題は新たな研究課題といえる。そのような問題を組織会計論として考察する。

【授業計画】

1. 組織会計論の分析視角
2. 組織目標と動機づけ
3. 問題解決とコントロール
4. 戦略的原価削減
5. 戦略的原価管理のシステム・デザイン
6. 競争優位と会計
7. 事例研究
8. サプライチェーン分析
9. 戦略的意思決定の評価
10. 業績測定とコントロール
11. バランス・スコアカードの意義
12. 内部統制論の検討

【評価方法】

課題レポート、論文作成状況などによって総合的に評価する。

【テキスト】

最初の授業で指示する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

ビジネス特殊研究Ⅳ

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

当コースは、博士課程後期において博士論文のための研究をし、執筆するにあたり、広範囲な異文化コミュニケーション的分野の中から、国際ビジネスに関連する下位テーマを選択し、その当該分野について深い知識と情報を収集し、学術的な論文を作成することを目的とするものである。

【授業計画】

学生の選択したテーマに関係のある著書、論文などについての指示、紹介
研究の進展状況についての報告と指示
研究成果についての検討、討議、評価
研究成果の発表技術の指導、習得、実践

【評価方法】

上記計画に沿っての学生のオーラル・レポート、関連論文読解、発表能力、論文進展度などについて総合的に判断、評価する。

【テキスト】

履修する個々の学生の選択したテーマに沿って適切な教材を指示する。

ビジネス特殊研究Ⅴ

森下允之

【授業の概要】

第二次戦後の自由経済体制を推進してきたGATT、WTOにより、モノ、カネ、ヒトの国境を越える移動、配分が自由になり、現在はグローバルなメガ・コンペティション時代といわれる。しかしながら、多角、無差別な自由化は限界に達し、これからは仲間」をつくる「(地域) 自由貿易協定」－FTA－が世界的な流れとなっている。

ビジネス特殊研究Ⅴでは、アジア、ヨーロッパ、アメリカにおけるFTAの状況を内外の論文統計を使い調査し、本邦企業の海外戦略に及ぼす影響を分析する。

【授業計画】

各年次共に、博士論文の制作に資するように授業を進める。

【評価方法】

平常の報告、討論、投稿論文等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネス特殊研究Ⅵ

國信潤子

【授業の概要】

この講座では主に開発社会学を講義し、学生各自がアジア近隣諸国と日本の国際協力についてリサーチする。国際協力には政府開発援助によるもの、国際援助機関によるもの、さらに国際的NGOによるものなど近年特に多様化してきている。日本の青年の開発領域での活動が国際的にも期待されている。

将来の進路としても国内外で国際協力分野で活動したいと考える学生の履修を歓迎する。

【授業計画】

1）開発社会学という領域とは
2）日本の国際開発協力に概要
3）開発理論の歴史的展開
4）アジア近隣諸国の社会的状況：国連統計資料分析
5）国際協力活動の実態と問題点：ジェンダー視点からの分析

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

ジェンダーと開発（田中他　国際開発出版会）

【参考文献・資料】

開発社会学（恩田　ミネルヴァ書房）

ビジネス特殊研究Ⅶ

藤井正志

【授業の概要】

金融業の情報開示制度、銀行業と証券業をはじめとする業際間の規制、銀行グループの金融コングロマリット化とその検査および監督体制の日米比較を通して、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について研究する。

【授業計画】

参考著書および論文の講読
研究の進展状況に関する報告
研究成果についての報告・検討

【評価方法】

平素の取り組み姿勢および研究成果によって評価する。

ビジネス特殊研究Ⅷ

梅田敏文

【授業の概要】

コンピュータをベースとした情報学と、哲学的な倫理学を基礎にもつ情報倫理は、技術的な観点からのアプローチや、人文科学・社会科学の観点からのアプローチなど多彩な取り組みが行われている。ここでは、さまざまな論点を体系的に把握するアプローチを論じる。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

コースへの参加状況と調査研究の進展度で評価する。

【テキスト】

必要に応じてレジュメなどを配布する。

ビジネス特殊研究IX

真田幸光

【授業の概要】

本授業は担当教員が行うビジネス研究科前期課程を履修していることを前提に、
（1）国際経済情勢の分析
（2）国際情勢下に於ける日本経済の現状分析
（3）日本の国際経済外交戦略に好する分析と考察
を行った上で、東アジアの安定的システム構築に向けた「具体策」を策定していくことと目的とする。従って、単なる机上の空論ではなく、日本政府や国際機関等に対して提言を行うことを念頭にした授業展開を行うこととする。

【授業計画】

1．ガイダンス及び本授業の目的等の再確認
2．世界経済の潮流（概観説明）
3．国際経済下に於ける日本経済に関する現状認識（概観説明）
4．日本の経済政策に関するディベート
5．日本の外交政策に関するディベート
6．国際機関にあり方に関するディベート
7．東アジア情勢に関する現状認識（概観説明）
8．東アジアの課題と今後の展望に関するディベート
9．これ以降は各院生がそれぞれ具体策・提言書作りに向けた個別準備に入る。

そして、授業の最終段階では授業内発表を行い、また担当教員が優れた提言が出たと判断する場合には、内閣府and/or国会議員に対する提言発表を行う。

【評価方法】

授業に於ける議論や文章を参考としつつ最終的に作成される「具体策」の内容を以って評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

＊モノグラフ・シリーズ７　「北東アジア開発銀行（NEADB）の創設と日本の対外協力政策」（東京財団）
＊韓国経済の解剖（文眞堂）
＊モンゴル/市場経済下の企業改革（新評論）
＊早わかり韓国（日本実業出版社）

ビジネス特殊研究X

石川雅之

【授業の概要】

財務会計分野のトピックについて履修者それぞれが研究テーマを選択し、そのテーマに沿って進める。

【授業計画】

履修者それぞれの研究テーマについての発表をもとに討論を行う。

【評価方法】

研究成果の進捗・内容によって総合的に評価する。

文化創造総論（異文化理解と創造）

榎田勝利　島田修三　清水良典　皆川修吾

【授業の概要】

主体的かつ創造的な表現に必要な人間性や知的な奥行き、そして日本の伝統文化への造詣、また国際交流に必要な異文化理解や現状認識、それに実践的処理能力など、より高度な文化創造への素養や姿勢、加えて人間の感性や理性に働き掛ける心理的・社会的状態など文化創造の根元について学ぶ。

（オムニバス方式）

（島田教授）日本文化の伝統的特質を古典文学の表現を通して学び、日本人が歴史的に培った固有性およびグローバルな普遍性への志向を探る。

（清水教授）現代日本における多様化しグローバル化した文化状況を現代文学の表現を通して学び、日本固有の文化創造の可能性を考える。

（皆川教授）地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。

（榎田教授）国際交流の実践に必要な素養や姿勢を学び、創造されつつあるグローバル市民社会の現状を検証し、発展的に将来像を探る。

【授業計画】

第１回　日本古典文学における伝統と文化の意識の発生
第２回　日本古典文学における中国文学の受容とその独自の再編
第３回　日本古典文学における文化的独創性の獲得
第４回　近代文学の文体について
第５回　言文一致運動期の文体模索について
第６回　現代文学の文体実験について
第７回　社会科学としての文化論：文化を分析概念として使う
第８回　国際社会の変容：価値体系の地球規模の共有化
第９回　国際秩序の制度化過程：歴史の視野とリアリズムを通しての現状認識
第10回　国際社会の変容とシビリアン・パワー
第11回　シビリアン・パワーとしてのNGO
第12回　シビリアン・パワーの現状と将来

【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとに1200字のレポートを課し、総合的に評価する

【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

各講義ごとに授業中に指示する

文化創造特講Ⅰ（文学表現論）

早川由美

【授業の概要】

日本古典文学の代表的なテクストをたどりながら、古典に現れた特長的な文学表現の諸相に検討を加える。また、現代の文学表現に影響を与えている表現的特質について、相互のテクストを比較しながら、その具体的な関係を学ぶ。

【授業計画】

第一講義　授業の方針の説明。

第二講義　松尾芭蕉の人生について学ぶ。

第三講義から第十五講義は「奥の細道」を味読しながら表現されたものの裏側にある古典文学について学んでいく。

【評価方法】

レポートの評価をもってする。

【テキスト】

芭蕉　おくのほそ道（岩波文庫）

文化創造特講Ⅱ（創造表現論）

小倉 斉

【授業の概要】

主として文学的な韻文および散文のテクストを教材として、創造的行為としての文学表現を構成する題材・モチーフ・テーマ・思想・方法・レトリック等の多角的な観点からつぶさに検証し、創造表現の全体像を学ぶ。

【授業計画】

＜物語の行方－怪談・奇談を中心に－＞

近代日本の怪談・奇談の系譜をたどることを通して、近代における「物語」の変容を考察する。

1　＜牡丹燈籠＞物語の系譜と三遊亭圓朝の「近代」
2　ラフカディオ・ハーンの「物語」
3　『夜窓鬼談』の世界
4　『夜窓鬼談』の継承者たち－芥川龍之介・田中貢太郎・澁澤龍彦－
5　怪異譚の時空間－漱石・科学・時間－
6　妖異の絵図－泉鏡花の物語世界－

【評価方法】

授業への参加状況、発表およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

牡丹燈籠（三遊亭圓朝　岩波文庫）、怪談・奇談（小泉八雲　講談社学術文庫）、夜窓鬼談（石川鴻斎著　小倉斉・高柴慎治訳註　春風社）、妖婆・アグニの神（芥川龍之介　プリント）、田中貢太郎 日本怪談事典（東雅夫編　学研M文庫）、日本怪談大全Ⅱ・幽霊の館（田中貢太郎　国書刊行会）、ねむり姫（澁澤龍彦　河出文庫）、うつろ舟（澁澤龍彦　福武文庫）、倫敦塔・幻影の盾 他五編（夏目漱石　岩波文庫）、高野聖・眉かくしの霊（泉鏡花　岩波文庫）

文化創造特講Ⅲ（映像表現論）

一尾直樹

【授業の概要】

映像表現の作品、特に映画における表現の固有の性格や方法を、主として日本映画史をたどりながら考察し、同時に時代情況や時代の芸術的思潮を敏感に反映した代表的な映画理論の変遷をもとらえていく。

【授業計画】

1．映画分析の方法：シナリオについて
2．映画分析の方法：撮影について
3．映画分析の方法：編集について
4．映画分析の方法：個人映画・実験映画について

【評価方法】

レポートと出席状況による。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

文化創造特講Ⅳ（プレゼンテーション技法論）

影戸 誠

【授業の概要】

基礎技術として、問題提示、諸説の比較検討、論点・論拠の提示、研究調査結果、成果の集約や発表、今後の展望など効果的なプレゼンテーション技法を指導する。

【授業計画】

プレゼンテーションは「Public Speaking」と「File making」に分かれる。実習は、この２つの観点に常に留意し展開していく。英語プレゼンテーションに焦点を置く。

第１回　プレゼンテーションとは
第２回　プレゼンテーション評価の観点
第３回　プレゼンテーションサンプル評価
第４回　プレゼンテーションと画像
第５回　プレゼンテーションと動画
第６回　プレゼンテーションとエクセルデータ
第７回　プレゼンテーションの構成
第８回　マッピング
第９回　アプリケーション間の連携
第10回　話す力
第11回　アイコンタクトとボディランゲージ
第12回　オーディエンスとインタラクション
第13回　作品評価
第14回　作品評価
第15回　作品評価

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出（インターネット利用）を通して評価する。プレゼンテーションを実際に行い、その作品を通しての評価が中心となる。

【テキスト】

実践プレゼンテーション（影戸誠・渡辺浩行著　日本文教出版　ISBN 4-536-40099-０）

【参考文献・資料】

魅せる先生（影戸誠他著　インプレス　4-8443-7009-X）
実習情報基礎　（影戸誠他著　インプレス）
翼をもったインターネット（影戸誠著　日本文教出版）

文化創造特講Ⅴ（ディベート技法論）

渡辺真澄

【授業の概要】

基礎技術として、立論の立て方、尋問の仕方、反駁・反論の仕方、試合準備の仕方、すなわち、情報収集方法や効果的なディベート技法などを指導する。

【授業計画】

ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業では、ディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。

第１講　ディベートの概要
第２講　スピーチ実践（１）：ラベリング・ナンバリングの意義
第３講　ディベートの試合の流れ：フローシートの取り方
第４講　スピーチ実践（２）：二項対立的テーマスピーチ
第５講　ディベートの論理的推論（蓋然的議論とは?）
第６講　ディベート論題決定のブレインストーミング
第７講　プレゼンテーション実践：グループ発表
第８講　グループリサーチ
第９講　立論の作成と反駁の準備
第10講　ディベート実践（１）：ディベートの試合
第11講　ディベート実践（２）：ディベートの試合
第12講　論題研究（積極的安楽死）
第13講　ディベート実践（３）：ディベートの試合
第14講　ディベート実践（４）：ディベートの試合
第15講　まとめ

"There are only two parts to a speech: You make a statement and you prove it."

(ARISTOYLE, RHETORIC.)

【評価方法】

出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著　講談社）

文化創造特講Ⅵ（異文化表現論）

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

文学と映像などのメディアの違いによって表現方法がどのように変わるのか、また、ある一つの作品が異なる文化によってどのように異なって理解されるかなどの問題を通して、異文化間の表現の多様性を学ぶ。

【授業計画】

1　Introduction
2　Film Adaptation and Accented Cinema
3－5　From Fiction to Film: *The Sweet Hereafter* (Russell Banks); *The Sweet Hereafter* (Atom Egoyan/ Canada)
6－8　Shifting Stories: *Saturday Night Fever* (USA); *Forever Fever* (Singapore); *Billy Elliot* (UK); *Happy Together* (Hong Kong)
9－11　Inside and Outside: *The Year of Living Dangerously* and *Picnic at Hanging Rock* (Peter Weir/ Australia)
12－14　Messages: Letters and Telephones: *Dial M For Murder* (US); *Central do Brasil* (Brazil)
15　Reflection

【評価方法】

There will be one panel presentation (in English) and a paper (in English or Japanese). Participation in discussion will also be evaluated.

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

TBA

文化創造特論Ⅰ（西洋文化論）

杉本一直

【授業の概要】

ロシア・東欧を含めた西洋現代文学の代表作品を解説する。各作品に現れている思想や構造の分析を通して、現代の西洋文化の根底に流れるさまざまな形而上の問題提起を明らかにする。

【授業計画】

第１回、第２回　ロシア人作家V.ナボコフの作品を取り上げる。「過去と現在との混交」、「記憶と現実との相克」といったテーマがどのような形で具現化されているかを探る。
第３回、第４回　アルゼンチン人作家J.L.ボルヘスの作品を取り上げる。形而上的な思考の遊びに、フィクションの具象性が付与されていく創作過程を分析する。
第５回、第６回　アイルランド人作家S.ベケットの作品を取り上げる。「死」「無」「消失」へと向かう退行運動のなかで言葉が生成していくという、逆説的な創作方法を分析する。
第７回、第８回　ポーランド人作家S.レムの作品を取り上げる。SF小説の枠のなかで「他者」という概念が異様なまでに巨大化し、主体を圧迫していく構図を分析する。
第９回、第10回　チェコ人作家F.カフカの作品を取り上げる。「不条理」、あるいは「迷宮」といった言葉でしばしば形容されるカフカの作品世界を、幻想小説のひとつの原型として定義づけることを試みる。
第11回、第12回　アメリカ人作家P.オースターの作品を取り上げる。犯人も事件も存在しない形骸化された推理小説を通して、主人公を「存在と非存在の境界線」へと導く独自の物語構造を分析する。

※受講生は担当教員の指示に従って「研究ノート」を作成し、提出する。

【評価方法】

上記の「研究ノート」提出と出席状況により評価する。

【テキスト】

ロリータ（ナボコフ　新潮文庫）、ソラリスの陽のもとに（レム　ハヤカワ文庫）ほか。

【参考文献・資料】

授業において随時指示する。

文化創造特論Ⅱ（東洋文化論）

角田達朗

【授業の概要】

日本及びアジアの文化的基盤を形成している中国思想の影響の諸相を比較検討したうえで、東洋文化の特質を主に舞台芸術を材料としながら学ぶ。

【授業計画】

英雄、それは超人的な活躍を見せる存在であり、神と人との中間に位置する者とも見なされるとともに、人々の多様な願望を映し出す鏡となる。この授業では、中国と日本、古典と現代という縦横の比較を軸として様々な英雄像について考察する。

第１～４回　『今昔物語集』に見る安倍清明像
第５回　夢枕漠『陰陽師』に見る安倍清明像
第６回　岡野玲子『陰陽師』に見る安倍清明像
第７回　滝田洋二郎監督『陰陽師』に見る安倍清明像
第８～10回　『捜神記』に見る左慈像
第11回　能『鉄輪』に見る安倍清明像
第12回　実相寺昭雄監督『故郷は地球』に見るウルトラマン像

授業形式は講読を基本と考えている。

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

文化創造特論Ⅲ（国際映画論）

平野勇治

【授業の概要】

世界の映画文化を国際的な異文化交流の視点から捉え、それぞれの国の文化特性を比較しつつ、それが普遍的な映画表現を介して受容されていく現実と将来の可能性について考える。

【授業計画】

1．授業内容について概説する。
2．最初期（発明直後）の映画における異文化の扱い方を概説する。
3．異文化社会において活動した映画人を、映画的史側面をふまえつつ概説する。
4．異文化を扱ったさまざまな映画について、具体的に概説し、討議する。
5．全体のまとめを行う。

【評価方法】

出席状況、課題への対応を考慮しつつ、最終的には学期末レポートにより評価する。

レポートのテーマについては、授業内で提示する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内で随時示す。

文化創造特論Ⅳ（メディア表現論）

川澄未来子

【授業の概要】

進展著しいコンピュータグラフィックス等の電子メディアを主な手がかりとして、メディア表現の具体的な技術や方法、芸術的特質や今後の可能性について、理論と実践の両面から多角的に学ぶ。

【授業計画】

画像・映像教材、電子的な教材などを利用しながら、次のトピックスについて考察を深める。

1．表現体系におけるメディア表現の位置づけ
2．視覚芸術の歴史
3．映画の起源
4．アニメの起源
5．産業におけるCG
6．科学におけるCG
7．芸術におけるCG
8．エンタテイメントにおけるCG
9．メディアアート・デジタルアート
10．ペットロボット
11．インタフェースデザイン
12．DTP・Webデザイン

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験の総合評価によって決める。

文化創造特論Ⅴ（情報学１）

影戸 誠

【授業の概要】

情報機器の効果的な活用法、学習者とのインタラクティブ性を重視したホームページや掲示板、アンケート、授業評価のあり方を学ぶ。またネットワーク上の教材の扱いについてもふれ、英語例文検索システムの活用方法を習得する。

【授業計画】

第１回　インターネットの教育利用
第２回　英語例文検索システムの活用
第３回　デジタル教材の活用方法
第４回　文部科学省をはじめとするネットワーク上の教材評価
第５回　WWWサーバーとファイルのアップロード
第６回　WWWサーバーとFTP
第７回　htmlファイルと教材作成
第８回　オンラインアンケートとそのデザイン
第９回　ネットワーク活用と情報共有
第10回　動画教材の特性と作成（１）
第11回　動画教材の特性と作成（２）
第12回　教材の相互リンクと評価
第13回　作成教材に関するプレゼンテーション（１）
第14回　作成教材に関するプレゼンテーション（２）
第15回　作成教材に関するプレゼンテーション（３）

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出（インターネット利用）を通して評価する。学習事項についてもプレゼンテーションを行い、活用方法について評価を行う。

【テキスト】

魅せる先生（影戸誠ほか著　インプレス　4-8443-7009-X）

【参考文献・資料】

実習情報基礎（影戸誠他著　インプレス）
実践プレゼンテーション（影戸誠・渡辺浩行著　日本文教出版　ISBN 4-536-40099-0）
翼をもったインターネット（影戸誠著　日本文教出版）

文化創造特論Ⅵ（情報学２）

影戸 誠

【授業の概要】

ネットワークを活用した家庭、学校、地域社会間交流、教材の共有のあり方を明確にし、「総合的な学習の時間」の設計とネットワーク活用、コーディネータのあり方について学習する。

【授業計画】

第１回　高校・大学連携国際交流プロジェクト
第２回　海外のネットワーク事情と国際連携
第３回　国際交流と英語
第４回　日本国内のネットワーク上の教材評価
第５回　クラス内の活動などをどう見せるか?動画教材の分析
第６回　動画教材の作成
第７回　動画教材とアプリケーションの連携
第８回　「総合的な学習の時間」の実践事例
第９回　英語の活用・ネットワークと国際交流（１）
第10回　英語の活用・ネットワークと国際交流（２）
第11回　英語の活用・ネットワークと国際交流（３）
第12回　英語プレゼンテーションと話す力
第13回　作成教材に関するプレゼンテーション（１）
第14回　作成教材に関するプレゼンテーション（２）
第15回　作成教材に関するプレゼンテーション（３）

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出（インターネット利用）を通して評価する。学習事項についてもプレゼンテーションを行い、学習事項の活用方法についても評価を行う。

【テキスト】

魅せる先生（影戸誠他著　インプレス　4-8443-7009-X）

【参考文献・資料】

実習情報基礎（影戸誠他著　インプレス）
実践プレゼンテーション（影戸誠・渡辺浩行著　日本文教出版　ISBN 4-536-40099-0）
翼をもったインターネット（影戸誠著　日本文教出版）

詩歌創作理論Ⅰ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論や、その表現技術を支える修辞学等の創作に関わる基礎的な理論を取り上げ、どのように創作理論が実際の韻文テクストを構築していくか、という問題を創作のプロセスと関連させながら考えていく。

【授業計画】

現代詩前期（明治・大正・昭和）の詩論を読む。

・漢詩、和歌、俳諧の詩学
・岩野泡鳴の詩論
・萩原朔太郎の詩論
・西脇順三郎の詩論
・小野十三郎の詩論
・伊藤信吉の詩人論
・武者小路実篤と詩語

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

日本文学史（小西甚一著　講談社学術文庫）
伊藤信吉著作集第４巻（沖積舎）
武者小路実篤詩集（角川文庫）
詩を読む人のために（三好達治著　岩波文庫）
詩とは何か（嶋岡晨著　新潮選書）

詩歌創作理論Ⅱ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論・技術論・修辞学に関する体系的理論のうち、主として現代詩に関する代表的なものを検討すると同時に、そうした創作理論と現代詩のテクストとの相互性を多角的に検証し、理論と実作の有機的な関係をとらえる。

【授業計画】

戦後の詩論を読む。

・小野十三郎の詩論
・田村隆一の詩論
・高見順「三人の詩について」
・粟津則雄の現代詩史

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩手帖（小野十三郎著　創元社）
高見順全集第16巻（勁草書房）

散文創作理論Ⅰ

小倉 斉

【授業の概要】

近代・現代の代表的な作家における小説作法や小説観等の創作に関わる理論的な発言を検討しながら、それらが実際の小説作品の上にどのような表現として反映されているか、という問題を解析的に考えていく。

【授業計画】

＜短篇小説の方法－作品をどう読み、どう論ずるか－１＞

日本の近代を代表する短篇小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

1 『にごりえ』（２回）
2 『少女病』（２回）
3 『半日』（２回）
4 『サラサーテの盤』（２回）
5 『焼跡のイエス』（２回）
6 『百萬圓煎餅』（２回）
7 『風流夢譚』（２回）

【評価方法】

レポート、授業への参加状況。レジュメの内容、発表の様子などによる。

【テキスト】

にごりえ（樋口一葉　プリント）、少女病（田山花袋　プリント）、半日（森鷗外　プリント）、サラサーテの盤（内田百閒　プリント）、焼跡のイエス（石川淳　プリント）、百萬圓煎餅（三島由紀夫　プリント）、風流夢譚（深沢七郎　プリント）

散文創作理論Ⅱ

小倉 斉

【授業の概要】

リアリズム理論をはじめとする、近代・現代の体系的な小説創作理論を検討し、創作主体の姿勢・素材の選択・主題による素材の再構成・プロットの構想・登場人物の設定等の小説を成立させる諸問題との関係を考えていく。

【授業計画】

＜短篇小説の方法- 作品をどう読み、どう論ずるか－２＞

日本の現代を代表する短篇小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

1 『だらだら坂』（２回）
2 『摩天楼』（２回）
3 『陽気な夜回り』（２回）
4 『幼児狩り』（２回）
5 『木の箱』（２回）
6 『無情の世界』（２回）
7 『レキシントンの幽霊』（２回）

【評価方法】

レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などによる。

【テキスト】

横しぐれ（丸谷才一　講談社文芸文庫）、夢の中での日常（島尾敏雄　角川文庫）、木犀の日（古井由吉　講談社文芸文庫）、幼児狩り（河野多恵子　プリント）、ピクニック、その他の短編（金井美恵子　講談社文芸文庫）、無情の世界（阿部和重　プリント）、レキシントンの幽霊（村上春樹　プリント）

映像創作理論Ⅰ

若松孝二

【授業の概要】

多くの創作表現ジャンルの中で、映画という動く映像表現の際立った特性を、その制作方法に関わる基礎的な理論および技術を通して考える。教材として、日本・外国映画の代表的な作品を用い、具体的な検討をしていく。

【授業計画】

映画製作のための作品分析と技法を学ぶ

1. 映画を作ることとは？
2. 「寝盗られ宗介」鑑賞
3. 同作品の分析と技法の解明
4. 「エンドレスワルツ」鑑賞
5. 同作品の分析と技法の解明
6. 「キスより簡単」鑑賞
7. 同作品の分析と技法の解明
8. 「天使の恍惚」鑑賞
9. 同作品の分析と技法の解明
10. 「狂走情死考」
11. 同作品の分析と技法の解明
12. 映像の表現とカメラ位置について
13. シナリオの作成方法

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する

映像創作理論Ⅱ

若松孝二

【授業の概要】

映画の創作理論として、モンタージュ理論・リアリズム理論・フォトジェニー論等多くの歴史的成果が挙げられるが、これらをつぶさに検討しながら、現代映画が時代社会や、そこに生きる人間を映像化していく新たな理論の可能性について考えていく。

【授業計画】

映画とテレビの表現方法の相違、海外での製作、プロデューサーの役割について探究する。

1. テレビドラマ「ウェディング・ベル」の鑑賞と分析
2. 映画とテレビ製作との相違について
3. 「シンガポール・スリング」鑑賞
4. 海外での映画製作の実態について
5. 「愛のコリーダ」鑑賞
6. プロデューサーの役割について
7. 映画の予算の組み立て方
8. 俳優を指導する方法
9. シナリオの役割について

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する。

創造表現特別演習Ⅰａ（詩）

荒川洋治

【授業の概要】

現代詩の優れたテクストを読みこみ、実践的な創作方法や技術を踏まえながら、詩作品の創作演習を行っていく。同時に、創作作品に対する批評をも行い、実作と批評の基礎的な知識と技能を学んでいく。

【授業計画】

現代詩（戦後）の作品をもとに、実作の基本を学ぶ。

・西脇順三郎「旅人かへらず」
・草野心平「原音」他、年次詩集
・山之口貘と詩集
・蔵原伸二郎「定本　岩魚」
・田村隆一、黒田三郎の世界
・北村太郎、石原吉郎、石垣りんの作品
・改行という思想
・飛躍とは何か
・構成と秩序
・ことばの化学

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

西脇順三郎詩集（岩波文庫）
草野心平詩集（岩波文庫）
山之口貘詩文集（講談社文芸文庫）
現代詩文庫・田村隆一詩集（思潮社）他
戦後詩（寺山修司著　ちくま文庫）

創造表現特別演習Ⅰｂ（詩）

荒川洋治

【授業の概要】

「創造表現特別演習Ⅰａ（詩）」に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。詩作品の創作演習とその批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を授業のねらいとする。

【授業計画】

1970年以降の作品を読みながら、現代詩の実作を試みる。

・飯島耕一「ゴヤのファースト・ネームは」
・永瀬清子「あけがたにくる人よ」
・鈴木志郎康「青草の上に」
・井坂洋子、福間健二、松井啓子の作品
・北村太郎「ぼくの現代詩入門」
・意味、リズム、呼吸
・「あたらしさ」とは何か
・時代と時間

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩文庫・井坂洋子詩集（思潮社）他
北村太郎の仕事第３巻（思潮社）
詩とことば（荒川洋治著　岩波書店）

創造表現特別演習Ⅱａ（短歌）

島田修三

【授業の概要】

主として前衛短歌から現代短歌にいたる多様な現代短歌のテクストを読みながら、短歌作品の創作演習を行っていく。また提出された作品には、必ず歌会形式の相互批評・鑑賞を行い、実作と批評・鑑賞の基本的な素養を学んでいく。

【授業計画】

第１回　授業プログラムの概説
第２回　戦後短歌の概説と討議１
第３回　戦後短歌の概説と討議２
第４回　前衛短歌の概説と討議１
第５回　前衛短歌の概説と討議２
第６回　前衛短歌の概説と討議２
第７回　ポスト前衛短歌の概説と討議１
第８回　ポスト前衛短歌の概説と討議２
第９回　ポスト前衛短歌の概説と討議３
第10回　課題創作演習１
第11回　課題創作演習２
第12回　課題創作演習３
第13回～個人指導

【評価方法】

出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価
以上の３点を総合して評価する。

【テキスト】

プリントその他を配付する。

【参考文献・資料】

・現代短歌全集　第１巻～第17巻（筑摩書房）
・現代歌人文庫（国文社）
・現代短歌文庫（砂子屋書房）

創造表現特別演習Ⅱｂ（短歌）

島田修三

【授業の概要】

「創造表現特別演習Ⅱａ（短歌）」に継続する授業であり、授業方法は基本的には変わらない。継続的に義務づけられる、短歌作品の創作演習とその批評・鑑賞によって、より高い水準を示す現代短歌の創作をはかる。

【授業計画】

第１回　授業プログラムの概説
第２回　現代短歌新作の読解と討議１
第３回　現代短歌新作の読解と討議２
第４回　自由創作演習１
第５回　自由創作演習２
第６回　現代短歌新作の読解と討議３
第７回　現代短歌新作の読解と討議４
第８回　自由創作演習３
第９回　自由創作演習４
第10回　現代短歌新作の読解と討議５
第11回　自由創作演習５
第12回　課題創作演習６
第13回～個人指導

【評価方法】

出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価
以上の３点を総合して評価する。

【テキスト】

プリントその他を配付する。

【参考文献・資料】

・現代の短歌-100人の名歌集（篠弘　三省堂）
・現代歌人文庫（国文社）
・現代短歌文庫（砂子屋書房）
・月刊短歌総合誌「短歌」、「短歌研究」、「歌壇」、「短歌往来」

創造表現特別演習Ⅲａ（小説・評論）

清水良典

【授業の概要】

主に戦後から現代にいたる小説と評論を読みながら、現代文学の特質を検討しつつ、それを踏まえながら小説・評論の創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

【授業計画】

中上健次の小説『枯木灘』と柄谷行人の評論『日本近代文学の起源』をテキストとして購読しながら、並行して、学んだことを各自のモチーフに反映させた創作（10～20枚）を発表しあい、討議する。

第１～３回　『枯木灘』購読
第４・５回　創作討議
第６～11回　『日本近代文学の起源』購読
第12・13回　創作討議
なお、前期授業終了後の夏期休暇期間に30枚～50枚程度の創作を、後期に備えて執筆しなければならない。

【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

【テキスト】

枯木灘（中上健次著　河出文庫）
柄谷行人『日本近代文学の起源』（講談社文芸文庫）
上記以外にも、現代作家の作品をできる限り入手し、読むことが求められる。

【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見１～18巻（講談社文芸文庫）

創造表現特別演習Ⅲｂ（小説・評論）

清水良典

【授業の概要】

創造表現特別演習Ⅲａに継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。小説・評論の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

授業に先立って、50枚程度の創作（評論作品も含む）を提出する。また、第３回終了時、第６回終了時にも、それぞれ30枚程度の創作を提出する。

第１～３回　創作合評１
第４～６回　創作合評２
第７～９回　創作合評３
第10～12回　討議
修了作品として100枚程度の創作を仕上げ、公募の新人文学賞に応募する。

【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

【テキスト】

毎月の各文芸雑誌（『新潮』『群像』『文学界』『すばる』『文芸』等）を講読する。
特に、各誌の新人賞受賞作品は必ず授業で取り上げ、討議する。

【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見１～18巻（講談社文芸文庫）

創造表現特別演習Ⅳａ（童話）

酒井晶代

【授業の概要】

近代から現代にかけての童話を批評的に読むことを通して、童話に対する問題意識を高めながら、創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

【授業計画】

演習Ⅳａでは、主として近代童話をとりあげる。「作者/読者」「子ども/大人」「文学/教育」等を着眼点としてテキストを精読し、童話・児童文学のジャンル的特質を考察したい。さらに、創作する（書く）立場からテキストに向き合うことを通して、歴史的評価の再検討や作品の読みかえを試みることができたら、と思っている。

第１回　授業の進め方、全体計画について
第２回　近代児童文学史をふりかえる（１）：明治期
第３回　近代児童文学史をふりかえる（２）：大正期
第４回　近代児童文学史をふりかえる（３）：昭和戦前・戦中期
第５回～作品の講読とディスカッション（創作演習を含む）

授業は、レポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。テーマ設定によっては、小論文に代わって短編創作を課題とすることもありうる。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

・日本児童文学大系<全30巻>（ほるぷ出版）
・児童文学名作全集<全５巻>（井上ひさし編　福武文庫）
・日本児童文学名作集<上・下>（桑原三郎・千葉俊二編　岩波文庫）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特別演習Ⅳｂ（童話）

酒井晶代

【授業の概要】

創造表現特別演習Ⅳａに継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。童話の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

演習Ⅳｂでは、主として現代児童文学をとりあげる。引き続き「作者/読者」「子ども/大人」「文学/教育」等を着眼点としながら、作品と評論を並行して精読し、現代児童文学の方法的到達点と課題を考察、創作の糧とすることを目指す。

第１回　授業の進め方、全体計画について
第２回　現代児童文学の起点をめぐって
第３回～作品と評論の講読、ディスカッション（創作演習を含む）

前期と同様、授業はレポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。テーマ設定によっては、小論文に代わって短編創作を課題とすることもありうる。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

・児童文学名作全集<全５巻>（井上ひさし編　福武文庫）
・現代童話<全５巻>（今江祥智・山下明生編　福武文庫）
・新潮現代童話館<全２巻>（今江祥智・灰谷健次郎編　新潮文庫）
・戦後児童文学の50年（日本児童文学者協会編　文溪堂）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特別演習Ⅴａ（映画）

若松孝二

【授業の概要】

世界の映画を参照しつつ、日本映画の歴史と技法を学びながら、現代的なニーズに応えうる映画の創作演習を行う。そのためにまずシナリオを書き、相互間で批評を交わしながら、演出のセンスを高めていく。

【授業計画】

前後期を通して４本の作品を、各自のシナリオをもとに映画製作する。

1．シナリオを各自作成する
2．シナリオの選評と映画製作のためのシナリオを選出する。
3．カメラ、照明器具の役割について
4．グループ別に映画製作に入る
5～10．映画製作
11．12．編集作業
13．音入れ
14．製作作品の発表と合評

【評価方法】

シナリオ及び監督作品と製作過程における各自の活動で評価する。

創造表現特別演習Ⅴｂ（映画）

若松孝二

【授業の概要】

創造表現特別演習Ⅴａに継続する演習授業であるが、シナリオ創作ののちに映画の制作演習を行う。撮影と編集の実践演習と相互間の批評の積み重ねを通して、映画作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

後期は、前期の方法論を受け継ぎ、さらに２本の作品を別監督で映画製作する。

1．シナリオを各自作成する
2．シナリオの選評と映画製作のためのシナリオを選出する。
3．グループ別に映画製作に入る
4～10．映画製作
11．12．編集作業
13．音入れ
14．製作作品の発表と合評

【評価方法】

シナリオ及び監督作品と製作過程における各自の活動で評価する。

創造表現特別演習VIa（アニメ・コミック）

とりいかずよし

【授業の概要】

現代のアニメ・コミックの特質と技術を検討しつつ、それを踏まえながらアニメ・コミックの創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

【授業計画】

基本的アニメ・コミックの習得

A　過去から現在に至るまでの進化と変化

B　多様化における実態と検証

C　国内と外国との比較論

D　売りたいものと売れなくてもよいものとは何か？

（以上アニメ、コミックについてのことです）

【評価方法】

感性、考察、着眼点、説得力

【テキスト】

その都度、授業内容とテーマに合わせて作成

【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等

※入手可能の成否を精査し検討

創造表現特別演習VIb（アニメ・コミック）

とりいかずよし

【授業の概要】

創造表現特別演習VIaに継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。アニメ・コミックの実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

実践的アニメ・コミックの創作

A　テーマの見つけ方

B　シナリオ（ネーム）の作り方

C　作品制作

（1）コマ割り

（2）構成

（3）キャラ作り

【評価方法】

テーマの発想、感性、自己表現力、絵の巧拙

【テキスト】

その都度作成

【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等

※入手可能の成否を精査し検討

ライフ・ライティング実作演習（随筆・自分史）

梅田卓夫

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、随筆あるいは自分史の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

講義内で文章を書きながら、そのつど相互批評をしていくが、第10回までに各自のモチーフに従った課題作品（10〜20枚程度）を執筆提出する。

第1回　ライフ・ライティングとは何か

第2・3回　「記憶」を書く

第4回　相互批評

第5〜7回　文体づくりの試み

第8・9回　相互批評

第10・11回　提出課題作品の相互批評

第12回　全体講評

【評価方法】

集中講義なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

【テキスト】

中高年のための文章読本（梅田卓夫著　ちくま学芸文庫）

【参考文献・資料】

講義のなかで適宜指示する

フィクション実作演習Ⅰ（短篇小説）

堀田あけみ

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、短篇小説の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

ステップ1　「ことばとは何か」

ことばに関して科学的な見方のトレーニング。

人がことばを身につける過程を理解する。

ことばの理解・産出のシステムについて考える。

ステップ2　「創作と評価」

各人が小説を創作する。

同時に様々な作風の作品を、選り好みせずに鑑賞し、評価する。

ステップ3　「書くことについて考える」

創作に関する広範なレクチャー。

一方的なものではなく、意見を求めるので、積極的な議論への参加が望ましい。

ステップ4　「最終課題」

【評価方法】

ステップ2・4の作品をもとに評価する。

【テキスト】

使用せず

【参考文献・資料】

使用せず

フィクション実作演習Ⅱ（童話・ファンタジー）

浜たかや

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、童話あるいはファンタジーの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

1　書き方の基本についての講義
　まずファンタジー作品の書き方の最も基本的な部分を一般論としてに講義することになるが、これは受講生のキャリアによって、その講義につかわれる時間も、講義の内容もことなる。

2　ストーリー・プロット・構成・文体の検討
　各受講生が本講座のなかで書く作品の構想について、話させ、受講生全員でそれについて意見を述べさせる。この時間は受講生の数によって変動。
　文体についても同じように検討。教室で、作品の一部を書かせて、読みあって、これも各人の意見を述べさせ、そのあと個人的な指導。

3　作品の実作
　家で書いてきた作品の指導。

4　受講生が、いままでに書いた作品があれば、持ってきて読み合い、作者の個性について語り合う。

5　作品の実作と批評。各受講生それぞれの指導
　この間に、一般論を講義すること、あるいは参考になる作品の紹介などを交える。

6　5を繰り返した後、総評

【評価方法】

1　物語をみつける能力、或いは作る能力　2　構成力　3　内容を深める力、あるいは内容をかるく表現する能力　4　文章力
以上の4点について採点する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

各受講生が作品を書いていく上で、参考になる作品、あるいは評論、心理学系統の本などを推奨する。あらかじめ用意するものはなし。

現代詩実作演習

荒川洋治

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代詩の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

20編前後の「量的」詩作を試み、一冊の「詩集」を提示する。

・詩集の著者とは何か
・テーマについての考え方
・題名と配列
・割付と活字
・詩集の余白と美術
・詩集の形態と流通
・ことばはどこから、詩になるのか
・詩のつくり方と、こわし方
・発表と読者

【評価方法】

提出された作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

特にない。

現代短歌実作演習

篠 弘

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代短歌の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

定型詩としての短歌、その機能と魅力を理解するところから、表現の基本をつかむ。提出された短歌の添削と批評を実施し、現代短歌のレベルを目指した実作の指導をおこなう。

1．定型のなりたち
2．叙事と叙情
3．心情の具象化
4．写実の役割
5．発想の単純化
6．用語の選択
7．比喩の活用
8．個性の発見
9．生活態度の反映
10．連作の試み
11．作品鑑賞の要点

【評価方法】

出席状況、授業内に提出された短歌、さらに題詠の成果等を総合的に評価する。

【テキスト】

生き方の表現（篠弘著　日本放送出版協会）
疾走する女性歌人（篠弘著　集英社新書）

シナリオ実作演習

海上宏美

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、シナリオの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

抽象的な思考と具体的な手法を往還する発想法を練習する。

1．主題を考える
2．物語の語り手は誰なのかを考える
3．叙情なのか叙事なのか語り口を考える
4．物語の場面構成を考える
5．ジェンダーを考える
6．台詞の役割と分量を考える
7．始まりと終わりを考える

【評価方法】

出席状況と提出作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜授業内で指示する。

創造表現特講Ⅰ（現代詩）

宮崎真素美

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な詩や詩論を主な手がかりとして、現代詩の変遷を検証するとともに、創作理論・主題・様式・修辞といった方法を多角的に検討し、詩は時代の問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

「荒地」派の詩人、鮎川信夫の詩業に対する考察を通して日本の戦後詩を考える。

1.「荒地」派とは何か（1）
2.「荒地」派とは何か（2）
3. 鮎川信夫の初期詩篇（1）
4. 鮎川信夫の初期詩篇（2）
5. 鮎川信夫の初期詩論
6. 鮎川信夫の戦後詩篇（1）
7. 鮎川信夫の戦後詩篇（2）
8. 鮎川信夫の戦後詩論（1）
9. 鮎川信夫の戦後詩論（2）
10.「荒地」派をめぐる評価

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

創造表現特講Ⅱ（現代短歌）

篠 弘

【授業の概要】

戦後短歌から前衛短歌にいたる戦後短歌史を踏まえながら、主として1980年代以降の代表的歌人の作品を題材に、その創作理論・主題・修辞といった方法を多角的に検討し、現代をどのように作品化していくかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

第１回　近代短歌から現代へ
第２回　戦後短歌の運動
第３回　第二芸術論議
第４回　民衆詩としての短歌
第５回　前衛短歌の時代
第６回　女性歌人の興隆
第７回　リアリズムの変質
第８回　主題の獲得
第９回　喩的表現の拡大
第10回　美意識の深化
第11回　文体の確立
第12回　口語的発想
第13回　アイロニカルトーン
第14回　アニミズムの浸透
第15回　自然観の変容

【評価方法】

出席状況、授業内の数回の小レポート、学期末の課題レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

現代の短歌－100人の名歌集（篠弘編著　三省堂）

創造表現特講Ⅲ（現代小説）

清水良典

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な創作や評論を主な手がかりとして、現代小説の変遷を検討するとともに、文学理論・主題・モチーフ・人物造型・文体といった方法を多角的に検討し、小説は時代の病理や問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

テキスト購読と講義を主としつつ、相互の討議と調査・報告を課す。

第１回　現代文学概論
第２～４回　村上春樹を解読する
第５～７回　高橋源一郎を解読する
第８～10回　村上龍を解読する
第11～12回　総括と討議
なお、指定テキスト以外にも、現代文学関係の書籍を大量に読む必要がある。

【評価方法】

出席は皆出席を前提とする。受講態度ならびに討議の積極性、調査・報告の質等を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】

羊をめぐる冒険（村上春樹著　講談社文庫）
さようなら、ギャングたち（高橋源一郎著　講談社文芸文庫）
トパーズ（村上龍著　角川文庫）
上記以外は、指示する。

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典著　毎日新聞社）

創造表現特講Ⅳ（童話）

酒井晶代

【授業の概要】

近現代の代表的な創作や児童文学論を主な手がかりとして、日本児童文学史を検証するとともに、主題・モチーフ・文体等の方法のみならず、広く社会史や文化史の視点から子ども観の変容を検討し、「子どもの文学」の創作方法とその独自性について学ぶ。

【授業計画】

近年刊行された児童文学関係の理論書から一冊を選び、演習形式で講読していく。児童文学研究は、作家・作品論のほか、読者論やメディア論といった社会・文化史的なアプローチなど、さまざまな文学理論の影響下でその幅を広げつつある。一方で、研究の深まりや多様化とともに、従来の「文学」の枠組みを解体する、より大きな視座の必要性も指摘されるようになってきた。理論書の講読を通して、児童文学をめぐる言説の最前線と現代的課題を考える場としたい。

第１回　授業の進め方、全体計画について
第２回　児童文学研究の現在
第３回～理論書の講読

授業は、レポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

研究＝日本の児童文学<全５巻>（日本児童文学学会編　東京書籍）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特講Ⅴ（アニメ・コミック）

とりいかずよし

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある戦後漫画・コミックおよび宮崎駿などのアニメーション作品を主な題材として、広く社会史や文化史の視点も導入しながら、表象文化としてのアニメ・コミックの芸術的特質や機能を考察し、その可能性を生かした創作方法について学ぶ。

【授業計画】

漫画と漫画の周辺
　A漫画とテレビの比較
　B漫画と映画の比較
　C漫画と小説の比較

【評価方法】

感性、表現、創作、将来性等の巧拙
批評の説得力の有無

【テキスト】

その都度対応して作成

【参考文献・資料】

授業の進行に応じ準備

創造表現各論Ⅰ（詩学）

宮崎真素美

【授業の概要】

近現代の詩作品を主な手がかりとして、「ことば」をめぐる哲学や現代思想の変遷も念頭に置きながら、詩の本質や詩的言語の規則・方法に関する批評的解読の方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

明治初期の詩作品に見られる伝統的古典詩歌に対する意識の錯綜を通して、その連続と切断のありよう、および詩学の確立への模索について、以下の観点から考察する。

1.『新体詩歌』とは何か
2.『新体詩歌』の背景
3.『新体詩歌』の思想
4.『新体詩歌』に対する評価
5.『新体詩歌』と幕末維新（1）
6.『新体詩歌』と幕末維新（2）
7.『新体詩歌』と幕末維新（3）
8.『新体詩歌』と自由民権（1）
9.『新体詩歌』と自由民権（2）
10.『新体詩歌』と軍歌

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布

創造表現各論Ⅱ（シナリオ論）

海上宏美

【授業の概要】

近現代の代表的なシナリオ作品を主な手がかりとして、放送史をはじめとするメディアの変遷も念頭に置きながら、主題・ストーリー・人物造型・台詞・場面構成などの方法を多角的に検討し、シナリオ表現の特質や創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業計画】

言葉であるシナリオに基づいて表現された作品構造全体において、その基盤となるシナリオの言葉がどのような機能を担っているのかを、構造（主義）・話法・技術（史）などの面から探っていく。

1. メディアの変遷
2. 観客の変遷
3. テクスト（シナリオ）の位置
4. 話法と人称性の問題
5. 大きな物語と小さな物語の違い
6. 台詞における口語的表現と文語的表現の違い
7. 描く対象（主題）の選択が意味するもの
8. 表象されるジェンダーについて
9. 物語と無意識

【評価方法】

出席状況とレポート提出で評価する。

【テキスト】

授業内で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

創造表現各論Ⅲ（舞台芸術論）

角田達朗

【授業の概要】

演劇の重要な構成要素である「舞台」の歴史的展開を主な手がかりとして、照明・音響・映像による舞台効果にも目配りしながら、演劇空間あるいは場面転換装置としての舞台の機能や特質とその解読方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

能を主な題材として、主題がいかに演劇的に、また文学的に表現されるかを考察する。授業の方法としては、能の台本（能本と言われる）を読むことと、能の上演のビデオを鑑賞することが中心となる。ただし、舞台芸術は生（ライブ）の芸術であり、生の上演に接することなしに舞台芸術への理解を深めることは不可能である。よって、この授業では1～2本の鑑賞課題も設定する。鑑賞のための経費として3～5千円の公演入場料を必要とする。

【評価方法】

レポート・平常点

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

国際交流研究Ⅰ（基礎）

榎田勝利

【授業の概要】

「非軍事的なあらゆる手段で途上国の人々を支援する試み」と定義されている国際協力の基礎的な理念、仕組みを検証するとともに、国際協力の新しいアプローチを作り出している背景要因を学ぶ。

【授業計画】

1．講義のねらいと評価の方法
2．国際協力の概念
3．国際協力の新しい潮流
4．国際協力のアクターⅠ（国連、国際機関）
5．国際協力のアクターⅡ（政府援助機関－JICA・OECF, USAID, AFD, CIDA, GTZ, DFID）
6．国際協力のアクターⅢ（NGO, 欧米のNGOと日本のNGO）
7．国際協力の方法Ⅰ（政府開発援助－ODA）
8．国際協力の方法Ⅱ（地方自治体）
9．国際協力の方法Ⅲ（NGO, ボランティア）
10．開発課題と国際協力（貧困、人口、食料、教育、保健、難民、ジェンダー、児童労働、少数民族、環境、都市スラム、開発と保存）
11．国際協力事業の評価
12．国際協力の果たす役割

【評価方法】

平常の出席・遅刻状況、毎回の講義の際の貢献度、最終課題レポートにて評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

国際協力（下村・辻・稲田・深川著　有斐閣選書）
国際協力（功刀達郎編著　サイマル出版会）
国際連合の基礎知識（国際連合広報局　世界の動き社）
政府開発援助（ODA）白書（2001年版外務省・経済協力局発行）
UNDP・人間開発報告書（2002年版　国連開発計画編　国際協力出版会）
国際協力用語集第２版（国際開発ジャーナル社）
ボランティア学のすすめ（内海成治編著　昭和堂）

国際交流研究Ⅱ（発展）

皆川修吾

【授業の概要】

「国際秩序の統治」と定義されているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界について研究し、国際秩序が制度化されていくプロセスを経験的に学ぶ。

【授業計画】

第１講　国際システムの構造とプロセス
第２講　バランス・オブ・パワーの教訓
第３講　集団安全保障の挫折
第４講　冷戦
第５講　権力と国際法
第６講　国際連合の役割
第７講　相互依存の管理体制の必要性
第８講　１）開発政策
第９講　２）世界経済
第10講　３）国際協力
第11講　グローバル・ガバナンスの構造
第12講　国際秩序制度化の今後の課題
第13講　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【テキスト】

国際紛争（ジョセフ・ナイ著　有斐閣）

【参考文献・資料】

現代国際関係学（新藤栄一著　有斐閣）
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索（渡辺昭夫編著　東大出版）
グローバル化とは何か（デヴィット・ヘルド編著　法律文化社）
現代国際関係学（新藤栄一著　有斐閣）
地球政治の構想（猪口孝著　NTT出版）
グローバル・ポリティクス（小林誠・遠藤誠治編著　有信堂）

国際文化研究ＡⅠ（言語系基礎）

中野弘三

【授業の概要】

英語学の研究対象や研究分野を概観し、新言語学に基づく英語学研究の現状と言語を科学的に分析する視点を学ぶ。

【授業計画】

第１回　文の統語構造１
第２回　文の統語構造２
第３回　文の統語構造３
第４回　文の意味構造１
第５回　文の意味構造２
第６回　語の構造
第７回　語の意味分析１
第８回　語の意味分析２
第９回　文の発話の意味分析１
第10回　文の発話の意味分析２
第11回　文の意味解釈
第12回　文と文脈
第13回　文と談話
第14回　談話標識の機能

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

プリント使用

【参考文献・資料】

Linguistics: An Introduction to Language and Communication（4 th Edition　1995 A. Akmajian, R.A. Demers, A.K. Farmer, and R.M. Harnish / The MIT Press）
Syntactic Theory and the Structure of English: A Minimalist Approach（1997　A. Radford / Cambridge University Press）
Morphology（1993　F. Katamba / Macmillan Press）
An Introduction to Functional Grammar（2 nd Edition　1994　M.A.K. Halliday / Arnold）
Semantics（2000　K. Kearns / Macmillan Press）
Pragmatics（1996　G. Yule / Oxford University Press）

国際文化研究ＡⅡ（言語系発展）

大野清幸

【授業の概要】

英語や日本語などにおける特定の研究対象を選択し、新言語学における特定の理論に基づき、言語を科学的に分析する実際を学ぶ。

【授業計画】

第１講　　PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること!
第２講　　PC実践教室において、
　　認知言語学など関連分野の本物情報を検索・探索する。
第３講－　学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
授業においては、基本的に、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、
（１）先行研究を調査し、
（２）仮説をたて、
（３）データを採集・整理し、
（４）理論の枠組みで分析し
（５）論文としてまとめ、提出する。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。
※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

認知文法論（1995　山梨正明　ひつじ書房）
認知言語学原理（2000　山梨正明　くろしお出版）
認知言語学論考 No.1（2001　山梨正明編著　ひつじ書房）
認知言語学論考 No.2（2002　山梨正明編著　ひつじ書房）
現代言語学の潮流（2003　山梨正明編著　勁草書房）
認知意味論：英語動詞の多義と構造（1990　田中茂範　三友社出版）
認知意味論（1993　George Lakoff著　池上嘉彦・河上誓作他訳　紀伊國屋書店）
認知意味論の原理（1994　中右実　大修館書店）
認知意味論の方法：経験と動機の言語学（1995　吉村公宏　人文書院）
認知言語学の基礎（1996　河上誓作編著　研究社出版）
認知言語学の発展（2000　坂原茂編　ひつじ書房）
認知言語論（2000　定延利之　大修館書店）
認知意味論の展開：語源学から語用論まで（2000　Eve E. Sweetser著　澤田治美訳　研究社出版）
ことばの認知科学事典（2001　辻幸夫編　大修館書店）
認知意味論のしくみ（2002　籾山洋介　研究社）

国際文化研究ＢＩ（文化系基礎）

平林美都子

【授業の概要】

20世紀に入って顕著になってきた異文化接触のコロニアリズムやポストコロニアリズムなどの諸問題を、様々な文化批評理論から系統的に学ぶ。

【授業計画】

Frantz Fanon、Homi Bhabha、Edward Said、Stuart Hallらのコロニアリズム、ポスト・コロニアリズム理論を理解する。

なお、英文原書の講読が中心のため、英語力が必要である。

【評価方法】

出席およびレポートによる。

【テキスト】

Postcolonialism: A Very Short Introduction（Robert J.C.Young Oxford）

その他は適宜配布する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

国際文化研究ＢII（文化系発展）

杉本一直

【授業の概要】

ロシア亡命者の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、「国文学」「伝統文化」という概念とは対極的ないわば「脱領域」的な表現様式、あるいはグローバルな普遍性を獲得しようとした亡命者たちの創作意識を考察する。

【授業計画】

英文による原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、国外からアメリカへ移住した作家のなかでももっともアメリカの読者やアメリカ人作家に愛読された作家のひとり、ウラジーミル・ナボコフの代表作『ロリータ』を使用し、ヨーロッパ文化とアメリカ文化との相克を作品のなかに読み取っていく。また、サブテキストとして、ナボコフを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書や、20世紀アメリカ文学におけるコスモポリタニズムについて論じた研究書等を用い、現代アメリカ文学の根底に流れる形而上的本質、つまり脱領域的(extraterritorial)本質についての理解を促す。

第１回　概説
第２回～第４回　原典講読
第５回　サブテキスト解説
第６回～第８回　原典講読
第９回　サブテキスト解説
第10回～第13回　原典講読
第14回　サブテキスト解説
第15回　総論

【評価方法】

学期末レポートと平常点により評価する。

【テキスト】

Vladimir Nabokov "The Annotated Lolita" Random House Inc.

【参考文献・資料】

徹夜の塊／亡命文学論（沼野充義著　作品社）
言語の都市（トニー・タナー著　白水社）
脱領域の知性（ジョージ・スタイナー著　河出書房新社）

国際交流特別演習Ｉａ（ODA・NGO）

榎田勝利

【授業の概要】

政府開発援助（ODA）の基本理念、国際協力スキームの検証と現状、および非政府組織（NGO）の基本理念と特長、実態を学ぶとともに、ODAとNGOとの連携を検討する。

【授業計画】

授業では、我が国の政府開発援助（ODA）の中でも、「顔の見える国際協力」といわれる技術協力に焦点をあて、その実践事例を視聴覚教材を用いてODAを考察する。具体的には、技術協力実施機関である独立行政法人「国際協力機構」（JICA）の国際協力スキーム（技術協力、無償資金協力、国際緊急援助、評価、プロジェクト・マネジメント）を検証するとともにJICAが派遣する専門家、青年海外協力隊、シニアボランティア等の活動事例も紹介する。また、授業では、非政府組織（NGO）の基本理念と特徴、現状における課題・問題点等について、NGOの活動事例を視聴覚教材を用いて考察する。さらに、ODAと地方自治体、ODAとNGOとの望ましい連繋のあり方についても実践事例をもとに考察する・授業は、講義、調査、発表、討論という形式で受講者全員の参加を基本にしてすすめる。

【評価方法】

試験は行わない。出席・遅刻状況、毎回の演習での貢献度、発表・討議の内容を、総合的に評価して採点する。

【テキスト】

連続講義　国際協力NGO（今田克司・原田勝広編著　日本評論者）
その都度プリントを配布する。

【参考文献・資料】

国際協力の基礎知識（国際協力事業団監修　国際開発ジャーナル社発行）
政府開発援助（ODA）白書（2002年版　外務省・経済協力局発行）
ODA大綱の政治経済学（下村・中川・斉藤著　有斐閣）
ODAの正しい見方（草野厚著　筑摩書房）
日本のODAをどうする（渡辺利夫・草野厚著　NHKブックス）
NGOとは何か（伊勢崎賢治著　藤原書房）
NGOダイレクトリー2004（国際協力NGOセンターJANIC編集・発行）
NGOデータブック2004（国際協力NGOセンターJANIC編集・発行）

国際交流特別演習Ｉｂ（ODA・NGO）

榎田勝利

【授業の概要】

国際交流特別演習Ｉａ（ODA・NGO）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。とくに、ODAとNGOとの連携の現状を学び、理論と実践の整合性を検討する。

【授業計画】

授業は、国際交流特別演習Ｉａ（ODA・NGO）を基礎にして、より実践的なODA、NGOの方法論について学ぶ。具体的には、情報収集・調査・分析、協力事業の企画立案、海外における危機管理、フィールドワークの基礎を学ぶとともに、NGOのマネジメント（リクルートメント、リサーチ、企画立案・運営、ファンドレイジング、広報、会計、ボランティア・マネジメント等）についても学ぶ。授業は、講義、調査、発表、討論という形式で受講者全員の参加を基本にしてすすめる。受講者には、国際協力現場でのフィールドワーク、インターンシップ、ボランティア参加をすすめる。

【評価方法】

試験は行わない。出席・遅刻状況、毎回の演習での貢献度、発表・討議の内容を、総合的に評価して採点する。

【テキスト】

国際協力プロジェクト評価（NPO法人アーユス編　国際開発ジャーナル社）
その都度プリントを配布する。

【参考文献・資料】

NGO運営の基礎知識（A SEED JAPAN/POWER共編　アルク）
国際プログラム・オフィサー（GAP（国際公益活動研究会）著　アルク）
フィールドワークの新技法（中村尚司・広岡博之著　日本評論社）

国際交流特別演習Ⅱａ（環境と開発）

高島忠義

【授業の概要】

「持続可能な開発」（環境に配慮した開発）の概念が形成された背景には発展途上国に対する従来の開発協力が発展途上国の環境を大きく破壊したという事情があり、その現状を学習する。

【授業計画】

1．発展途上国の開発理論
2．経済開発から社会開発へ
3．社会開発理論（1）
4．社会開発理論（2）
5．社会開発から持続可能な開発へ
6．環境を無視した開発
7．世界銀行とIMFの構造調整融資
8．環境に配慮した開発
9．持続可能な開発理論（1）
10．持続可能な開発理論（2）
11．持続可能な開発理論の課題

【評価方法】

出席状況と学生自身による報告の評価による

【テキスト】

最初の授業で指示する

国際交流特別演習Ⅱｂ（環境と開発）

高島忠義

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅱａ（環境と開発）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。「持続可能な開発」（環境に配慮した開発）の概念の具体化の努力を検証し、開発協力のあり方を学習する。

【授業計画】

1．環境よりも開発を
2．開発援助における環境問題
3．貧困の悪循環
4．日本のODAの歴史（1）
5．日本のODAの歴史（2）
6．日本のODAの特長（1）
7．日本のODAの特長（2）
8．日本のODAの変容
9．日本のODAにおける環境への配慮（1）
10．日本のODAにおける環境への配慮（2）
11．まとめ

【評価方法】

出席状況と各自の報告に対する評価

【テキスト】

最初の授業で指示します。

国際交流特別演習Ⅲａ（非営利組織）

ブイ チ トルン

【授業の概要】

非営利組織（NPO）の台頭の背景、定義、役割等の基本的概念を検証するとともに、非営利組織のマネジメント（支援者、マーケティング、財源、広報、事業評価、人材育成等）の実務を検討する。

【授業計画】

本演習は国際開発協力活動を行う国内の非営利組織のマネジメントにおける様々な現況や課題を取り上げ、実務的組織発展のために内部要因、外部要因及び社会環境等を分析・検討する。

各組織の年度報告書はじめ資料収集を行い、また可能であればそれぞれの団体より担当者を招き、説明や議論に参加させる。

ワークショップ形式やプレゼンテーション手法を多く活用することによって参加・協力型学習を通して非営利組織運営の可能性を追求する。

院生には修論課題に関連させ議論等を進める。

【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】

随時参考文献やプリントを配布する。

国際交流特別演習Ⅲｂ（非営利組織）

ブイ チ トルン

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅲａ（非営利組織）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。

非営利組織のマネジメントの実態と問題点を学習する。

【授業計画】

基本的には国際交流特別演習Ⅲａと同様な授業計画を行う。内容は国際交流特別演習Ⅲａが国内NGOを取り上げるのに対して、この演習は海外の主なNGOを対象とするものである。英文資料等を基に演習を行う。国際比較により広範的な組織マネジメントを学習できる。

院生には修論課題に関連させ議論等を進める。

【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。

国際交流特別演習Ⅳａ（グローバル政治）

皆川修吾

【授業の概要】

冷戦崩壊後の分権化・民営化・民主化のグローバルな動きを検討し、グローバリゼーションの負の側面に対する国際公共政策「人間の安全保障」の実態を検討する。

【授業計画】

講義「国際交流研究Ⅱ（発展）」に併せて、下記のテキストごとに課題を設定し、ディスカッション形式で理解を深める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・討議内容、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

政治学（久米郁男他共著、有斐閣）
国際政治とは何か（中西寛著　中公新書）

【参考文献・資料】

国際紛争（ジョセフ・ナイ著　有斐閣）
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索
（渡辺昭夫編著　東大出版）
グローバル化とは何か（デヴィット・ヘルド編著　法律文化社）
国際社会論（ヘドリー・ブル著　岩波書店）
現代国際関係学（新藤栄一著　有斐閣）
比較政治学（ジョヴァンニ・サルトーリ著　早稲田大学出版部）
参照専門誌：
外交フォーラム（外務省編　都市出版社）
国際政治（国際政治学会編　有斐閣）
政治学（日本政治学会編　岩波書店）

国際交流特別演習Ⅳｂ（グローバル政治）

皆川修吾

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅳａ（グローバル政治）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。国際公共政策「人間の安全保障」の現状とその政治過程を学び、問題点を学習する。

【授業計画】

講義「国際交流研究Ⅱ（発展）」に併せて、下記のテキストごとに課題を設定し、ディスカッション形式で理解を深める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・討議内容、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

現代が受けている挑戦（A.J.トインビー著　新潮文庫）
文明の衝突と21世紀の日本（S.ハンチントン著　集英社新書）
暴走する世界（A.ギデンス　ダイヤモンド社）

【参考文献・資料】

外交フォーラム（外務省編　都市出版社）
国際政治（国際政治学会編　有斐閣）
政治学（日本政治学会編　岩波書店）

国際交流特別演習Ⅴａ（グローバル経済）

家本博一

【授業の概要】

市場経済化、民営化、規制緩和を通じ活性化するグローバル経済の動きと、脱物質社会の価値観を尊重する動きが併存できる21世紀型経済の可能性について検討する。

【授業計画】

本演習では、「開放経済化」、「市場経済化」、「経済と金融のグローバリゼーション」の並行を固有の特徴とする現代経済世界の基本動向を学ぶ一環として、1990年代初め以降顕著な進展を示している東西欧州間での統合過程（欧州連合EUの東方拡大）に焦点を当てた上で、ポーランド、ハンガリー、チェコなど中欧各国が、社会主義時代の遺産をどのように克服し、新たな政治経済システムを構築しつつあるのか（「体制移行」過程）を具体的に学ぶこととする。その際、本演習では、キリスト教社会教説に基づく社会倫理学の視点に基いて、体制移行過程における「共同善」、「補完性」、「連帯性」の実現への動きについても、併せて学ぶこととする。

<演習の学ぶ事柄>

1．テキスト、ビデオ・DVD教材、年表などを用いて、中欧各国における体制移行の現実を現代経済世界における基本動向の具体事例の一つとして学ぶ。その際、中欧各国での体制移行の進展を促しつつある各種の国際協力プログラムの概要とその具体例についても並行して学ぶこととする。
2．欧米先進国、ロシア、中国、韓国の企業による対中欧進出の実態を学びつつ、経済と金融のグローバリゼーションの実態について、その一端を学ぶこととする。
3．現代経済世界の基本動向に関するキリスト教社会教説の「提言」を学びつつ、それが目指す世界像と現代経済世界との「乖離」についても学ぶこととする。
4．旧東欧各国の具体事例に見られる国際交流の基本方向について、暫定的な仮説を立てた上で、仮説を変更し得る様々な環境条件について検討する。

【評価方法】

・出席状況、課題レポート、討論の三点によって評価する。

【テキスト】

中欧の体制移行とEU加盟（上）－チェコとスロヴァキア（桑原進著　三恵社2003年）
中欧の体制移行とEU加盟（下）－ポーランド（家本博一著　三恵社　2004年）

【参考文献・資料】

・国際機関と国内政府機関の公刊した資料を順次紹介し、利用する。
・インターネット情報を活用する。

国際交流特別演習Ⅴｂ（グローバル経済）

家本博一

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅴａ（グローバル経済）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。グローバル経済の実態と問題点について学習する。

【授業計画】

本演習では、演習Ⅴａ「グローバル経済」において学んだ成果を基礎として、演習履修者による各国ごとの個別研究を指導する。履修者は、旧東欧・旧ソ連邦諸国から１ヶ国を選択した上で、欧・米・日・韓企業（製造業、金融業、サービス業など）による経済進出の現実を調査し、現代経済世界におけるグローバリゼーションの実態とその特徴について学ぶこととする。その際、履修者は、国内刊行書籍による情報、国際機関による公刊情報の活用に加えて、インターネット情報の活用も求められることとなる。

なお、履修者の中から希望者を募った上で、科目担当者が引率・指導して、旧東欧における欧米企業進出に関する実態調査を行うことを検討している。

【評価方法】

・出席状況、課題レポート、討論の三点によって評価する。

【テキスト】

・選択した国別の資料は、順次紹介していく。

【参考文献・資料】

・インターネット情報を利用し、国際機関、国内政府機関の公刊資料を利用する。

国際交流特別演習VI a（グローバル社会）

中西久枝

【授業の概要】

グローバル社会での共生的な市民社会の構築に必要な社会的公正・格差是正、民族間の対話などの価値観を、事例としてイスラーム世界を通じて検討する。

【授業計画】

グローバル化の進展する国際社会のなかで、イスラーム世界を構成している地政学的、経済的、文化的な一体性と多様性を理解し、世界秩序との共存の問題を多面的に把握する。

1．イスラームにおける共同体概念
2．イスラーム世界のアイデンティティ
3．イスラーム的人権論
4．イスラーム世界の市民社会論
5．イスラーム銀行による開発理論と実践
6．文明の衝突と対話
7．民族問題と資源争奪
8．パレスチナ問題
9．クルド民族問題

【評価方法】

プレゼンテーション30%、学期末試験40%、レポート30%

【テキスト】

イスラームとモダニティ
（中西久枝著　風媒社　2002年）

【参考文献・資料】

・国際関係論のパラダイム
（初瀬龍平・月村太郎・定形衛編　有信堂　2001年）
・地球的平和の公共哲学
（公共哲学ネットワーク編　東京大学出版会　2003年）
・ポスト・ウェストファリア体制の行方
（吉川元・加藤普章編　ナカニシヤ出版　2003年）
その他、授業中に適宜提示する。

国際交流特別演習VI b（グローバル社会）

中西久枝

【授業の概要】

国際交流特別演習VI a（グローバル社会）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。グローバル市民社会の構築過程における多文化社会間の共生的なあり方について学習する

【授業計画】

現在進展するグローバル社会が共生・共存していくためには、普遍原理と考えられている主要概念がどのようにイスラーム世界に適用可能かが鍵となる。本演習ではそのなかで特に、民主主義（あるいは民主化）、市民社会の構築、フェミニズム（あるいはジェンダー）の概念のイスラーム世界での受容と変容について考察する。以下は、本演習で取り上げるテーマである。

1．ヨーロッパのムスリム移民と人権
2．米国の中東・中央アジア政策と民主主義の輸出問題
3．イスラーム過激派のテロと米国のムスリム移民の市民権
4．イスラーム世界の民主化政策の動向
5．欧米のフェミニズムとイスラーム的フェミニズム
6．アフガニスタン戦後復興における国際ドナーの貢献
7．イラク復興問題における民主国家建設の課題
8．中央アジアへの日本の法整備支援－現状と課題
9．大量破壊兵器の拡散問題
10．グローバル社会と環境保全

【評価方法】

毎週のプレゼンテーション50%、レポート50%で評価する。

【テキスト】

国際政治の行方
（吉川元・加藤普章編　ナカニシヤ出版　2003年）
さらに、各回の演習に関連した教材を適宜プリント資料として配布する。

【参考文献・資料】

・イスラームとモダニティ（中西久枝著　風媒社　2002年）
・地球的平和の公共哲学（公共哲学ネットワーク編　東京大学出版会　2003年）

国際文化特別演習Ｉａ（言語）

中野弘三

【授業の概要】

英語の文や節、発話などの意味構造を、意味論と語用論を中心に明らかにし、また文法をはじめとするさまざまな意味機能を分析し、発話と場面の関係を検討する。

【授業計画】

1．発話の場における文の意味の概観
2．文の発話の意味構造
3．発話行為
4．命題態度
5．命題の種類
6．命題の種類と補文の関係
7．文の意味構造と統語構造

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

Semantics（2000　K. Kearns / Macmillan Press）
Semantics（2 nd Edtition　1997　J.I.Saeed / Blackwell Publishing）
Doing Pragmatics（1995　P.Grundy / Edward Arnold）
Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics（2000　A. Cruse / Oxford University Press）
The Theory of Functional Grammar Part 1（2 nd Edition　1997　S. Dik / Mouton de Gruyter）

国際文化特別演習Ｉｂ（言語）

中野弘三

【授業の概要】

国際文化特別演習Ｉａ（言語）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。英語の意味構造を理解し、さまざまな意味機能分析の問題点を学習する。

【授業計画】

1．法表現の分析
2．時制の分析
3．否定文の分析
4．疑問文の分析
5．接続詞の分析
6．副詞表現の分析
7．動詞の意味とその補文の関係

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

Semantics（2000　K. Kearns / Macmillan Press）
Semantics（2 nd Edtition　1997　J.I.Saeed / Blackwell Publishing）
Doing Pragmatics（1995　P. Grundy / Edward Arnold）
Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics（2000　A. Cruse / Oxford University Press）
The Theory of Functional Grammar Part 1（2 nd Edition　1997　S. Dik / Mouton de Gruyter）

国際文化特別演習Ⅱa（異文化コミュニケーション）

大野清幸

【授業の概要】

言語、文化、メディアなどの問題を扱い、異文化コミュニケーションの本質を検討する。異文化間のコミュニケーションで生じる問題を、主として言語特性の相違分析を通して検討する。

【授業計画】

第１講　PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること！
第２講　PC実践教室において、関連分野の本物情報を検索・探索する。
第３講－　学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
基本的には、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、
（1）先行研究を調査し、
（2）仮説をたて、
（3）データを採集・整理し、
（4）理論の枠組みで分析し、
（5）論文としてまとめ、提出する。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

国際文化特別演習Ⅱb（異文化コミュニケーション）

大野清幸

【授業の概要】

国際文化特別演習Ⅱa（異文化コミュニケーション）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。異文化コミュニケーションの本質を理解し、異文化間コミュニケーションで生じる問題点を学習する。

【授業計画】

第１講　PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること！
第２講　PC実践教室において、関連分野の本物情報を検索・探索する。
第３講－　学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
基本的には、学術論文を精読し、議論する。

【テキスト】

学術論文。授業時に、指示する。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

国際文化特別演習Ⅲa（比較文化）

平林美都子

【授業の概要】

文学の表象のあり方、それに視覚イメージから構成される絵画や映画も対象に、われわれの文化に対する思考形式などを批判的に検討する。

【授業計画】

「女性と英語文学」
フェミニズム文学批評は英語文学の重要な分析方法である。本年はMargaret Atwoodの *The Handmaid's Tale* を読みながら、フェミニズム分析に有効な文学理論を合わせて学び、応用していく。

1　イントロダクション
2　*HT* Chapter 1 -Chapter 4
3－5　*HT* Chapter 5 -Chapter 7
　母性論
6－7　*HT* Chapter 8 -Chapter 11
　精神分析批評
8－10　*HT* Chapter 12-Chapter 13
　ジェンダーとジャンル（ナラティヴ）
11－12　*HT* Chapter 14-

【評価方法】

出席とレポートによる。

【テキスト】

The Handmaid's Tale（Margaret Atwood　Fawcett Crest）
批評関連のテキストは、最初の授業で指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

国際文化特別演習Ⅲb（比較文化）

平林美都子

【授業の概要】

国際文化特別演習Ⅲa（比較文化）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。文化に対する思考形式などを比較検討し、体系的に学習する。

【授業計画】

「女性と英語文学」
フェミニズム文学批評は英語文学の重要な分析方法である。本年はMargaret Atwood の短編 *Wilderness Tips* を読みながら、フェミニズム分析に有効な文学理論を合わせて学び、応用していく。

【評価方法】

出席とレポートによる。

【テキスト】

Wilderness Tips（Margaret Atwood　Seal Books）
批評論文は、最初の授業時に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

国際交流実践演習Ⅰ

榎田勝利

【授業の概要】

国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などのインターンシップを通し、対外折衝能力、問題発見・解決能力、組織マネジメント能力を育成する。

【授業計画】

米国ワシントンDCにあるCivil Society Consulting Group(CSCG)との共同プログラム。

学生の専門分野、専門的知識・経験、英語でのコミュニケーション能力等を考慮し、米国の民間非営利組織（NPO)、国際NGOでのインターンシップを実施する。インターンシップ機関中の滞在は、米国人の一般家庭でのホームステイを原則とする。活動可能分野は、老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際居協力、博物館・美術館、図書館、その他。

・事前研修　インターンシップの活動分野の決定、日米のNPO・ボランティアに関する学習、日本のNPO・ボランティア団体へのフィールドワーク、英会話トレーニング、米国側ディレクターによる合宿研修

・現地プログラム　オリエンテーション合宿
インターンシップ（月曜日から金曜日の５日間）
１日特別研修プログラム
ポートフォリオの作成、評価会、修了式、さよならパーティー

・事後研修　フォローアップ研修と発表会、報告書の作成

【評価方法】

米国側受入団体（CSCG）の評価に基づき総合的に評価する。

【テキスト】

米国側指定の英文資料

国際交流実践演習Ⅱ

ブイ チ トルン

【授業の概要】

国際機関へインターンシップを申請し、認められた大学院生は夏期及び春期休暇中のインターンシップを通して異文化間共生能力、危機管理能力、コミュニケーション能力を身につける。

【授業計画】

A. 国内対象コース：
1. 数人で担当チームを作り、協議した上で国内の国際交流・協力機関の活動調査、発表する
2. インターンシップ内容・目標・計画等をプレゼンテーション
3. インターンシップ計画書作成、受け入れ交渉
4. インターン後に報告書や成果報告会を通して単位取得

B. 海外対象コース：
1. ベトナム、インド等アジア各国の国際協力現場を調査・学習する
2. また可能な限り現地視察・調査も行う予定
3. テーマ、視察先等事前研修・計画づくり及び実施については国内インターンシップ事業に準じる
4. 現地視察後に報告書や成果報告会を通して単位取得

C. 演習主旨：
1. 開発協力内容の学習よりも協働の仕組み・事業運営・組織運営に重点を置く
2. 院生の立案・計画・組織運営能力を高め、育成する

【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。

国際交流実践演習Ⅲ

大野清幸

【授業の概要】

ネットワークでの事前研究・交流をベースにして現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを通して問題解決能力・自己判断能力・コミュニケーション能力を習得する。

【授業計画】

事前研修

第１講　事前指導１＝PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること!

第２講　事前指導２＝PC実践教室において、関連分野の本物情報を検索・探索する。

現地プログラム（期間は、長期休暇中で、集中授業形式。昨年度は、台湾にて開催された、ASEP 2004に参加。12月下旬実施。）

第３講～第12講
現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。
（訪問国の、教育関係機関などを訪問する。）

事後研修

第13講　事後指導１＝受講生は、パワーポイントで報告書を作成し、プレゼンテーションを行う。

第14講　事後指導２＝受講生は、パワーポイントで報告書を作成し、プレゼンテーションを行う。

第15講　事後指導３＝受講生は、プレゼンテーション時のコメントを参考に、最終報告書を作成し、提出する。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。

現地での評価（受け入れ団体など）を考慮し、全体評価を行う。

受講生は、パワーポイントで報告書を作成し、プレゼンテーションを行う。

受講生は、プレゼンテーション時のコメントを参考に、最終報告書を作成し、提出する。

学期末レポート：研究主題を狭く限定して選び、

（1）先行研究を調査し、

（2）仮説をたて、

（3）データを採集・整理し、

（4）分析し、

（5）報告書としてまとめ、提出する。

【テキスト】

授業時に、指示する。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。

理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

・履修希望者は、後日掲示の指示に従って、説明会に参加し、別途申込をする。

※履修を認められた者の履修登録は教学課が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。

【参考文献・資料】

http://ajds.nayou.edu.tw/1000214853/asep2004/

http://ajds.nayou.edu.tw/1000214853/asep2004/html/schedule.htm

http://www.google.co.jp/search?hl=ja&ie=Shift_JIS&q=ASEP2004&lr=

http://ajds.nayou.edu.tw/1000211908/asep2003/

http://ajds.nayou.edu.tw/1000211908/asep2003/html/schedule.htm

国際交流特講Ⅰ

伊藤道雄

【授業の概要】

国際協力の主要なアクターである国連・国際開発機関、政府開発援助（ODA)、非政府組織（NGO）の存在意義・役割・活動を研究するとともに、非営利組織の実践的なマネジメントを学ぶ。

【授業計画】

本科目では、日本の国際協力の重要な担い手（アクター）に成長しつつある市民およびその団体に焦点を当て、それらの歴史的展開について考察するとともに、現在おかれている状況と直面する課題を明らかにし、あわせて今後の役割と方向性をみなで考える。

1. 講義のねらい
2. 日本社会における国際協力NGOの位置づけと概況
3. 戦前：日中戦争とキリスト教徒による難民支援
4. 戦後の経済復興：宗教的背景を持った人たちのイニシアティブと国際協力（'60年代初頭）
5. 多様化する国際協力NGOの担い手たちと活動（'70年代）
6. カンボジア難民と国際協力への市民参加の広がり（'70年代後半～'80年代前半）
7. 日本社会の「国際化」と世界的事件の続発とNGO（'80年代半ば～）
8. 欧米NGOの日本への進出と活動の拡大（'80年代～）
9. 地球環境問題と環境NGOの活躍（'80年代後半～）
10. 国際協力NGO間のネットワーク化の流れとその後（'80年代後半～）
11. 拡大する政府の国際協力NGO支援（'90年代前半～）
12. 政府と国際協力NGOの公式対話の始まりとNGOによる提言活動（'90年代後半～）
13. 法的認知を受ける国際協力NGOの増大（'90年代後半～）
14. 米国多発テロ（9.11）事件と日本の国際協力NGOの対応（'01年～）
15. 総括：グローバル化の中における日本の国際協力NGOの課題と今後

【評価方法】

授業での積極的な参加と貢献、課題レポートの内容を評価する。

【テキスト】

とくになし。随時、関係図書・資料を紹介し、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業開始時に紹介する。

国際交流特講Ⅱ

皆川修吾

【授業の概要】

現代社会の諸現象が相互に影響しあい、これまでの国際秩序に質的・量的変化が起こっており、人類が共生できる国際秩序形成プロセスとその限界を実践的に学ぶ。

【授業計画】

第１講　国際システムの構造とプロセス
第２講　第１次世界大戦：バランス・オブ・パワーの教訓
第３講　第２次世界大戦：集団安全保障の挫折
第４講　冷戦
第５講　国際法
第６講　国際組織
第７講　相互依存の国際システム
第８講　テロ・地域紛争時代の国際秩序
第９講　地域機構の存在意義Ⅰ：欧州（EU）
第10講　地域機構の存在意義Ⅱ：アジア・太平洋地域（ASEAN, APEC）
第11講　国際機構の存在意義Ⅰ：国連
第12講　国際機構の存在意義Ⅱ：IMF, WTOなど
第13講　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

国際社会論（ヘドリー・ブル著　岩波書店）
現代国際関係学（新藤栄一著　有斐閣）
国際紛争（ジョセフ・ナイ著　有斐閣）

国際交流特講Ⅲ

貝澤 哉　中野弘三

【授業の概要】

英語を主な対象に、言語学や文学およびコミュニケーションなどのさまざまな角度から多角的かつ実践的にとらえ、言語や文化に対する新たな視点や思考を提供する。

【授業計画】

中野担当「言語と言語使用者の意図、言語と文化や社会との関係を考察する」
1．コミュニケーションの場の分析
2．Politeness
3．英語における性差別語の問題
4．Metaphor, Metonymy
5．Hedge
6．言語表現と視点（point of view）

貝澤担当「身体と表象に関する基礎理論」
1．〈物語〉構造主義的視点を手がかりとして
2．〈視覚〉「まなざし」の理論
3．〈聴覚〉「歌」と「声」
4．〈もの〉文化における「ゴミ」の問題
5．〈探偵〉探偵の詩学

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

中野担当
Pragmatics（1996　G. Yule / Oxford University Press）
Women, Men and Politeness（1995　J. Holmes / Longman）
Minimum Essential Politeness: A Guide to the Japanese Honorific Language（1991　A.M. Niyekawa / Kodansha International）
Language and Culture（1998　C. Kramsch / Oxford University Press）
Cognitive Linguistics: An Introduction（2001　L.David / Oxford University Press）

貝澤担当
見えるものと見えないもの（メルロ・ポンティ）
作者と主人公（ミハイル・バフチン）

コーパス言語学特講

柳 朋宏

【授業の概要】

インターネット、CD-ROMなどで利用可能なコーパス（大規模言語データベース）の分析方法を実践的に学び、使用頻度・用例・語法などの研究を行う。

【授業計画】

この授業ではコーパスを使った効果的なデータ収集法とそのデータに基づいた分析法の習得を目指す。

以下の内容のうち、受講生の関心事に一致するものについて講義・演習を行なう。また、受講生にはコーパスから得られたデータに基づいた研究発表と学期末にレポートの提出をしてもらう。

1．コーパスの定義とその種類（概要）
2．コーパス言語学とは何か
3．検索ツールと正規表現
4．共時的コーパスの利用と分析
5．通時的コーパスの利用と分析
6．学習者コーパスの利用と分析
7．パラレルコーパスの利用と分析

※第１回目に授業の説明をするので必ず出席すること。
毎時間コーパスや検索ソフトの操作などを行なうので、欠席するとついていけなくなるので注意すること。

【評価方法】

研究発表とレポート、及び授業への貢献度等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜ハンドアウトを配付

【参考文献・資料】

英語コーパス言語学（齊藤俊雄他編　研究社出版）
実践コーパス言語学（鷹家秀史・須賀廣著　桐原ユニ）
English Corpus Linguistics.（Meyer,C.F. / CUP.）

国際公共政策特講

皆川修吾

【授業の概要】

グローバリゼーションの負の側面に対する「人間の安全保障」政策の主体、政策目的、形成過程、政策の実施と評価など国際公共政策の政治過程を体系的に研究する。

【授業計画】

第１講　国際公共政策とは何か
第２講　国際公益、地球公共財の概念
第３講　国際公共政策の研究課題と方法
第４講　グローバル化の中の政策転換１：環境、エネルギー
第５講　グローバル化の中の政策転換２：科学技術・情報
第６講　グローバル化の中の産業経済政策２：中小企業、農業、労働
第８講　グローバル化の中の市民社会活性化政策１：都市、福祉
第９講　グローバル化の中の市民社会活性化政策２：教育、自治体
第10講　グローバル化の中の対外政策１：外交、安全保障
第11講　グローバル化の中の対外政策２：開発援助、平和協力
第12講　国際公共政策の評価と今後の課題
第13講　単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

公共政策学（足立幸男・森脇俊雅編著　ミネルヴァ書房）
国際行政学（福田耕治著　有斐閣ブックス）
国際公共政策（進藤栄一著　国際公共政策叢書２　日本経済評論社）

国際協力特講

ブイ チ トルン

【授業の概要】

国際協力の新しいアプローチの理念、政策、実施体制を学ぶとともに、グローバル・イシューへの新しいアクターとして、非政府組織（NGO）や地方自治体の動きを発展的に検証する。

【授業計画】

A．総論：
　1．国際協力の潮流：欧米・アジア・日本
　2．New Approach：人間の安全保障と世界平和の構築
B．各論：
　1．国際協力活動の現状：
　　＊政府・中央省庁・外務省・JICA（ODA関係）
　　＊地方自治体の国際協力、CLAIRとモデル事業
　　＊NGO：創設期>成熟期>発展期
　2．組織運営論：
　　＊個別活動：組織運営・会員獲得
　　・活動基礎構築のために：内部要因としての理念・目標・運営形態
　　・活動展開のために：環境整備
　　・協力者・協力体制の構築
　　＊協働活動：
　　・地方自治体とNGO
　　・ジャパン・プラットフォーム等の事例検討
　　・協働の可能性・現状と今後の課題
　3．その他：毎週一つのNGO活動を紹介、組織運営等について議論を行う

【評価方法】

授業への参加状況と期末レポート提出による。

【テキスト】

プリント配布及び授業時に指示する。

【参考文献・資料】

開講時に指示する。

国際経済特講

宮川泰夫

【授業の概要】

国際経済の体系的な発展を学び、グローバル経済の有効性と問題点を検証し、今後のあり方を学習する。

【授業計画】

国際経済論序説　－国際経済とは－
第１回　国民経済と国内市場（貿易の意味）
第２回　国際経済と国際市場（関税の意義）
第３回　世界経済と世界市場（資本の原理）
第４回　地球経済と地球市場（社会の原則）

国際地域経済論　－自由貿易の限界－
第５回　欧州共同体の拡充と分化（EUの限界）
第６回　北米自由貿易地域の拡大と世界市場の限界（NAFTAの本質）
第７回　拡大アセアンの形成と開発途上国経済の変質（ASEANの矛盾）
第８回　極東経済の連動と日本経済の革新（日中の両輪）

国際経済特講　－貢献と構造－
第９回　地域公害と地球環境（環境の保全）
第10回　経済難民の派生と外国人労働力（人権の保護）
第11回　ODAの制度と国際協力の体制（協力の意義）
第12回　世界経済の変質と厚・環産業の興隆（貢献の意味）

国際経済総論　－革命と維新－
第13回　近代産業革命と情報産業革命（英国と米国）
第14回　現代産業革命と地球文明の創成（文化と技術）
第15回　単位の認定と理解の深化（総括と結論）

教科書に沿って、わかりやすく、現実的問題を共に考え、解決する力を養うように授業はすすめる。

【評価方法】

出席状況（10点）授業態度（10点）課題レポート（40点）認定試験（40点）
レポートは受験資格

【テキスト】

平和の海廊と地球の再生（宮川泰夫　大明堂）
地域の変革と文明の変質（宮川泰夫　大明堂）

【参考文献・資料】

国際工業配置論（宮川泰夫　大明堂）
地域の創成と文明の開化（宮川泰夫　大明堂）
メガロポリスを超えて（宮川泰夫訳　鹿島出版）

国際秩序特講

家本博一

【授業の概要】

国際秩序の今後の方向性を経験的に示唆するために、歴史の視野とリアリズムに加えて、これまでの理論を発展的に捉え直し、とくに国際経済諸現象を分析する視点を学ぶ。

【授業計画】

本授業では、国際秩序の発展動向の一つとして注目されている20世紀における欧州国際政治経済秩序の構築過程について、歴史的な視座と国家間関係という視座をタテ軸とヨコ軸として現実の展開過程での様々な出来事を整理した上で、その固有の特徴と問題点を明らかにする。その際、本授業では、第一次世界大戦前から欧州連合「第５次拡大」（2004年５月）に至る歴史過程を射程とする。また、本授業では、欧州国際秩序の展開過程への「開放経済化」、「市場経済化」、そして「経済・金融のグローバリゼーション」の影響についても、「現代社会主義」の自己崩壊及びその後の体制移行過程と併せて論じることとする。

<授業の進め方>
1．「第一次世界大戦」前における欧州の「五大帝国体制」
2．「第一次世界大戦」と「ロシア革命」
3．「ロシア革命」とその後－「ベルサイユ体制」の欧州とソ連邦
4．「第二次世界大戦」前の「スターリン時代」と欧州－
5．「第二次世界大戦」中の「スターリン時代」と欧州－
6．「第二次世界大戦」後の「スターリン時代」と欧州－
7．スターリン後における東西欧州の変動－1950年代中頃～後半
8．東西欧州関係の「確立」と「変貌」－1960年代
9．東西欧州関係の「新たな展開」－1970年代
10．東西欧州関係の「地殻変動」－1980年代
11．欧州統合・拡大への歩み（１）－1990年代前半
12．欧州統合・拡大への歩み（２）－1990年代後半
13．欧州統合・拡大への歩み（３）－21世紀初め
14．欧州国際秩序の現在- 欧州統合とユーロ圏の東方拡大へ
15．欧州国際秩序の今後の基本方向

本授業では、受講生の理解を深めるため、適宜、インターネット上の各種情報、ビデオ・DVD教材、地図、年表なども利用する。

【評価方法】

・出席状況、課題レポート、討論という三つの点を総合的に評価する。

【テキスト】

ショック療法から真の療法へ- ポスト社会主義の体制移行
（グジェゴシュ・コウォトコ著　家本博一・田口雅弘・吉井昌彦共訳　三恵社　2004年）
ポーランド「脱社会主義」への道- 体制内改革から体制転換へ
（家本博一著　名古屋大学出版会　1994年）

【参考文献・資料】

中欧の体制移行とEU加盟（上）－チェコとスロヴァキア（桑原進著　三恵社　2003年）
中欧の体制移行とEU加盟（下）－ポーランド（家本博一著　三恵社　2004年）
関連年表と講義概要は、授業の際に配布する。
なお、インターネット情報も活用するので、授業の中でPCを利用することを勧める。

ロシア語特講Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目標として、演習形式で学ぶ。

【授業計画】

基本テキストとして『ロシアの日本人～中・上級者用ロシア語（会話編）』を使用し、円滑なコミュニケーション能力の獲得を目指す。また、サブテキストとして時事ニュース等のプリントを随時使用し、正確な読解能力の獲得を目指す。

基本テキストは、ロシアに住む日本人が友人のロシア人とさまざまな会話をするという形式で書かれていて、学習者がロシアでの生活を疑似体験できるように構成されている。また、日本の文化を外国人に詳しく紹介する際に必要な知識（教養）や語彙についても具体的に学ぶことができる。

半期間で、基本テキストの第１課から第30課までを学習する予定。

【評価方法】

授業での予習状況や学期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

ロシアの日本人～中・上級者用ロシア語（A.シューキン・実藤正義　会話編　ナウカ）

【参考文献・資料】

サブテキストとして、時事ニュースやエッセイなどを授業中に随時配布する。

ロシア語特講Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

より高度なロシア語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標にして、ロシア語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

ロシア語特講Ⅰに引きつづき、『ロシアの日本人～中・上級者用ロシア語（会話編）』を基本テキストとして使用し、円滑なコミュニケーション能力の獲得を目指す。また、サブテキストとして『ロシア語作文の基礎』を使用し、より正確な意思伝達の能力の獲得を目指す。

半期間で、基本テキストの第31課から第60課までを学習する予定。また、サブテキストの第１課から第15課までを学習する予定。

【評価方法】

授業での予習状況や学期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

ロシアの日本人～中・上級者用ロシア語（A.シューキン・実藤正義　会話編　ナウカ）

ロシア語作文の基礎（佐藤靖彦　ナウカ）

【参考文献・資料】

時事ニュース等のプリントを授業時に随時配布する。

韓国語特講Ⅱ

チョ スルソップ

【授業の概要】

より高度な韓国語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標にして、韓国語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

1．公文書を書く
　（1）知人に手紙を出す。
　（2）履歴書を書く。
　（3）自己推薦状を書く。
2．韓国語で紹介する
　（1）日本の伝統文化を紹介する。
　（2）自社商品を紹介する。
　（3）一日の過ごし方を紹介する。
3．論文を書く
　（1）文学論を題材に
　（2）歴史を題材に
　（3）文化論を題材に
4．コミュニケーションの能力を高める
　（1）慣用語句を身につける。
　（2）間違いを正す。
　（3）状況を説明し要請を断る。
5．総合

【評価方法】

出席状況、講義前後の準備度、授業内ならびに学期末テストの成果を総合して評価する。

【テキスト】

実践が中心。テキストは特になく、必要に応じてプリントなどで対応する。

【参考文献・資料】

韓国の風雅
韓国文化史
韓国美の探求
韓国の伝統思想と文学など（成甲書房　韓国文化選書シリーズ）

韓国語特講Ⅰ

チョ スルソップ

【授業の概要】

韓国語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

1．韓国語で読むニュース。
　（1）国内政界・財界の動向
　（2）国際社会の動向とその理解
　（3）韓国伝統文化の紹介
　（4）外国文化の理解
2．韓国語で聴くニュース
　（1）天気予報を聴く。
　（2）街頭遊説を聴く。
　（3）広告放送を聞く。
　（4）ラジオのドラマを聴く。
3．論文を読む
　（1）韓国文学論について
　（2）世界史論について
　（3）韓国文化論について
　（4）国際文化論について
4．有用な韓国語表現

【評価方法】

出席状況、講義前後の準備度、授業内ならびに学期末テストの成果を総合して評価する。

【テキスト】

新聞の社説、ラジオの放送、学術論文などを用いる。

【参考文献・資料】

韓国の風雅
韓国文化史
韓国美の探求
韓国の伝統思想と文学など（成甲書房　韓国文化選書シリーズ）

中国語特講Ⅰ

周 国龍

【授業の概要】

中国語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

学生の中国語の習得状況を見て、発音、会話の練習、文法事項の練習などをする。

中国語の文法と構文を日本語の文法と構文を比較しながら、中国語の特質についての理解を深めつつ、中国語の会話能力、文章の読解力を養っていく。

第一講　自己紹介等
第二講　名詞を用いて会話練習
第三講　名詞を用いて作文練習
第四講　動詞を用いて会話練習
第五講　動詞を用いて作文練習
第六講　形容詞を用いて会話練習
第七講　形容詞を用いて作文練習
第八講　存在の「有」を用いて会話練習
第九講　存在の「有」を用いて作文練習
第十講　存在の「在」を用いて会話練習
第十一講　存在の「在」を用いて作文練習
第十二講　総合練習

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

後日指定

【参考文献・資料】

後日指定

中国語特講Ⅱ

周 国龍

【授業の概要】

より高度な中国語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標にして、中国語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

学生の中国語の習得状況を見て、学生の能力にあわせて、会話、作文、読解などの練習をする。

第一講　所有の「有」を用いて会話練習
第二講　所有の「有」を用いて作文練習
第三講　「副詞」を用いて自由会話及び作文
第四講　「連詞」を用いて自由会話および作文
第五講　「介詞」を用いて自由会話及び作文
第六講　短文読解の練習及び作文練習
第七講　中国政治に関する文章の読解及び作文練習
第八講　中国経済に関する文章の読解及び作文練習
第九講　中国の風俗習慣に関する文章の読解及び感想発表
第十講　中国の地域紹介に関する文章の読解及び感想発表
第十一講　ニュースに出た中国関連記事の翻訳練習と会話
第十二講　ニュースに出た中国関連記事の翻訳練習と作文

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

後日指定

【参考文献・資料】

後日指定

フランス語特講Ⅱ

清水ベアトリックス

【授業の概要】

より高度なフランス語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標にして、フランス語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

フランス語特講Ⅰに引きつづき、文法の基礎を深めつつ、コミュニケーション能力と文章の読解力を養っていく。

1）詩を読む、詩について話す：Jacques Prévert
2）詩を読む、詩について話す
3）詩を訳す、詩を書く
4）現代文学を読む、現代文学について話す：André Camus
5）現代文学を読む、現代文学について話す
6）現代文学を読む、現代文学について話す
7）フリー・ライチンッグ
8）芝居の台本を読む
9）演劇
10）新聞を読む
11）新聞を読む
12）映画鑑賞
13）映画鑑賞
14）映画の感想を書く
15）フリー・ライチンッグ

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合てきに評価する。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

後日指定

フランス語特講Ⅰ

清水ベアトリックス

【授業の概要】

フランス語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

教科書を基にして、フランス語の文法の基礎を学ぶ（または復習する）。文法のポイントを深めるため、「読む」、「書く」、「話す」練習をする。

－発音のルール；動詞avoirとêtre；人称代名詞；基本文型
－名詞、冠詞、形容詞
－動詞：規則動詞の活用
－否定文、疑問文、疑問詞
－所有形容詞、指示形容詞
－動詞：不規則動詞の活用
－動詞：動詞 pouvoir, savoir, devoir, aller, venirの用法
－過去形（1）
－過去形（2）
－目的語人称代名詞
－代名動詞、比較級
－関係代名詞を使った文
－直接法、受動態
－条件法
－接続法

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合てきに評価する。

【テキスト】

ゼフィール、フランス語文法の基礎（E.E.F.L.E.U.K.　早美出版社）

【参考文献・資料】

後日指定

通訳特講Ⅰ

中村幸子

【授業の概要】

日英語間の通訳に必要となる基礎知識と技能を習得するとともに、通訳の準備作業として不可欠な情報収集の具体的方法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

Authenticな教材を使用。通訳者養成のために一般的に採用されている各種通訳訓練法を行い、即解力、即応力、口頭表現力、語彙力を飛躍的に高めながら通訳スキルの向上を目指す。通訳に必要な背景知識を得るため様々な分野の資料の訳出を含めた分析を行い、知的ベースの充実も目指す。

第１回　通訳概要
第２回　英日逐次通訳の基礎１
第３回　英日逐次通訳の基礎２
第４回　英日逐次通訳の基礎３
第５回　資料分析１
第６回　日英逐次通訳の基礎１
第７回　日英逐次通訳の基礎２
第８回　日英逐次通訳の基礎３
第９回　資料分析２
第10回　英日・日英逐次通訳の実践１
第11回　英日・日英逐次通訳の実践２
第12回　英日・日英逐次通訳の実践３
第13回　資料分析３
第14回　英日逐次通訳の仕上げ
第15回　日英逐次通訳の仕上げ

【評価方法】

出席（非常に大切）、授業内でのパフォーマンス、リサーチ課題、および単位認定試験の結果などにより評価。

【テキスト】

オリジナルテキストを授業開始時に配布、およびオンライン配信。

【参考文献・資料】

Cecilia Wadensjo 1998 *Interpreting as Interaction* Longman
英語通訳への道（日本通訳協会編　大修館書店）
グローバル時代の通訳（水野真木子他　三修社）
トレンド日米表現辞典（小学館）
他

通訳特講Ⅱ

中村幸子

【授業の概要】

日英語間の通訳の際に起こる異文化コミュニケーションの問題についても考えながら、通訳技能のさらなる向上を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

逐次通訳の技術およびスタイルを確立するとともに同時通訳の技術について学ぶ。さらに内外の通訳研究の文献を講読し「通訳」という行為についても考察していく。最終的には国際会議形式で現代社会の諸問題についてのプレゼンテーションとその通訳を行う。

第１回　通訳概要
第２回　英日逐次通訳１
第３回　英日逐次通訳２
第４回　通訳理論１
第５回　日英逐次通訳１
第６回　日英逐次通訳２
第７回　通訳理論２
第８回　英日同時通訳１
第９回　英日同時通訳２
第10回　通訳理論３
第11回　日英同時通訳１
第12回　日英同時通訳２
第13回　通訳理論４
第14回　国際会議形式によるプレゼンテーションとパネルディスカッション逐次通訳
第15回　国際会議形式によるプレゼンテーションとパネルディスカッション同時通訳

【評価方法】

出席（非常に大切）、授業内でのパフォーマンス、課題、およびプレゼンテーション取り組み（録音または録画）により評価。

【テキスト】

オリジナルテキストを授業開始時に配布、およびオンライン配信。

【参考文献・資料】

Interpreter and Translator Training（Daniel Gile 1995 Benjamins Translation Library 他）

翻訳特講Ⅱ

難波豊子

【授業の概要】

翻訳技能のさらなる向上を目標として、英語と日本語の構造的な相違、話法・時制・句読法などについての言語学的知識を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

基本的な講義の進め方は前期の翻訳特講と同じ。各自がこなしてきた課題をクラス内で比較検討する。

1．前期に学習した基礎項目を復習しつつ、更に以下の短文での基礎的な練習を加える。
　1）品詞別訳し方
　　名詞、形容詞、副詞、動詞、その他
　2）省略した訳し方
　3）補足した訳し方
2．パラグラフ訳出練習。
　特に時制、話法等に注意

改めて、分かり易く、読み易い訳文とはどういうものかを、各自に認識して頂くのが目的。

実際の翻訳業務においては、訳文を読む対象者や、顧客の依頼により、訳し方が変わって来る。全文を必ず訳す必要は無く、要点を箇条書きにする、という依頼がある場合もある。11回目の講義以降は、実践に即した長めの翻訳に挑戦してもらう。

内容は、時事、産業翻訳等。

【評価方法】

出席状況、授業態度、宿題への取り組み等から総合的に評価する。

【テキスト】

毎回ドリル及び課題用プリントを配布。

翻訳特講Ⅰ

難波豊子

【授業の概要】

日英語間の時事翻訳・産業翻訳・文芸翻訳など、さまざまな分野の翻訳実践を通して翻訳技能を高めることを目標として演習形式で学ぶ。

【授業計画】

英語から日本語に翻訳をする場合、型にはまったような直訳になり易い。その癖を打破する為に、

1．短文レベルで基本的な翻訳練習を行い、英文と日本文の特徴を確認する。
　1）主語の扱い
　2）代名詞
　3）無生物主語
　4）関係代名詞
　5）受身
　6）比較
　7）仮定法
　8）強調構文
　9）WillとSome
　10）Until（Till）とBefore
2．纏まったパラグラフを訳す。

上記の２つのプログラムを毎回平行させて、基本姿勢が獲得出来ているかどうかを確認する。また、毎回宿題を提出してもらい、次回の講義でディスカッション形式で各自の訳出を比較検討する。

また、日本文から英文に訳す事も意識して、英文から日本文に訳す練習で英語表現力を強化する。

取り扱う内容は、時事、文芸他、日常の生活等。

【評価方法】

出席状況、授業態度、宿題への取り組み等から総合的に評価する。

【テキスト】

毎回ドリル及び課題のプリントを配布。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功実例を紹介し学習する。

【授業計画】

1．学校図書館の理念と教育的意義
　（1）学校教育における学校図書館の役割
　（2）館種別にみた図書館の世界
2．学校図書館の発展と課題
　（1）学校図書館法の成立と展開
　（2）国内外の先進事例
　（3）レファレンスサービスの実践
3．教育行政と学校図書館
4．学校図書館の経営
　（1）学校図書館の経営組織のあり方
5．司書教諭の役割とその問題点
6．学校図書館メディアの内容と構成
7．学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業計画】

1．教育課程と学校図書館
2．学習活動を促進する学校図書館――実践例
3．学校図書館の現状と問題点――蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4．各教科・科目の学習指導と図書館――実践例
5．「総合学習」における図書館利用
6．図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7．図書館実習――テーマ学習における司書教諭の指導について
8．討論――中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1．児童生徒が喜んで利用するメディア構成
　（1）現在の学校図書館メディアの実態分析
　（2）児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
　（3）児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2．教育課程にマッチしたメディア構成
　（1）教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
　（2）「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
　（3）「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3．情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
　（1）ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
　（2）FD、CD－ROM等の活字メディアに代わるもの
　（3）Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4．学校図書館メディアの組織化
　（1）分類の意義と分類作業の基本
　（2）目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編　樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務　新改訂第3版　第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な実例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1．読書のよろこび
　（1）人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
　（2）代表的な先人の読書経験から学ぶもの
　（3）受講者自身の学校図書館での本との出会い
2．人間形成と読書
　（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
　（2）少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
　（3）読書における、内省、思索の意義
3．学校教育における読書指導
　（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
　（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4．読書と仲間作り
　（1）家庭での読書についての親子の対話
　（2）友達同士の読書グループ、読書会
　（3）学区図書館を利用した共同研究
5．読書の技術
　（1）情報化時代の読書のあり方
　（2）愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

情報メディアの活用

東浦信博

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1．学校図書館と情報機器
　（1）学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
　（2）学校図書館に設置する情報機器
2．学校図書館とコンピュータとの関わり
　（1）図書検索とコンピュータ（OPAC）
　（2）インターネットを使用しての資料の収集
3．学校図書館の情報メディアの活用
　（1）視覚メディアとしてのVTR等
　（2）聴覚メディアとしてのDVD、CD等
　（3）活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

英語海外セミナーII（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

【Course Content】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

Japan's Global Interface

藤井正志　太田浩司　宮田 Susanne　ブイ チ トルン
國信潤子　梅田敏文　JOLLY, James A.　石橋善弘

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan' s global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業計画】

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
7	KUNINOBU, Junko	Gender Relations in Japanese Society
8	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
9	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
10	JOLLY, James	Developing International Business Practices
11	JOLLY, James	Developing International Business Practices
12	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences
13	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences

【評価方法】

Assessment will be based on attendance and/or a paper.
出席点及び教員ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントン D.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントン D.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

ASU TOEIC I G

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に２コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、４年間続けて履修できる。週１回に２単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習

第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅰ H

天野純子　太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

- 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- 前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- 演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
- 問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ H

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

- 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- 前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- 演習（リスニング・Reading）（30分）
- 問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ G

STEPHENSON, Brett　PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

- 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- 前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- 演習（リスニング・Reading）（30分）
- 問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2005 A

WRINGER, Paul

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)
Personal information
Travel & vacations
Strange phenomena
Entertainment
Crime & capital punishment
Controversy

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

To be announced.

上級英語セミナー 2005 A

CURRAN, Beverley

【Course Content】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005A」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。木曜日１限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

No text required.

上級英語セミナー 2005 B

CURRAN, Beverley

【Course Content】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibity for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self- confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

「上級英語セミナー2005B」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。木曜日１限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

No text required.

上級英語セミナー 2005 B

WRINGER, Paul

【Course Content】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)
The past
Current events in the news
Relationships
Food & Health
Fashion
The world of work

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

「上級英語セミナー2005B」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。木曜日１限（担当教員：WRINGER, Paul）、金曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

To be announced.

上級英語セミナー 2005 C

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。（ただし、１年生および編入生（１年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005C」は受講できない。）

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
　通訳一般概論　Sight translation
第二～十回
　The Student Timesからの記事使用（テープ）
　Shadowing, Sight translation, メモ取り
　逐次通訳演習
　同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005C」は、週２回コースの授業で４単位の科目である。水曜日３限（担当教員：横山綾子）、木曜日５限（担当教員：CHAMBERS,Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

上級英語セミナー 2005 C

CHAMBERS, Tim

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級セミナー2005C」は受講できない。）

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木5限（担当教員：Chambers, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson The CNN videotape

上級英語セミナー 2005 D

CHAMBERS, Tim

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木5限（担当教員：Chambers, Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【Textbooks】

Rethinking America 1 (the student book), Thomson The CNN videotape

上級英語セミナー 2005 D

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
　通訳一般概論　Sight translation
第二～十回
　The Student Timesからの記事使用（テープ）
　Shadowing, Sight translation,　メモ取り
　逐次通訳演習
　同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日5限（担当教員：CHAMBERS,Tim）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

上級英語セミナー 2005 E

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005E」は受講できない。）

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回
　通訳一般概論　Sight translation
第二～十回
　The Student Times からの記事使用（テープ）
　Shadowing, Sight translation,　メモ取り
　逐次通訳演習
　同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日3限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

上級英語セミナー 2005 E

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005E」は受講できない。）

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

1) Vocabulary tests
2) Preparation for (and participation in) class discussions
3) Listening comprehension activities
4) Attendance

「上級英語セミナー2005E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日3限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2005 F

WOODMAN, Jo-Anne

【Course Content】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article).

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

【Assessment】

Assessment will include the following components:

1) Vocabulary tests
2) Preparation for (and participation in) class discussions
3) Listening comprehension activities
4) Attendance

「上級英語セミナー2005F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日3限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2005 F

横山綾子

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO（First in First out）の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論　Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation,　メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況　平常の実技評価　Translation test

「上級英語セミナー2005F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日3限（担当教員：横山綾子）、木曜日3限（担当教員：WOODMAN, Jo-Anne）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

The Student Times　その他

英語海外セミナーII（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

【Course Content】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon.

The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

Japan's Global Interface

藤井正志　太田浩司　宮田 Susanne　ブイ チ トルン
國信潤子　梅田敏文　JOLLY, James A.　石橋善弘

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生（ただし交換留学による者）・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生（含む外国人留学生）である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan' s global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only)-Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業計画】

1	FUJII, Masashi	Introduction
2	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
3	OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
5	MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6	BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
7	KUNINOBU, Junko	Gender Relations in Japanese Society
8	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
9	UMEDA, Toshifumi	Information Technology and Information Ethics
10	JOLLY, James	Developing International Business Practices
11	JOLLY, James	Developing International Business Practices
12	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences
13	ISHIBASHI, Yoshihiro	Statistics in Social Sciences

【評価方法】

Assessment will be based on attendance and/or a paper.
出席点及び教員ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントン D.C.にあるCivil Society Consulting Group（CSCG）との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントン D.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group（CSCG）

【授業計画】

（事前研修）・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの５日間のインターン・１日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

ASU TOEIC I G

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に２コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、４年間続けて履修できる。週１回に２単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×７日×13回）とリスニング演習（60分×７日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第１回　オリエンテーションおよび模擬演習

第２回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

・１週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
・問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回=91時間）
リスニング演習（60分×７日）＝毎回７時間相当分
（合計　７時間×13回=91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅰ H

鈴木久子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。最高期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

- 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- 前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- 演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
- 問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ H

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

- 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- 前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- 演習（リスニング・Reading）（30分）
- 問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC Ⅱ G

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC Ⅰ」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC Ⅱ」から成る。半期に2コマ（Ⅰ、Ⅱの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回　オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回　演習・解説、Vocabularyテスト

- 1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- 前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- 演習（リスニング・Reading）（30分）
- 問題解説（25分）

第15回　模擬テスト

＊宿題　読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）
リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計　7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2005 A

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

（CURRAN, Beverley助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2005 B

難波豊子　CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、２人の担当教員による週２日の授業で１セット（４単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。４年間続けて履修できる。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、１回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

（CURRAN, Beverley助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日５限（担当教員：難波豊子）、木曜日５限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。